

宮 崎 県 総 合 博 物 館

年 報

令和3年度

No. 51

は じ め に

本館は、昭和 26 年に開館した県立博物館を前身とし、昭和 46 年 3 月に自然、歴史、民俗部門を併せ持つ総合博物館として開館しました。それ以来、昭和 47 年からの民家園の整備や平成 10 年の常設展示室の増設をはじめとした本館のリニューアル、平成 17 年度からの常設展の無料化などを行いながら、時代の変化や県民の多様化する知的好奇心に対応した展示や多彩な教育普及活動を展開してきました。

令和 3 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、5 月 10 日から 5 月 31 日まで臨時休館となり、「第 41 回 S S P 展～自然を楽しむ科学の眼～」は、予定した日数の半分の開催に止まりました。ゴールデンウィークイベントや普及講座等も中止することになり、県民の皆様に御迷惑をお掛けすることになりました。

一方で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら 2 年ぶりに開催しました夏の特別展「絶滅モンスター展 2021～恐竜 V S ほ乳類～」は、5 万人を超える方々に観覧いただきました。また、秋に開催しました特別展「発見！きのこランド」は、3 万人を超える方々に観覧いただき、それぞれ過去 5 年間で開催した特別展の中で、最高の入場者数を記録することができました。御支援、御協力いただきました皆様に改めてお礼を申し上げます。

このほか、船の科学館「海の学びミュージアムサポート」事業の採択を受け、9 つの海に関するイベントから成る「海ざんまい事業」を実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大により、一部イベントが中止となりましたが、12 月に公開した全長 16m のマッコウクジラ（川南の海岸に漂着）の骨格標本の展示は、大変好評でした。

また、地域に出向き本館の活動を紹介する「どこでも博物館」事業についても、コロナ禍の中で、計画していた 3 回の開催を実施することができました。特に県内で唯一離島にある島野浦小学校での開催は、多くの島民の皆様も参加していただき、総合博物館の活動について広く知っていただく機会となり、改めてアウトリーチ活動の重要性を再認識することになりました。

今後も引き続き、広く県民の皆様の声を伺いながら、学校や各種団体と十分な連携を図り、県民の皆様の楽しく開かれた生涯学習の場としての役割を果たしていけるよう、魅力ある事業と効果的な広報活動を展開して参りたいと考えておりますので、なお一層の御指導と御協力を賜りますようお願いいたします。

令和 4 年 4 月 1 日

宮崎県総合博物館

館長 岩切 喜郎

《 目 次 》

はじめに

I	基本理念と活動方針	1
1	基本理念	1
2	活動の基本方針	1
II	本館の概要	2
1	本館のあゆみ	2
2	組織・予算・施設	3
(1)	組織	3
(2)	予算	3
(3)	施設	4
3	第3期中期運営ビジョン（令和2年度～令和6年度）	6
III	事業の実施状況	13
1	調査研究	13
(1)	調査研究の基本的な考え方と目標	13
(2)	個別テーマ調査研究	13
(3)	水系別総合調査研究	15
(4)	調査研究報告会	16
(5)	基礎研修	16
2	資料の収集・保存	17
(1)	資料の収集	17
(2)	資料の整理・登録	19
(3)	資料の保存	20
(4)	資料の修復	20
3	展示	21
(1)	常設展示	21
(2)	特別展示	25
(3)	エントランス展示・ロビー展示	31
(4)	民家園	33
(5)	利用状況	34
4	教育普及	44
(1)	学校教育支援	44
(2)	展示解説員による普及活動	47
(3)	博物館講座	50
(4)	「どこでも博物館」事業	53

(5) 民家園を活用した普及事業	5 4
(6) 関係機関との連携	5 6
(7) 福祉施設との連携	6 2
(8) レファレンス対応	6 2
(9) 博物館友の会の活動支援	6 3
(10) 研修室の利用	6 4
(11) 情報室の利用	6 5
5 海と遊べ！博物館「海ざんまい事業」	6 6
IV 情報発信及び経営	6 9
1 情報発信	6 9
(1) 広報推進委員会	6 9
(2) 博物館だよりの発行	6 9
(3) ホームページ等による情報発信	7 0
(4) 県広報紙等への掲載	7 0
(5) その他の広報及びイベント	7 4
2 経営	7 7
(1) 来館者のアンケート調査	7 7
(2) 職員の資質向上	7 9
(3) 危機管理	8 1
(4) 外部運営資金の獲得	8 1
(5) 県内にある博物館等との連携	8 2
V 宮崎県博物館協議会	8 3

[参考資料]

1 令和3年度 日誌抄	8 5
2 博物館の沿革	8 8
3 第3期中期運営ビジョン評価表（令和2年度分）	9 5
4 県総合博物館関係法規	1 0 3
(1) 宮崎県総合博物館条例	1 0 3
(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例（抄）	1 0 3
(3) 宮崎県博物館協議会条例	1 0 4
(4) 宮崎県総合博物館管理運営規則	1 0 5
(5) 宮崎県総合博物館処務規程	1 1 4
(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱	1 1 4
(7) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱の運用	1 1 7

I 基本理念と活動方針

1 基本理念

(1) 郷土に根ざした文化の向上に貢献する博物館

宮崎の自然史、歴史の資料を展示し、本県の教育や文化の発展に寄与する。

(2) 魅力ある開かれた博物館

県民のだれもが参加でき、楽しく学び、豊かな心を育てる。

(3) 研究を大切にする博物館

学術的な調査研究や積極的な資料収集を通して、新しい展示と情報の提供をする。

(4) 文化財や自然の保護に寄与する博物館

宮崎の自然史や歴史の資料を保管するとともに、本県の貴重な文化財や自然の保護に関する意識の醸成に努める。

2 活動の基本方針

(1) 調査研究

宮崎の自然史や歴史について、長期的展望にたって調査研究をすすめ、その成果は研究紀要や調査報告書にまとめ、展示や普及活動に生かすとともに、他の博物館、教育機関、研究機関と連絡を密にして情報の交換を行う。

(2) 収集保存

宮崎の自然史や歴史について、一次資料に限らず二次資料を含め、計画的かつ長期的な視野にたって収集する。収集した資料は、必要に応じて科学的な保存処理を行い、分類整理して保存するとともに、データベース化して収蔵資料に関する情報を提供する。

(3) 展 示

常設展示室では「宮崎の自然と歴史」をテーマに、実物資料・レプリカ・模型などで新鮮で分かりやすい展示を行い、県民の幅広い層に対応できる学習の場となるよう工夫する。特別展示室では、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を開催するほか、他の関係機関と共催で行う企画展や国内外からの巡回展も計画する。

(4) 教育普及

学校や他の教育機関等と連携を保ちながら、児童・生徒をはじめ県民の幅広い層に向けて講演会・見学会・各種講座等を開催し、学習や研究の場を提供する。

Ⅱ 本館の概要

1 本館のあゆみ

宮崎県総合博物館は、昭和 26 年に設立された「宮崎県立博物館」を前身とし、昭和 46 年に明治百年記念事業に伴う整備事業により、考古・歴史・民俗部門に自然と美術部門を併せ持ち、県民文化ホールを併設した総合博物館として現在の地で開館した。

また、昭和 47 年から昭和 53 年にかけて、本館東側に、県内に残っていたその地域独特の建築様式を持ち文化的価値の高い民家 4 棟を移築復元して「民家園」として整備しており、これにより現在運営している敷地内の施設レイアウトが概ね完成した。

それから四半世紀が経過し、常設展示内容の一新の必要性、生涯学習の場としての教育普及施設としての位置づけ、さらに美術部門の分離独立構想などにより再編整備の必要性が出てきたことから、平成 5 年から見直しに着手し、常設展示室を中心とする大幅なリニューアル工事を施した後、平成 10 年 5 月に、21 世紀に向けた文化施設にふさわしく、また楽しく開かれた体験型の博物館としてリニューアルオープンした。

この間、平成 7 年 10 月に、置県百年事業である県総合文化公園建設の一環として「県立美術館」が建設されたのを受けて、本館から美術部門が分離独立し、平成 8 年 4 月に、大規模開発に対応する発掘調査の拡大の中で、「県埋蔵文化財センター」が本館から分離独立した。また、本館の構成施設であった「西都原資料館」が平成 15 年 9 月末に閉館し、平成 16 年 4 月開館の「西都原考古博物館」に吸収されるとともに、本館構成施設の「西都原古代生活体験館」も同博物館に移管されるなどの組織改編が行われた。

その後、平成 17 年 4 月からの常設展の無料化や、平成 19 年 3 月の県民文化ホールの閉館を経て、平成 21 年度に、多様化する県民ニーズを踏まえ博物館事業を効率的かつ効果的に展開していく観点から、今後 5 カ年間の運営指針となる「中期運営ビジョン（H22-H26）」を策定し、そのビジョンに基づき、平成 22 年度から本県の特徴ある自然や歴史・民俗についての調査研究や、その成果を広く展示や多彩な教育普及活動に活かすなど各種事業を総合的かつ計画的に展開しており、現在は 3 期目の運営ビジョン（R2-R6）に基づき事業展開を図っている。



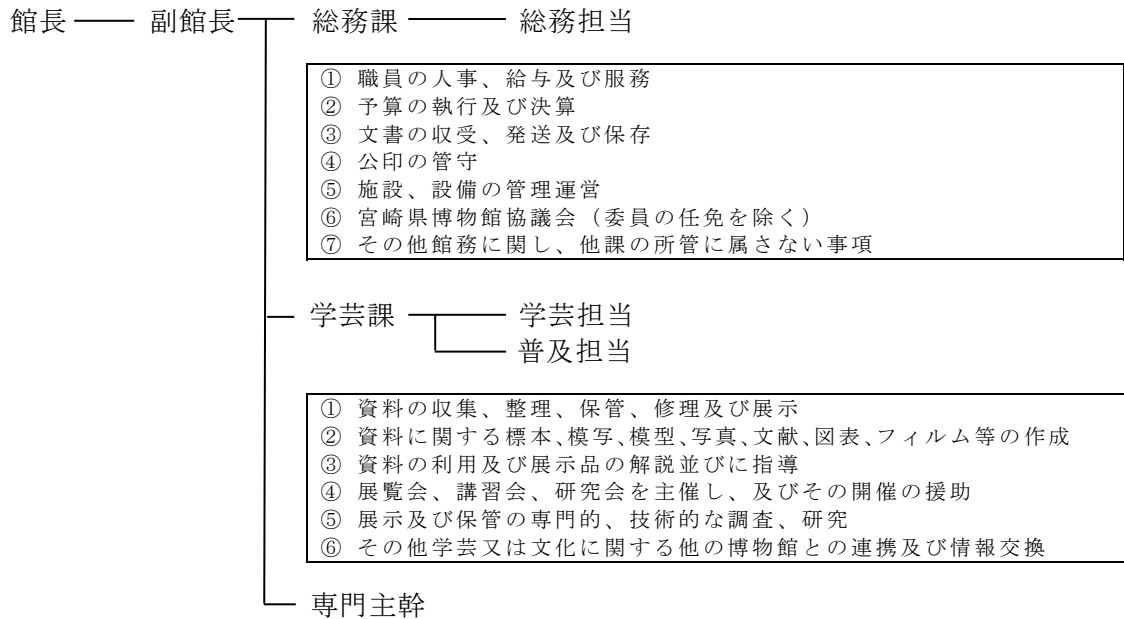
本 館



民家園

2 組織・予算・施設

(1) 組織



【令和3年度職員】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	川 口 泰 夫	学芸課 課 長	福 松 東 一
副館長	長 友 由美子	学芸担当リーダー 副主幹	中 山 貴 義
専門主幹	長 峯 勝 志	主 査	永 田 文 昭
		主 査	田 口 道 士
総務課 課 長	片伯部 真 一	主 査	濱 田 真 理
総務担当リーダー 副主幹	津 田 左 知	主 査	河 野 弘 行
主 査	高 橋 由紀子	普及担当リーダー 主 幹	黒 木 秀 一
主 査	山 口 新 一	主 査	二 宮 満 夫
		主 査	平 松 憲 太 郎
		主 査	竹 下 隼 人

(2) 予算

【令和3年度当初予算：167,744千円】

ア 博物館費：

143,007千円

- ・博物館協議会費（177千円）
- ・学芸員養成研修（233千円）
- ・管理運営費（138,926千円）
- ・老朽化対策事業（3,671千円）

イ 博物館教育普及費： 20,659千円

- ・特別展費（16,741千円）
- ・博物館講座等（3,918千円）

ウ 博物館資料整備費： 3,874千円

- ・調査研究費（1,035千円）
- ・資料収集費（2,839千円）

エ 文化財保護顕彰費： 204千円

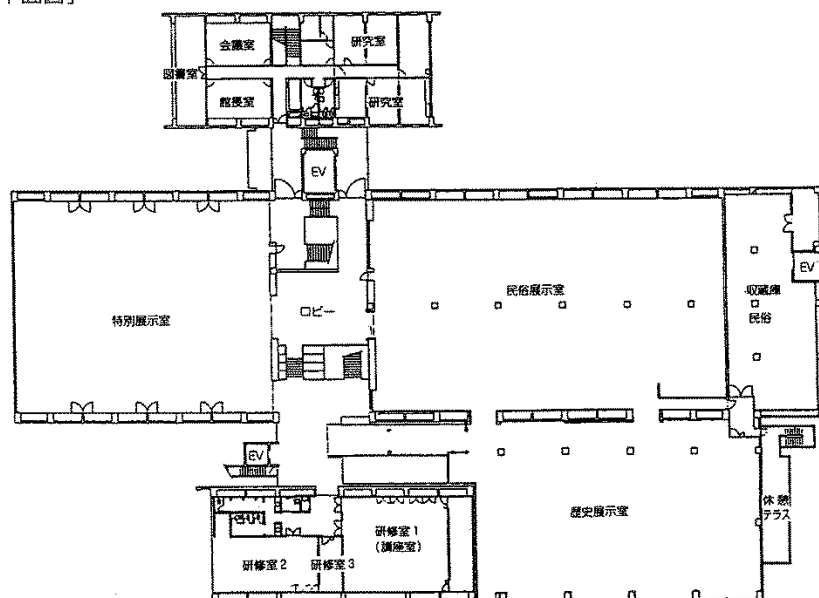
- ・みやざきの民俗芸能保存継承事業
- 「神楽・民俗芸能保存継承事業」（204千円）

(3) 施設

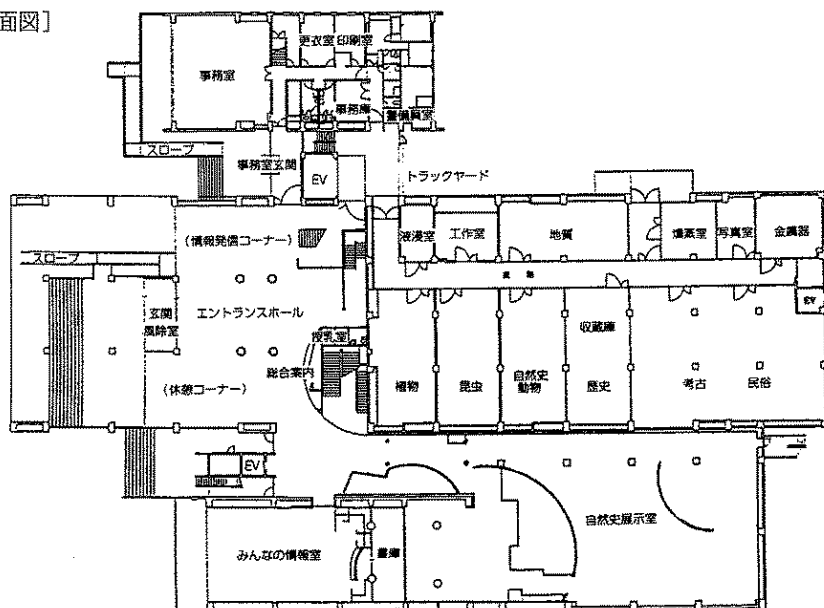
① 本館

○ 構造	鉄筋コンクリート2階建	
○ 規模	建築面積	4,122.29 m ²
	延床面積	7,366.74 m ²
施設	常設展示室	2,645.80 m ²
	(自然史展示室 :	844.20 m ²)
	(歴史展示室 :	767.70 m ²)
	(民俗展示室 :	1,033.90 m ²)
	特別展示室	751.68 m ²
	その他(収蔵庫・事務室等)	3,969.26 m ²

[2階平面図]



[1階平面図]



② 民家園

○ 構 造 木造平屋建寄棟造 茅葺（4棟）

【国指定重要文化財】

- ① 旧藤田家住宅 90.44 m²
- ② 旧黒木家住宅 131.88 m²

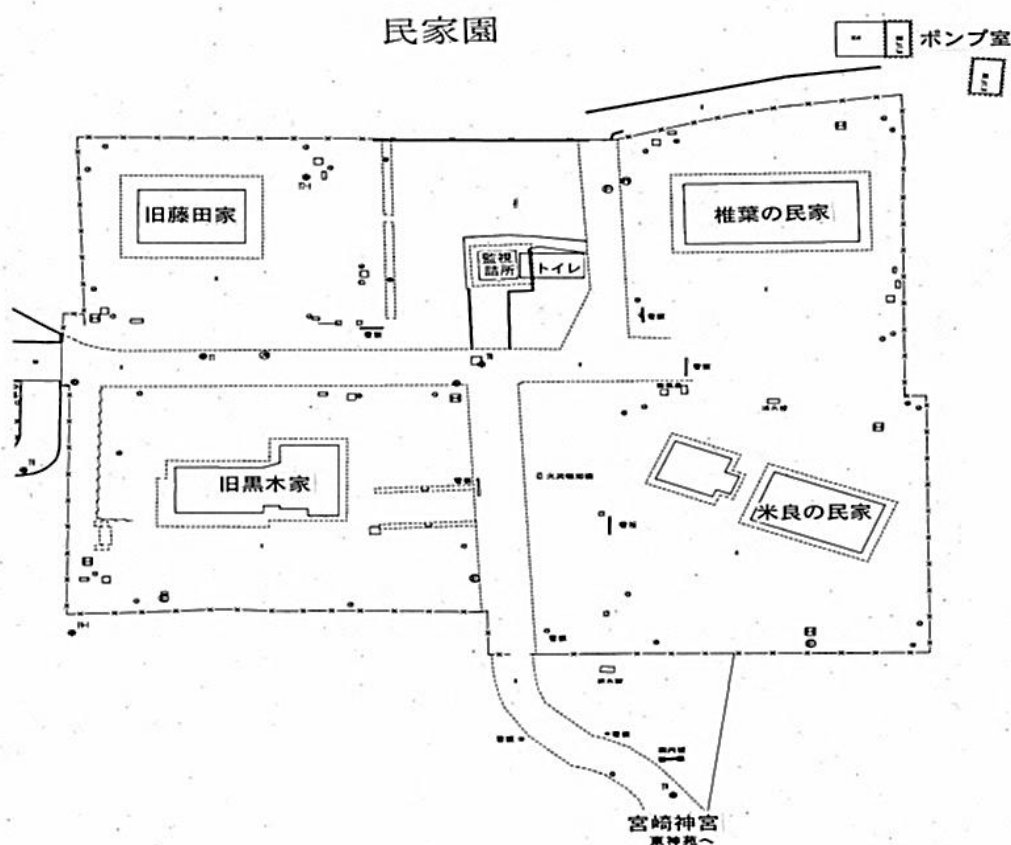
【県指定有形文化財】

- ③ 米良の民家 110.13 m²
（本屋：78.37 m²）
（馬屋：31.76 m²）
- ④ 椎葉の民家 137.97 m²

③ その他

- 屋外トイレ 70.19 m²
- ポンプ室 24.78 m²
- 詰所 13.25 m²

（出典：「公有財産台帳」）



3 第3期中期運営ビジョン（令和2年度～令和6年度）

(1) ビジョン策定の目的

宮崎県総合博物館は、昭和26年4月1日に設置された宮崎県立博物館を前身として、昭和46年3月に自然史及び人文系の総合博物館として開館した。その後、平成10年にはリニューアルを行い、広く本県の実育、文化の向上に寄与するため、資料収集・保存、調査研究、展示及び教育普及活動を展開し、学校、各種団体との連携を深めるとともに、展示解説員の配置、常設展示の無料化などを通じて、利用促進に取り組んでいる。

このような中、平成22年度から平成26年度までを第1期、平成27年度から平成31年度（令和元年度）までを第2期とした宮崎県総合博物館中期運営ビジョンを策定し、目標達成に向けて事業を展開してきた。今後とも、県内博物館の中核施設としての機能や教育機関としての機能を発揮し、宮崎県の自然や歴史に対する生涯学習や学校教育の多様なニーズにこたえる博物館であるために、また、事業の総合的・計画的な推進を図る運営指針とするため、新たに第3期宮崎県総合博物館中期運営ビジョンを策定するものである。

(2) ビジョンの期間

ビジョンの期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間とする。

(3) ビジョンの基本的考え方

県民とともにある博物館を目指すために、次の4項目をビジョンの基本的考え方とする。

- ① 郷土の調査研究を大切にする博物館
- ② 魅力ある開かれた博物館
- ③ 郷土に根ざした文化の向上に貢献する博物館
- ④ 文化財や自然の保護に寄与する博物館

(4) 博物館運営の基本方針

ビジョンの基本的考え方の下、次の4項目を博物館運営の基本方針とする。

- ① 調査研究
宮崎県の自然、歴史、民俗について、フィールドワークを重視し、総合的・広域的な視野に立って、他の博物館、教育機関、研究機関等と連携を密にして情報交換を行いながら、調査研究を進め、その成果を研究紀要や調査報告書にまとめ展示等の情報発信や普及活動に生かす。
- ② 収集・保存
宮崎県の自然、歴史、民俗に関して、一次資料（実物資料）に限らず二次資料（複製物等）を含め、地域の人々の参加と協力の下で、体系的・継続的に収集する。
収集した資料及び未整理資料については、必要に応じて科学的な保存処理を行い、分類整理して保存するとともに、データベース化して収蔵資料に関する情報を提供する。
- ③ 展 示
常設展示室では「宮崎の自然と歴史」を主題に、幅広い層の県民に対して興味と学習意欲を喚起するため、収蔵資料の展示替えを積極的に行いながら、実物資料、レプリカ、模型などを活かした分かりやすい展示を行う。
特別展示室では、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を開催するほか、他の関係機関と共催で行う企画展や国内外からの巡回展も積極的に開催する。
- ④ 教育普及
児童生徒をはじめ、県民の幅広い層の学校教育や生涯学習の場として、楽しく自由に学べる講演会・見学会・各種講座等を開催する。また、本県の貴重な文化財や自然の保護に関する意識の醸成に努める。

(5) 実施方針

(4)の基本方針を踏まえて、事務事業を推進するにあたっての方針は次のとおりとする。

① 調査研究

- ・ 調査研究は、博物館事業の根幹をなす重要な活動であることから、調査研究を行う環境を整備し、重点的に取り組む。
- ・ 資料の内容に関する学術的な調査研究のみならず、技術的な研究も実施する。
- ・ 県内外の研究機関や研究者と積極的に交流を行うとともに、県民に対して成果を公表する。

1) 調査研究成果の公表

研究成果については、展示や教育普及活動等に生かすとともに広く県民に公表する。

研究紀要の発刊	年 1 回
調査研究報告会の実施	年 1 回

② 収集・保存

資料の収集・保存は博物館の最も基本的な業務である。県民共有の貴重な資料を次世代に伝えるため、宮崎県の自然や歴史に関する資料を広く収集し、整理・保存の上、館内外の活動への活用を図る。

1) 収集・管理

- ・ 資料は、基本方針に基づき短期的・長期的展望にたって、寄贈、寄託、購入、採集、委託、提供等、各部門にふさわしい方法で積極的な収集に努める。ただし、寄贈等については、館内の資料受入委員会の審議を経て収集する。
- ・ 資料は、展示、調査研究、教育普及の博物館活動の充実を図る観点から、分野のバランスを考慮し継続的に収集する。
- ・ 関連書籍や文献、デジタルデータ等を収集し、調査研究機関としての機能充実を図る。
- ・ 収集資料（未整理資料を含む）の整理・登録を行い、データベース化を進めるとともに、デジタルミュージアム等を通じて公開する。

資料の収集	2,500 点（5 年間の合計）
図書・文献の収集	5,000 点（5 年間の合計）
収集資料の整理・登録	5,000 点（5 年間の合計）

2) 保存

定期的に収蔵庫・展示室を点検し、虫菌害の発生を防ぐ。また、虫菌害の発生を発見した場合は、速やかに適切な処置を施す。

トラップ調査	年 12 回（月 1 回）
I P M ウォッチング	年 12 回（月 1 回）

③ 展 示

展示は、見る人に興味を持たせ、発見・驚き・感動を与えたり、豊かな感性を育んだり、自ら学ぶ意欲を育てるなど、博物館を最も特徴づけるものである。県民の幅広い年代の要求に対応するとともに、展示物が身近に感じられるよう利用者の立場に立った展示に配慮する。さらに、新たな活用法や積極的な広報活動を行うために、福祉や観光等の関係機関との連携を図りながら利用者の増加に努める。

また、民家園 4 棟（国指定重要文化財 2 棟、県指定有形文化財 2 棟）の活用を進め、入園者増を図る。

本館入館者数及び民家園入園者数	年 17 万人
-----------------	---------

1) 常設展

常設展示は、宮崎県に関する情報発信の場として、自然、歴史、民俗の 3 展示室構成とする。展示資料については適宜見直しを検討し、部分的な展示替えやコーナー展示を行う。

展示替等回数	年 15 回
--------	--------

2) 特別展

特別展示は、調査研究の成果を活かした独自の企画展を実施するとともに、県民のニーズを参考に学術的意義を踏まえながら国内外の巡回展を開催する。

実施回数	年 3 回
------	-------

3) エントランス・ロビー展

本館エントランスと2階ロビーを活用し、時機を得た多様な展示やトピック展示、関係機関によるテーマ展示等を行い、県民の知的欲求に対応した情報提供に努める。

実施回数	年 15 回
------	--------

④ 教育普及

宮崎県の自然や歴史、更に伝統文化に対する理解を深めるために、展示活動に加えて学習機会を提供する。また、学校や教育機関等との連携を図り、博物館機能の充実及び利用促進に努める。

1) 学校教育支援

2020 年 4 月から改正される学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が改訂のポイントの一つとなっており、その実現に向けた授業改善の方法として「地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること」が重視されている。博物館に求められる学校教育に対する役割を果たす観点から、学校教育を積極的に支援する。そのため、学校への資料貸出しや授業支援を積極的に行うとともに、生徒の職場体験活動や教職員研修の受入れを図り、学校教育を補完する場として活用を図る。

授業支援 教員支援 学校への資料貸出し 職場体験学習の受入れ 博物館実習生の受入れ など	年 30 回
--	--------

2) 展示解説

利用者の理解を深めるために、展示室に「展示解説員」を配置し、時代背景等分かりやすく関心を持たせるよう資料の解説を行う。

また、専門的知識を持つ学芸員は、学術的な解説を行う。更に、より深く学習を望む利用者には、関係機関の情報を提供するなど学習意欲を喚起させる。

なお、解説に際しては、個人、団体を問わず、資料提供地域に重点をおいた解説に考慮するなど、利用者の興味や関心を引き出すよう配慮する。

実施人数	年 10,000 人
------	------------

3) 博物館講座等

普及講座や特別展開関連講座などを開催し、自然や歴史・文化に関する多様な体験・学習の機会を提供する。また、本館所在地から離れた地域に出向くアウトリーチ活動を継続的に実施するなど、多くの県民に対して学習の機会を提供する。

博物館講座等（アウトリーチ活動含む）	年 35 回（アウトリーチ活動 10 回）
--------------------	-----------------------

4) 民家園の活用

民家園の利活用を推進するため、特性を生かしたサービス活動を充実させる。また、民家園の理解促進を図る観点からボランティアの活動の充実を図る。

民家園事業の実施	年 25 回
----------	--------

5) 県内外の関係機関・研究者との連携

宮崎県の中核博物館として、県内外の博物館や資料館、研究機関、研究者との連携を図るため、職員の派遣・招聘、資料の貸し借り、研究会への参画、共催事業の開催など積極的に対応する。

職員の派遣 他機関等からの職員等の招聘 他機関等の視察や調査の受入れ 本館資料の館内利用、貸出し、出版物等への掲載 本館が他機関等から資料を借用 他機関への調査や視察 共催事業の実施	年 120 件
---	---------

6) 博物館と福祉施設との連携

「博物館で思い出を語ろう」事業などの取組みを通して、社会福祉施設等との連携を図る。

福祉施設との事業実施	年 80 回
------------	--------

7) レファレンス対応

日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも相談にのれる博物館」として来館及び電話・メール等での相談に応じ、県民の知的要求に応える。

8) 研究発表会の開催

自然や歴史に関する調査研究の中核施設として、研究団体や研究者の研究活動の支援を行うとともに、県民に学習の機会を提供し、自然や歴史の関心を高めるための研究発表会を開催する。

研究発表会の実施	年 1 回
----------	-------

⑤ 情報発信

博物館の利活用を促進し、博物館活動を充実させるため、館内の「広報推進会議」において広報効果の検証や検討を行いながら、報道関係機関やインターネットを利用した情報発信機能を強化する。

1) メディアを通じた情報発信

博物館の展示会や講座等のみならず、博物館に関するあらゆる情報を、広報紙をはじめ様々なメディアを通じて積極的に発信する。

広報紙発行	年 4 回
報道処理件数	年 50 件

2) インターネットによる情報発信

ホームページやSNSを利用した適時の情報提供に努める。

ホームページ更新回数	年 60 回
ホームページアクセス数	年 500,000 件
SNS 投稿回数	年 300 回

※ホームページアクセス数は、カウント方法変更により年目標 21,000 件相当となる。

⑥ 経 営

博物館は教育機関であるとともに、サービス機関であることを念頭に置き、全職員が「おもてなしの心」を持って利用者に対応するとともに、研修の充実等により職員の資質向上を図る。

1) 博物館協議会や県民の意見の尊重

博物館の運営に関し内部評価を実施し、宮崎県博物館協議会から意見を聴取する。また、来館者のアンケートや利用者の電話等による様々な意見を真摯に受け止め、より良いサービスが提供できるよう努める。

アンケート収集件数	年 2,000 件
集中アンケート実施回数 及び期間中満足度	年 4 回 (80%)
全体満足度	80%

2) 職員の資質向上

職員が博物館の社会的役割を自覚し、宮崎県の「自然や歴史に関する唯一の総合博物館」としての機能の充実・向上を図るために、研修機会の確保に努める。

研修の実施と参加	年 20 回
----------	--------

3) 危機管理体制の強化

地震等の自然災害や火災・病人発生等の危機に対して迅速に対応するため、防災訓練を実施するなど危機管理体制の強化を図る。

防災訓練	年 2 回
------	-------

4) 外部運営資金の獲得

公的資金や企業等の外部資金に応募し資金の獲得に館全体で取り組むことにより、博物館事業を円滑に進めるとともに事業の充実を図る。

外部運営資金への応募件数	年 2 件
--------------	-------

⑦ その他

1) ビジョンの見直し

本ビジョンは本県財政計画の変更や組織改編などの財源や定数等に変更が生じた場合には、必要に応じて見直すものとする。

【宮崎県総合博物館第3期中期運営ビジョン内部評価基準表】

評価の基準

4:指標を大きく上回った(120%以上) 3:指標を達成できた(120%未満～100%)
2:指標をやや下回った(100%未満～80%) 1:指標を大きく下回った(80%未満)

方針	項目	評価指標		評価基準				評価				総合
				4	3	2	1					
(1) 調査研究	調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	研究紀要や報告書を年2回以上刊行できた。	研究紀要を年1回刊行でき、対象職員全員が執筆できた。	研究紀要を年1回刊行したが、対象職員のうち10割未満～8割以上の職員の執筆であった。	研究紀要を年1回刊行したが、対象職員の8割未満の執筆にとどまった。または、研究紀要を刊行できなかった。	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
		調査研究報告会	年1回	年2回以上実施し、対象職員全員が報告できた。	年1回実施し、対象職員全員が報告できた。	年1回実施したが、対象職員のうち、10割未満～8割以上の職員の報告にとどまった。	年1回実施したが、対象職員のうち、8割未満の職員の報告にとどまった。または、実施しなかった。	4	3	2	1	
(2) 収集・保存	①収集・管理	資料の収集	2,500点 (5年間合計)	<最終年度に評価> 資料を3,000点以上収集できた。	<最終年度に評価> 資料を3,000点未満～2,500点以上収集できた。	<最終年度に評価> 資料を2,500点未満～2,000点以上収集した。	<最終年度に評価> 資料を2,000点未満しか収集できなかった。	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
		図書・文献の収集	5,000点 (5年間合計)	<最終年度に評価> 図書・文献を6,000点以上収集できた。	<最終年度に評価> 図書・文献を6,000点未満～5,000点以上収集できた。	<最終年度に評価> 図書・文献を5,000点未満～4,000点以上収集した。	<最終年度に評価> 図書・文献を4,000点未満しか収集できなかった。	4	3	2	1	
		収集資料の整理・登録	5,000点 (5年間合計)	<最終年度に評価> 収集資料の整理・登録を6,000点以上行うことができた。	<最終年度に評価> 収集資料の整理・登録を6,000点未満～5,000点以上行うことができた。	<最終年度に評価> 収集資料の整理・登録を5,000点未満～4,000点以上行なった。	<最終年度に評価> 収集資料の整理・登録を4,000点未満しか行うことができなかった。	4	3	2	1	
	②保存	トラップ調査	年12回	トラップ調査を年15回以上実施できた。	トラップ調査を年15回未満～12回以上実施できた。	トラップ調査を年12回未満～10回以上実施した。	トラップ調査を年10回未満しか実施できず、虫菌害発生の危険性を抑制できなかった。	4	3	2	1	
		IPMウォッチング	年12回	IPMウォッチングを年15回以上実施できた。	IPMウォッチングを年15回未満～12回以上実施できた。	IPMウォッチングを年12回未満～10回以上実施した。	IPMウォッチング年10回未満しか実施できなかった。					
(3) 展示	①入館者数	本館入館者数及び民家園入園者数	17万人	20万4,000人以上	17万人以上	17万人未満～13万6,000人以上	13万6,000人未満	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
	②常設展	展示替等回数	年15回	年18回の展示替えを実施できた。	年18回未満～15回以上の展示替えを実施できた。	年15回未満～12回以上の展示替えを実施した。	年間の展示計画を実現できず、年12回未満の展示替えにとどまった。	4	3	2	1	
	③特別展	実施回数(主催事業)	年3回	主催事業の特別展を年4回以上実施できた。	主催事業の特別展を年3回実施できた。	主催事業の特別展を年2回実施した。	主催事業の特別展を年1回しか実施できなかった。または、全くできなかった。	4	3	2	1	
	④エントランス・ロビー展	実施回数	年15回	年間の展示計画を策定し、展示を18回以上実施できた。	年間の展示計画を策定し、展示を18回未満～15回以上実施できた。	展示を15回未満～12回以上行なった。	展示を12回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	
(4) 教育普及	①学校教育支援	授業支援、教員支援、資料貸出 職場体験学習受入れ 博物館実習生の受入れなど	年30回	学校教育支援を年36回以上実施できた。	学校教育支援を年36回未満～30回以上実施できた。	学校教育支援を年30回未満～24回以上実施した。	学校教育支援を年24回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
	②展示解説	実施人数	年10,000人	学芸課職員及び展示解説員による展示解説を12,000人以上が受けた。	学芸課職員及び展示解説員による展示解説を12,000人未満～10,000人以上が受けた。	学芸課職員及び展示解説員による展示解説を10,000人未満～8,000人以上が受けた。	学芸課職員及び展示解説員による展示解説を8,000人未満しか受けなかった。	4	3	2	1	
	③博物館講座等	博物館講座等 (アウトリーチ活動含む) ※博物館講座等は普及講座・特別展開連講座・民家園講座・「どこでも博物館」	年35回 (アウトリーチ活動10回)	博物館講座等を年42回以上(アウトリーチ活動12回以上含む)実施した。	博物館講座等を年42回未満～35回以上(アウトリーチ活動12回未満10回以上含む)実施した。	博物館講座等を年35回未満～28回以上(アウトリーチ活動10回未満8回以上含む)実施した。	博物館講座等を年28回未満(アウトリーチ活動8回未満)しか実施できなかった。	4	3	2	1	
	④民家園の活用	民家園事業の実施	年25回	民家園での各種事業を年30回以上実施できた。	民家園での各種事業を年30回未満～25回以上実施できた。	民家園での各種事業を年25回未満～20回以上実施した。	民家園での各種事業を年20回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	

(4) 教育普及	⑤関係機関との連携	職員の派遣 他機関等からの職員等の招聘 他機関等の視察や調査の受入れ 本館資料の館内利用、貸出し、出版物等への掲載 本館が他機関等から資料を借用 他機関への調査や視察 共催事業の実施 など	年120件	関係機関と年144件以上連携の機会を得ることができた。	関係機関と年144件未満～120回以上連携の機会を得ることができた。	関係機関と年120件未満～96回以上連携の機会があった。	関係機関と年96件未満しか連携の機会がなかった。	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
	⑥博物館と福祉施設との連携	福祉施設との事業実施	年80回	「博物館で思い出を語ろう事業」などを年96回以上実施できた。	「博物館で思い出を語ろう事業」などを年96回未満～80回以上実施することができた。	「博物館で思い出を語ろう事業」などを年80回未満～64回以上実施した。	「博物館で思い出を語ろう事業」などを年64回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	
	⑦レファレンス対応											
	⑧研究発表会の開催	研究発表会の実施	年1回	研究会・団体と連携し、研究発表会を年2回以上実施できた。	研究会・団体と連携し、研究発表会を年1回実施できた。		実施できなかった。	4	3	2	1	
(5) 情報発信	①メディアを通じた情報発信	広報紙発行	年4回	広報紙を年5回以上発行できた。	広報紙を年4回発行できた。	広報紙を年3回発行した。	広報紙を年2回以下しか発行できなかった。	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
		報道処理件数	年50件	報道処理を年60件以上行うことができた。	報道処理を年60件未満～50件以上行うことができた。	報道処理を年50件未満～40件以上行なった。	報道処理を年40件未満しか行えなかった。	4	3	2	1	
	②インターネットによる情報発信	ホームページ更新回数	年60回	ホームページの更新を年72回以上実施できた。	ホームページの更新を年72回未満～60回以上実施できた。	ホームページの更新を年60回未満～48回以上実施した。	ホームページの更新を年48回未満しか実施できなかった。	4	3	2	1	
		ホームページアクセス数	年500,000件	年600,000件以上	年600,000件未満～500,000件	年500,000件未満～400,000件	年400,000件未満	4	3	2	1	
		SNS投稿回数 ※Facebook、Twitter、Instagram	年300回	SNSに年360回投稿できた。	SNSに年360回未満～300回以上投稿できた。	SNSに年300回未満～240回以上投稿した。	SNSに年240回未満しか投稿できなかった。	4	3	2	1	
(6) 経営	①博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	年2,400件以上	年2,400件未満～2,000件以上	年2,000件未満～1,600件以上	年1,600件未満	4	3	2	1	平均値 (小数点第一位まで表記)
		集中アンケート実施回数及び満足度	年4回(80%)	集中アンケートを年5回以上実施でき、満足度96%以上となった。	集中アンケートを年4回実施でき、満足度80%以上となった。	集中アンケートを年3回実施し、満足度は80%未満～64%以上となった。	集中アンケートを年2回以下しか実施できず、満足度も64%未満であった。	4	3	2	1	
		全体満足度	80%	アンケート全体の満足度(よかった以上の割合)が96%以上となった。	アンケート全体の満足度(よかった以上の割合)が96%未満～80%以上となった。	アンケート全体の満足度(よかった以上の割合)が80%未満～64%以上となった。	アンケート全体の満足度(よかった以上の割合)が64%未満となった。	4	3	2	1	
	②職員の資質向上	研修の実施と参加	年20回	職員の研修の機会を年24回以上確保できた。	職員の研修の機会を年24回未満～20回以上確保できた。	職員の研修の機会を年20回未満～16回以上確保した。	職員の研修の機会を年16回未満しか確保できなかった。	4	3	2	1	
	③危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	防災訓練(避難訓練・消火訓練等)を年3回以上実施できた。	防災訓練(避難訓練・消火訓練等)を年2回実施できた。	防災訓練(避難訓練・消火訓練等)を年1回実施した。	防災訓練(避難訓練・消火訓練等)を実施できなかった。	4	3	2	1	
	④外部運営資金の獲得	外部運営資金への応募件数 ※県基金、公共機関助成金・補助金、民間の助成金・補助金等	年2件	外部運営資金の獲得について年3件以上応募できた。	外部運営資金の獲得について年2件応募できた。	外部運営資金の獲得について年1件応募した。	外部運営資金への応募ができなかった。	4	3	2	1	

Ⅲ 事業の実施状況

1 調査研究

(1) 調査研究の基本的な考え方と目標

① 調査研究の基本的な考え方

当博物館の基本理念及び活動の基本方針に基づき、特に次の点に留意している。

ア 県民に還元できるものであること。

イ 本館の設立目標に沿ったものであること。

ウ 将来展示等に活かされるものであること。

エ 科学的・客観的なものであること。

② 調査研究の目標

ア 館共通

宮崎の自然史と歴史に関する調査研究を行う。

イ 分野別

自然史分野：宮崎の自然に関する基礎研究を行う。

歴史分野：歴史・民俗を通してみる郷土の伝統と地域性の研究を行う。

(2) 個別テーマ調査研究

各部門の担当職員が、研究テーマを年度当初に設定し、単年度又は複数年度で計画的に調査研究を進めている。その成果については、研究紀要で報告するとともに、展覧会に反映させるなど、広く公開している。

① 令和3年度の個別研究テーマ

担当者	部門	研究テーマ	内 容	期間
田口道士	動物	宮崎神宮におけるモグラの生態について	モグラの生態について、宮崎神宮の森に生息するモグラを調査する。また、モグラ標本作製についても宮大と協力して進める。	3年
竹下隼人	動物	行滕川周辺におけるササラダニ類の種構成	行滕川周辺のササラダニ類の種構成を調べ、これまでのデータと比較する。また、生息環境の自然性を考察する。	3年
福松東一	植物	アスター属（キク科）の県内分布について	ヨメナとコヨメナの県北部地区の分布状況について調査し、分布の傾向を探る。	1年
黒木秀一	植物	県内の照葉樹林に発生する発光菌類について	照葉樹林に発生する発光きのこについて発生状況調査を行い、本県における菌類多様性の解明を進める。	3年
中山貴義	地質	清武地域の入戸火砕流堆積物の分布について	宮崎市清武町の入戸火砕流堆積物の分布を調査し、流入の様子を考察する。	1年

濱田真理	地質	地質部門収蔵資料データベースの整理と一部オンライン公開	地質部門収蔵資料の整理を進め、一部をS-Netへ公開し、当館所蔵資料活用の利便性を図る。	2年
二宮満夫	考古	古代・中世の日向国をめぐる社会景観の考古学的研究	宇佐八幡宮領宮崎荘を中心に、そこに住まう人々の多種多様な社会的景観を考古遺跡や遺物から復元を試みる。	3年
平松憲太郎	歴史	「五ヶ瀬川水系流域における治水・活用の歴史」～畳堤～	五ヶ瀬川水系流域の主な水害について振り返り、水害に対する先人の知恵と工夫によってつくられた「畳堤」について考察する。	4年
河野弘行	歴史	宮崎県の成立と近代化の歴史	九州各県の県庁所在地で、城下町でないのは宮崎だけである。なぜそのようになったのかを切り口に、宮崎県の成立過程について考察する。	3年
永田文昭	民俗	宮崎県の伝統芸能について －宮崎県における能楽の歴史について－	上井覚軒日記には、大中寺の法要で県内初めての能が舞われたことが記されている。本館へ寄贈された能衣装の研究と大中寺への現地調査まで宮崎県の能楽について考察する。	2年

② 令和3年度調査研究の報告書

本館では、調査研究の成果をとりまとめ広く公表するため、昭和47年度から研究紀要を発行している。令和3年度は第42^{しゅう}輯を発行した。

【宮崎県総合博物館研究紀要 第42輯】

著者	部門	題 目
竹下隼人	動物	行膝川周辺森林におけるササラダニ種構成について
福松 東一	植物	宮崎県内におけるキク科ヨメナ類の形態観察の一考察 2
山本好和・綿貫攻・原光二郎・黒木秀一・福松東一・松本美津・八木真紀子・盛口満	植物	宮崎県北部の向坂山および白岩山の地衣類
山本好和・綿貫攻・黒木秀一・松本美津・八木真紀子	植物	宮崎県日豊海岸および日南海岸の地衣類 補遺
濱田真理・中山貴義	地質	宮崎県五ヶ瀬町笠部より産出した後期三畳紀二枚貝化石
中山貴義・濱田真理	地質	特別展「絶滅モンスター展2021～恐竜VSほ乳類～」実施報告
平松憲太郎	歴史	五ヶ瀬川水系流域における治水・活用の歴史 ～畳堤～
永田文昭	民俗	宮崎の伝統芸能について ～宮崎県における能楽のはじまりと歴史について～

(3) 水系別総合調査研究

近年の開発や社会生活の変化などにより、私たちを取り巻く自然や人々の生活習慣が失われてきていることから、これらの貴重な自然や歴史に関する資料を記録に残すため、県内のエリアを設定して、動物・植物・地質・考古・歴史・民俗の6部門において、総合的かつ横断的な調査研究を行っている。自然環境の形成や人の営みの基本となる水系に着目して、平成27年度から県内の一級河川を対象にした総合的な調査研究を実施しており、平成27年度から令和元年度は小丸川水系に着目した調査研究を進め、調査報告書（研究紀要等）により、一定の成果を出すことができた。なお調査報告書は研究紀要第40輯と合本した。令和元年度からは県北地区の「五ヶ瀬川・北川水系」の調査研究に着手し、調査研究で得られた結果は調査研究報告会における発表や研究紀要により地域や本県全体に広く周知していく予定である。

① 【五ヶ瀬川・北川水系総合調査（令和2年度～5年度）】

部門	研究テーマ	内 容
動物	五ヶ瀬川水系の動物相について	五ヶ瀬川水系の上流に複数のポイントを設置し、生息する動物の生息状況・分布等を把握する。
植物	五ヶ瀬川源流部の白岩山周辺の植物相	白岩山の植物調査は1955年の報告において444種確認されたが、その後まとまった報告がないため、標本収集と分布を記録することで現段階での白岩山周辺の植物相を明らかにする。
地質	五ヶ瀬地域の秩父帯にみられる古生物相	五ヶ瀬地域の秩父帯からは様々な古生物化石が産出しており、この地域の中生代浅海性堆積層に注目し、古生物化石の見られる地層の分布と生物相について特徴を見出す。
考古	五ヶ瀬川・北川流域の弥生時代から古墳時代の遺跡の動態	五ヶ瀬川・北川流域の弥生時代から古墳時代前期の遺跡の報告書を集成し、集落と墓地から時期ごとの様相を明らかにする。
歴史	五ヶ瀬川・北川流域における治水・活用の歴史	五ヶ瀬川・北川水系流域を実際にフィールド調査するとともに、石碑の碑文、藩政資料・行政資料等をもとに用水開発の歴史を明らかにする。
民俗	川の道～五ヶ瀬川・北川を通して見た人々の暮らし～	五ヶ瀬川・北川が人々の生活にどのような影響を与えていたのか、交易・交通、川漁・食、年中行事・信仰等の習俗について、五ヶ瀬川・北川に関わる用具や画像等の資料調査、関係者への聞き取り調査、文献調査をもとに明らかにする。

(4) 調査研究報告会

毎年度、総合調査研究や個別テーマ調査研究などの状況報告と、学芸課職員の専門性の向上を図る目的で、調査研究報告会を実施している。令和3年度は、学芸課職員が調査研究の成果を報告した。当館職員28名の他、博物館協議会委員1名や県文化財課職員1名、等協議会加盟館員5名、県埋蔵文化財センター職員1名、前博物館協議会委員1名などがZoomによりリモート参加した。

実施日時：令和4年3月8日(火)

10:40～15:10

実施場所：本館 研修室1

参加者：37人（内、Zoomによるリモート参加9人）



調査研究報告の様子

【報告者・発表題目一覧】

報告者	部門	発表題目
田口道士	動物	宮崎神宮におけるモグラの生態について
竹下隼人	動物	延岡市行滕川周辺のササラダニ類
福松東一	植物	宮崎市内のヘゴ群落について
黒木秀一	植物	宮崎県の絶滅危惧菌類 ～県内におけるRDB菌類の現状～
中山貴義	地質	清武地域の火砕流堆積物について
濱田真理	地質	五ヶ瀬町笠部のモノチス類 (五ヶ瀬川・北川水系総合調査中間報告)
二宮満夫	考古	考古資料から見た宮崎荘北部周辺の土地利用
河野弘行	歴史	宮崎県の成立と近代化の歴史
平松憲太郎	歴史	五ヶ瀬川水系流域における治水・活用の歴史 ～畳堤～
永田文昭	民俗	宮崎県の伝統芸能について ＝宮崎県における能楽のはじまりと歴史について＝

(5) 基礎研修

学芸課の職員は、着任すると同時に専門的な業務や問い合わせ等に対応するとともに、調査研究を行わなければならない。そのため、総合博物館では、自然史・歴史の各部門（植物・動物・地質考古・歴史・民俗）の担当者として必要な基礎的な知識や技術を習得し、写真撮影技術などの基礎力を高める基礎的な研修（基礎研修）を行う機会を設けている。

基礎研修は、学芸課の職員がそれぞれ計画し、個人あるいは複数の職員で、部門を超えて協力しながら実施する。そして、標本の採集、資料の収集、史蹟調査、写真撮影、研究会への参加などを行い、成果を報告するとともに、収集した資料や写真データを保存している。

2 資料の収集・保存

県民のかけがえのない財産である文化財等の資料を、適切に収集・研究して本県の姿を明らかにするとともに、未来に向けて恒久的な保存を図ることは博物館の基本的な業務である。このため、本館では、宮崎の自然史や歴史に関する資料を、計画的かつ長期的な視野に立って収集するとともに、これらの収集資料を、分類整理・登録を行った上で、適切な保存に努めている。

収集名	点数（点）	保存内容	回数（回）
資料の収集	781	トラップ調査	12
図書・文献の収集	1,023	I P Mウオッチング	12
収集資料の整理登録	525		
合 計	2,329		

(1) 資料の収集

各部門の収集方針を設定し、その方針に沿って、採集、購入、寄贈、交換、寄託、製作、提供、移管などの方法により収集作業を行っている。特に、寄贈や寄託による資料の受入れに際しては、受入れの可否等を慎重に検討する観点から、関係職員で構成する「資料受入委員会」で審査することとしている。

① 令和3年度に収集した資料

	資料名	点数（点）	収集方法
動物	マッコウクジラ全身骨格標本	1	採集
	マッコウクジラの脳油	1	採集
	ダイオウイカのカラストンビ	1	採集
	貝殻標本	21	寄贈
	昆虫乾燥標本	24	採集
小 計		48	
植物	植物さく葉標本	455	採集
小 計		455	
地質	中生代哺乳類生体復元模型	1	購入
	宮崎層群基底ボーリングコア資料	1	寄贈
	教材用岩石鉱物等標本セット	40	提供
	国内産岩石鉱物等標本	200	提供
	軽石等火山噴出物標本	11	提供
	県内産化石標本	4	採集
	県内産岩石標本	9	採集
	県内産鉱物標本	4	採集
小 計		270	
考古	体験学習用鋳造シリコン型（画文帯神獣鏡）	1	購入
小 計		1	
歴史	稚児鎧	1	提供
	東京オリンピック・パラリンピック 聖火リレートーチ・関連資料	4	提供
	小 計	5	
民俗	ステレオ	1	提供
	神楽面	1	提供
小 計		2	寄贈 提供 購入 採集 移管
総 計		781	22 258 2 499 0

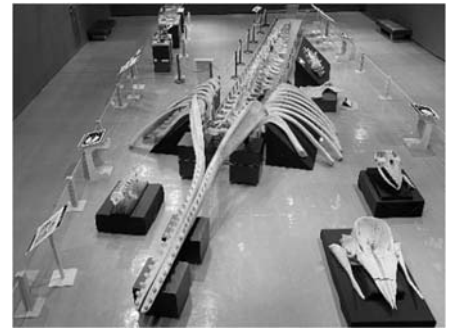
※主な新収蔵資料

【動物部門】

○マッコウクジラ全身骨格標本

本資料は上顎骨を欠くマッコウクジラの全身骨格標本である。マッコウクジラは、クジラ偶蹄目マッコウクジラ科に分類されるハクジラで、歯のある動物では世界最大であり、巨大な頭部形状が特徴である。

この個体は2014年4月15日に宮崎県川南町に打ち上がった個体であり、調査の結果、全長16.63m、34.5歳のオスである事が判明した。この標本の製作には、NPO 法人宮崎くじら研究会をはじめ、多くの団体が関わった。



マッコウクジラ全身骨格標本

【地質部門】

○中生代有袋類「ディデルフォドン」生体復元模型

本資料は、アメリカ・ワイオミング州産のディデルフォドンの下顎骨の化石を元に復元した模型である。

哺乳類は中生代に真獣類、有袋類、単孔類と、その他に進化し分かれた。有袋類は中生代末の大量絶滅を逃れ、現在も生息している。ディデルフォドンの体長等は現存のオポッサムに近いと考えられている。

所蔵する「ディデルフォドン下顎骨化石」と共に、恐竜時代の有袋類の姿を紹介する際に活用できる資料である。



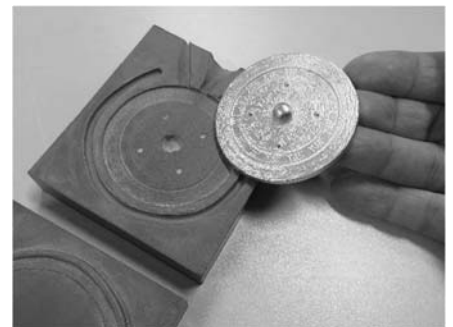
ディデルフォドン生体復元模型

【考古部門】

○体験学習用鋳造シリコン型（画文帯神獣鏡）

本資料は、博物館講座（考古部門）の新しい体験メニューとして、古墳時代の銅鏡の鋳造体験を取り入れるために、高鍋町持田古墳群出土の「画文帯神獣鏡」を元に作成した体験学習用の鋳造シリコン型である。

「画文帯神獣鏡」については、高鍋町持田古墳群出土のものが当館で保管されており、本物を実見しながら鋳造体験が可能であることから、体験学習における意義は非常に高く、考古部門の人気講座となることを今後期待したい。



体験学習用 鋳造シリコン型

【歴史部門】

○東京 2020 オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチ

本資料は東京 2020 オリンピック・パラリンピックに関連して本県で行われた聖火リレーで使用された聖火トーチである。長さ71cm、重さ1.2kgで、素材の一部には東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材が再利用されている。アルミ押出成形という新幹線の製造技術が使われており、継ぎ目のない形状をしている。日本を代表する桜をモチーフとしており、上から見ると桜の花びらの形をしている。オリンピックトーチは桜ゴールド色、パラリンピックトーチは桜ピンク色となっている。



東京 2020 オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチ

【民俗部門】

○神楽面

本資料は、昭和 50 年代に高千穂町で販売されていた資料である。今回、宮崎市内在住の一般の方から本館に提供していただいた。保存状態は良く、壁掛けの板から面だけを独立させ、顔にあてることもできる。神楽について興味・関心をもってもらうためにも講座やどこでも博物館等で積極的に活用したい。



神楽面

② その他の資料

ア 図書・文献等の収集 [1,023 点]

本館では、調査研究、展示、教育普及などの諸活動に必要な関連図書や文献、雑誌の収集を行っており、その大半は全国の博物館等施設や研究機関及び研究者等からの寄贈により受け入れている。令和 3 年度は 1,023 点を収集した。

イ デジタルデータの収集

本館では、調査研究等を行う際にデジタルカメラにより撮影した写真や、本館が所蔵する資料を学芸課職員又は業者の撮影により得られた写真・動画を、デジタルデータとして収集し、調査研究、資料リストの作成・登録、デジタルミュージアムへの掲載、他施設への提供などの際に使用している。

(2) 資料の整理・登録

① 資料の登録数

収集した資料は、保存と活用を目的に分類・整理し登録を行っている。令和 3 年度は 525 点の登録を行った結果、これまでに登録まで完了した資料は 14 万 9,028 点となった。

(令和 4 年 3 月 31 日)

分野・部門		資料数	令和 3 年度登録資料数(点)	登録資料数(点)	内訳		
					実物	標本	模型(複写)
自然史	動物		48	63,661	0	48	0
	植物		455	58,940	0	455	0
	地質		19	6,352	0	18	1
	計		522	128,953	0	521	1
歴史	考古		1	1,690	0	0	1
	歴史		0	5,337	0	0	0
	民俗		2	12,932	2	0	0
	計		3	19,959	2	0	1
美術 *	古美術(刀剣類など)		0	107	0	0	0
	近代美術(彫刻屋外展示など)		0	9	0	0	0
	計		0	116	0	0	0
総計			525	149,028	2	521	2

*美術品は本館に美術部門があった時から収蔵している資料。平成 7 年の県立美術館設置の際、刀剣類と屋外に展示している彫刻は移管されずに、そのまま本館の資料となった。

*内訳は統計法に基づく博物館調査票の項目

② デジタルミュージアムへのデータ登録 [221件]

県教育庁文化財課が平成14年度から運営するサイト「みやざきデジタルミュージアム」は、県内の文化や歴史に関する情報をデジタル化し、一元的なデータ整理・管理を行うとともに、インターネットにより広く地域や時間に偏りなく情報を提供することにより、郷土の文化に誇りを持つ人材の育成や観光振興、国際交流の促進に資することを目的に構築されたもので、本館をはじめ、県立美術館、県埋蔵文化財センター、県立西都原考古博物館が収蔵する資料の情報とデジタルデータを掲載している。本館は、令和3年度に221件の登録を行った。

(3) 資料の保存

資料の恒久的な保存を図るため、本館では、全職員で定期的な点検と清掃を行うことにより文化財に悪影響を及ぼす虫菌害を未然に防ぐIPM活動を基本としながら、薬剤による管理を補完的に行っている。

① モニタリング（トラップ調査） [年12回実施]

害虫の侵入及び発生状況を把握するため、粘着トラップを設置するとともに、捕獲した害虫の同定及び分析したものを報告書にて職員に周知した。

・ 設置場所…展示室・収蔵庫・エントランス（計80か所）

② IPMウオッチング [年12回実施]

虫菌害の発生の有無を調べ、資料保存に適した環境に改善するために、全職員による定期的な点検を行うとともに、点検結果を回覧し、情報の共有化を図った。

・ 点検場所…展示室・収蔵庫・エントランス・研修室・管理棟など

③ 収蔵庫内の目視・清掃 [12回実施]

IPM活動の一環として、収蔵庫内の環境を適切に保ち、資料の状態を確認することを目的に、毎月1回計画的に学芸課職員による目視・清掃を実施した。

④ 薬剤による管理 [年1回実施]

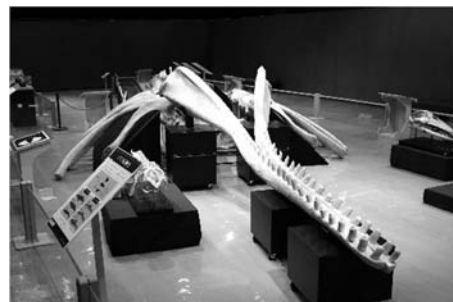
収蔵資料を虫菌害から守るために、収蔵庫のガス燻蒸を9月に実施した。

(4) 資料の修復

資料の劣化等が確認され修復が必要になった場合には、館内においてその都度修復作業を行うほか、特別な技術や知識を必要とする場合は、専門機関に委託して修復作業を行っている。

【動物部門】

2014年4月に川南町にデッドストランディングしたマッコウクジラを令和3年に骨格標本として収蔵した。本標本の頭部は上顎および頭部の損傷が激しく、復元ができなかった。下顎は採集した歯を接着し、先端の欠けた部分を補修した。また、左胸鰭の骨格の軟骨部分を製作し、骨格をつなぎ合わせてアクリル板に固定した。



マッコウクジラ下顎骨格標本

3 展示

本館の展示活動は、常設展示室で恒常的に資料展示を行う「常設展示」、特別展示室で特別なテーマを設定し会期を限って開催する「特別展示」、本館の1階エントランスホールや2階民俗展示室前のロビーを活用して行う「ロビー展示」、県内各地に残っていた独特の建築様式を持つ民家4棟を移築復元し展示に供している「民家園」から成っており、県民の幅広い層にとって学習の場となるよう工夫している。

(1) 常設展示

常設展示室は自然史、歴史及び民俗の3フロアからなり、宮崎の自然と歴史について、実物を中心に約8,000点の資料を使って分かりやすく紹介するとともに、解説等を行う展示解説員の配置や随時の資料入替えを行うことによりサービスの充実を図っている。

① 自然史展示室

本館1階にある自然史の常設展示は、「宮崎の森」「宮崎の水辺」「宮崎の大地」「宮崎の生物」「ふるさとの自然」の5つのコーナーから成り、学校教育はもちろんのこと生涯学習の場になるように、できる限り宮崎県の実物資料を中心に構築するとともに、生きものの生態などについては、ジオラマやレプリカ、模型等を使い、体験的装置や情報機器を導入することによって、来館者が肌で実感し、より親しめるよう工夫している。

また、屋外では、本館入口の北側に、串間市で発掘された縄文から弥生時代のクスノキや日之影町で採取された二枚貝のメガロドン石灰岩を展示している。

【宮崎の森】のコーナー

本県の自然の象徴である照葉樹の森やブナの森を実物やレプリカを通して表現するとともに、「森のにおい」「地表潜望鏡」「木の中の音」「フィールドスコープ」等の体験装置を設置している。また、一般に知られていない土壌中の生きものや身近なキノコ類の展示も行っている。さらに、「照葉樹林シアター」を備え、照葉樹林の一日を実感できる大人向けと子ども向けのプログラムを交互に上映している。



照葉樹林のジオラマとニホンジカ

【宮崎の水辺】のコーナー

河口や沿岸でみられる「干潟の自然」、川南町や高鍋町の大地に見られる「湿原の自然」、日南市と串間市にまたがる「サンゴの海」をジオラマで紹介している。また、磯の潮間帯の生きものや川の生きもの、本県と高知県でしか見られないアカメなど多くの標本を展示している。



干潟の自然のジオラマ

【宮崎の大地】のコーナー

本県の大地の生き立ちを解説するため、化石、鉱物、岩石標本を多数展示するとともに、随所で顕微鏡観察や触察ができるような工夫を行っている。

生物の進化のエリアでは、ティラノサウルスやヨロイ竜サイカニア、ナウマンゾウの全身骨格など各時代の化石を展示したり、地層や火山のエリアではビデオ映像による説明を行っている。また「地球シアター」では、地球と宮崎の大地の成り立ちや県内の地質について紹介している。



生物の進化のエリア

【宮崎の生物】のコーナー

本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれたことと、地史的な背景との絡みもあって、寒冷地から亜熱帯性の生きもの、さらに固有の生きものが生息している。これらの多様な生きものの世界の成り立ちやその生物の営み、宮崎に生息する植物の世界と動物の世界について、県内で収集した標本やその関連資料を用い、観覧者がより身近に感じることができるよう、多角的な視点から紹介している。



「宮崎の植物」のエリア

【ふるさとの自然】のコーナー

私たちの身の回りに見られるふるさとの代表的な自然の様子、その自然の中での人びとのくらしと変貌する生きものの世界、自然の保護と創出、大いに自然に触れる野外体験の勧めについて紹介し、今後の自然との共存や自然保護について考える機会を提供している。



「ふるさとの自然」のコーナー

② 歴史展示室

本館2階にある歴史の常設展示は、自然史展示室の照葉樹林ジオラマと関連づけた導入部と、通史的に構成する「日向のあけぼのに生きる」「古代から近世を生きる」「発展しつづける宮崎」の3つのコーナーから成り、人々の生活史を大きな柱として、現在の宮崎県域の約2万年前の旧石器時代から現代にいたる歴史の流れを紹介している。

【日向のあけぼのに生きる】のコーナー

旧石器時代から古墳時代までを、打製石器・磨製石器・縄文土器・弥生土器・須恵器などの各時代の発掘資料、花びら形住居や地下式横穴墓などの原寸大模型を使って紹介している。

また、本県で出土した金銅製馬具類（国宝、五島美術館蔵）、子持家形埴輪（重要文化財、東京国立博物館蔵）などの重要資料については、レプリカを製作し、展示している。



花びら形住居のジオラマ

【古代から近世を生きる】のコーナー

古代から近世までを、文書資料や発掘資料、実際に使用していた道具などを展示し、当時のできごとや人々の暮らしを紹介している。

特に日向国図田帳（東京大学史料編纂所蔵）、土持文書（県指定有形文化財、当館寄託）、宗麟原供養塔（国指定史跡）、錦の御旗など、この時代を代表する重要な資料はレプリカを製作し、展示している。また、江戸時代の延岡藩の庄屋資料である福良家資料（当館寄託）など、当時の人々の日常生活を読み取ることができる資料も展示している。



宗麟原供養塔と耳川合戦図屏風

【発展しつつける宮崎】のコーナー

明治時代以降の歴史について、実物資料や模型を展示し、当時のできごとや人々の暮らし、文化を紹介している。特に、「宮崎の近代化」のカラージュ写真や、「戦争と人々の暮らし」の灯火管制下の住宅内部の復元によって、当時の人々の暮らしをわかりやすく紹介している。

また、戦後の宮崎では、移築と一部復元を行った原寸大の昭和 30 年代文化住宅と時代のひろばが、歴史展示室の人気コーナーになっており、紙芝居やむかしの遊びなどの催しに利用している。



時代のひろばと文化住宅

③ 民俗展示室

本館 2 階の歴史展示室に隣接する民俗の常設展示は、「山にくらす」「里にくらす」「海にくらす」「いのりとまつり」の 4 つのコーナーから成り、国指定重要有形民俗文化財の「日向の山村生産用具」をはじめとする実物資料を中心に、原寸大の模型や映像、パソコン検索等を多用して、観覧者が実体験しながら楽しめる展示としている。

また、導入部に配置した「民俗へのいざない」では、炭焼き小屋のジオラマを展示し、宮崎の豊かな風土と人々の営みを表現し、中央に配置した「こころのロード」では、映像と音声により県内の代表的な年中行事と人々の精神世界を紹介している。

【山にくらす】のコーナー

山の恵みを生活に活かすための知恵や工夫、願いや感謝など山間部に見られる人々の暮らしを紹介し、映像や写真、人形等を用いて、現在では使われなくなった民具をどのように使用していたのかを観覧者が実感できるようにしている。また、焼き畑作業場兼住まいとして西米良村の山の中腹近くに建てられていた作小屋を原寸大で復元している。



山で使用する衣服等

【里にくらす】のコーナー

長い年月の間に受け継がれてきた主に農業の知恵と技術、豊作への願いや感謝など、日向灘に注ぐ川沿いに広がる盆地や平野に見られる人々の生活を紹介している。小学校の社会科の授業でよく利用されるため、児童が学習しやすいように、スキやセンバなどの使用方法を示した図を設置している。



里の農業で使用する農具

【海にくらす】のコーナー

カツオの一本釣りやマグロの延縄漁の道具、ブリ大敷網や大謀網の模型などを展示し、海の幸を生活の糧とするための様々な知恵と技術を紹介するとともに、大漁旗や船霊さまなどから大漁と航海の安全への願いを、カンカン部隊の道具から市場や行商を通した人々の生き生きとした経済活動と心のつながりを紹介している。



海の漁で使用する漁具

【いのりとまつり】のコーナー

山・里・海に生きる人々の安らかなくらし、豊作や大漁への祈りをこめた季節の祭や年中行事を紹介している。また、「神楽シアター」では、高千穂の浅ヶ部神楽をモデルに、神庭と外注連を再現するとともに、映像として、子ども向けの「神楽ってなあに？」と大人向けの「宮崎の神楽」を交互に上映して県内の神楽を疑似体験できるように工夫している。



神楽を紹介した写真パネル

④ 常設展示資料数

常設展示室に常時展示している資料数は、令和4年3月末日現在で7,691点である。また、収蔵庫の資料を活用して年16回35点の展示替えを実施し、展示内容の充実を図った。このうち歴史展示室と民俗展示室の接続部分に設置しているロビーケースでは考古部門による展示替えを6回実施し、館蔵の資料などを紹介した。

(単位：点)

展示室	部 門	実物資料	レプリカ	模 型	ジオラマ	計	展示替数
①自然史 展示室	動 物	3,627	54	10	6	3,697	1
	植 物	57	386	1		444	1
	地 質	429	19	7		455	13
②歴史 展示室	考 古	559	59	72	0	690	10
	歴 史	1,179	83	8		1,270	0
③民俗 展示室	民 俗	1,081	21	33	0	1,135	10
計		6,932	622	131	6	7,691	35

(2) 特別展示

本館2階にある特別展示室において、資料収集や調査研究の成果をまとめた独自の企画展を、他の関係機関から資料を借用するなど連携して開催した。また、巡回写真展を開催し、国内外の自然を幅広く紹介した。

① 「第41回SSP展 ～自然を楽しむ科学の眼～」

ア 会 期：令和3年4月24日（土）～6月6日（日）

臨時休館：5月10日（月）～31日（月） 開催日数：20日間

イ 主 催：宮崎県総合博物館、日本自然科学写真協会

ウ 展示内容

当館でのSSP展開催は今回で17回目となった。写真部門151点、動画部門11点の作品を展示した。また、本館収蔵資料の中から作品に登場する動物の剥製標本や乾燥標本（約22点）、植物・菌類のレプリカや乾燥標本（5点）及び、アンモナイトや岩石の標本（4点）、蛇腹式カメラなどの実物資料（2点）を展示したほか、イプシロンロケットの模型の展示も行った。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止策として、マスク着用、手指消毒、互いの距離をあけての静かな観覧を入場者に求めた。

※ 新型コロナウイルスの影響により、5月10日（月）から休館となったため、急遽SSP展オンラインを公式HP上で公開した。

エ 関連行事

○ 開会式およびガイドツアー 42名参加

日 時 令和3年4月24日（土）9：30～10：00

内 容 一日博物館長（小学生3名）によるテープカット、特別解説体験

東木場昭裕氏（自然写真家・SSP展写真展委員）によるガイドツアー

○ 子ども向け写真教室「生きものKids写真教室」 11名参加

日 時 令和3年5月2日（日）13：30～16：00

講 師 東木場昭裕氏（自然写真家・SSP展写真展委員）

福島英樹氏（元学芸課員・SSP展写真展委員）

新型コロナウイルスの影響で4名がキャンセルとなり、11名での実施となった。カメラの基礎知識や便利な機能などの説明の後、民家園にて撮影会を行った。子ども達が撮影した写真について講師の東木場氏より講評があり、最後はその場で写真を缶バッジにしてプレゼントした。

○ ギャラリートーク

参加者には同伴者以外との距離や手指消毒、マスク着用等に協力いただいたうえで実施した。

実施日	時間	担当者	参加人数
4月25日（日）	10：30～	東木場、黒木、竹下	12
	13：30～	東木場、黒木、竹下	8
6月6日（日）	10：30～	東木場、竹下	19
	13：30～	東木場、竹下	21
計			60

○ 関連講座「プロに学ぶ写真撮影講座」

日 時 令和3年6月5日（土）室内講座 10：00～12：00 （19名参加）

野外撮影会・座談会 13：30～16：00 （10名参加）

講 師 東木場昭裕氏（自然写真家・SSP展写真展委員）

福島英樹氏（元学芸課員・SSP展写真展委員）

県独自の緊急事態宣言により、日時を6月5日（土）に延期し、定員を当初の30名から20名に減らして実施した。「写真の主役を考える」をテーマに、豊富な作例を交

えながら講師が解説した。一眼レフの構造や撮影のテクニックなどの説明があり、初心者からベテランの方まで役立つ講座となった。午後は民家園にて撮影会と座談会を行った。

○ 中止したイベント等

新型コロナウイルス感染拡大により、以下のイベント等を中止した。

令和3年4月25日（日） 特別講演会「生きものの写真で伝えたいこと」

令和3年5月9日（日）、30日（日） ギャラリートーク

オ 観覧者数：5,235人



会場の様子（入口付近）



会場の様子（西側）



標本展示の例



ガイドツアー



一日博物館長



生きもの Kids 写真教室

② 「絶滅モンスター展 2021～恐竜 VS ほ乳類」

ア 会 期：令和3年7月10日（土）～9月5日（日） 51日間

イ 主 催：特別展「絶滅モンスター展 2021～恐竜 VS ほ乳類～」実行委員会

（宮崎県総合博物館 宮崎日日新聞社 MRT 宮崎放送 一般社団法人 宮崎県教職員互助会）

ウ 協 力：群馬県立自然史博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、国立科学博物館、天草市立御所浦白亜紀資料館、宮崎大学農学部附属農業博物館、熊本博物館、宮崎市フェニックス自然動物園、足寄動物化石博物館、宮崎市郡歯科医師会

エ 展示内容

古生代に陸上に現れた生物が、哺乳類及び恐竜へと派生し、絶滅と適応を繰り返しながら現在へと受け継がれていく生物史を歩む展覧会とした。実物化石や復元骨格、生体復元模型などの資料により、動物の進化と多様性を紹介した。古生物の世界を豊富な資料で観覧者に紹介し、私たち哺乳類のルーツと進化、そして適応による繁栄から絶滅へとめぐっていくタイムトラベルを楽しめる展示とした。さらに、今まさに絶滅の危機にある動物への関心を高め、自然環境の保全の意識をもつ機会として開催した。

オ 主な展示資料

ディメトロドン骨格レプリカ及び生体復元模型、ヘルレサウルス骨格レプリカ及び生体復元模型、エオラプトル骨格レプリカ及び生体復元模型、アロサウルスの全身骨格レプリカ、ユティランヌス生体復元模型、デェデルフォドン生体復元模型、ティラノサウルス亜成体全身骨格レプリカ、マンモスの頭骨及び尾椎骨化石、スミロドン全身骨格レプリカと生体復元模型、ダイアウルフ全身骨格レプリカと生体復元模型、ウインタテリウム全身骨格レプリカ、パラミロドン全身骨格レプリカと生体復元模型、ニホンオオカミ実物骨格など

カ 体験展示など

モノクロカメラを恐竜の目線の高さに設置し、モニターで見下ろせる装置（恐竜カメラ）を設置した。1 mの高さに嵩上げた恐竜展示台に、のぞき穴のあるトンネル（恐竜トンネル）を設置した。実物化石、隕石などの触察資料8点を、関連する化石資料に合わせて展示した。感染症のリスクが少ないコンテンツとして、3D復元画をスマートフォン等で表示できるARコンテンツを提供した。

キ 関連行事

○ 開会式及び内覧会

日 時 令和3年7月9日（金）14:00 から 15:00

○ 恐竜骨格組立見学会

日 時 令和3年6月26日（土）14:00 から 15:30

参加数 19人

○ 講演会1「よみがえれ！絶滅モンスター～なぜ化石から姿がわかるの？～」

日 時 令和3年7月18日（日）13:30 から 15:00

講 師 足寄動物化石博物館 学芸員 新村龍也 氏

参加者 13人

○ 講演会2「動物が、好きですか？～動物園の魅力と役割～」

日 時 令和3年8月9日（月：振替）13:30 から 15:00

講 師 宮崎市フェニックス自然動物園 顧問 出口智久 氏

参加数 19人 ※ 新型コロナウイルスの影響で10人がキャンセルとなった。

○ 講演会3 「絶滅モンスター列伝～絶滅動物の進化をたどる～」

日 時 令和3年8月22日（日）13:30 から 15:00 ※リモートによる実施

講 師 群馬県立自然史博物館 主幹 高栞祐司 氏

参加数 15人 ※当初の申込は54名

○ 体験講座1「復活！サーベルタイガー～古生物の復元模型を作ろう！～」

日 時 令和3年8月8日（日）13:30 から 15:00

講 師 立体造型作家 後藤麻夫 氏

参加数 26人

○ 体験講座2 「進化のカギは『歯』だった!?～恐竜と人類の歯のレプリカを作ろう！～」

日 時 令和3年11月3日（水・祝日）※ 8月29日計画を延期して実施

講 師 宮崎市郡歯科医師会専務理事 柿崎陽介 氏（ひまわり歯科院長）ほか関係者8人

参加者 28人

ク 観覧料 大人1,200円（高校生～64歳）、シニア800円（65歳以上）、

小人600円（4歳以上）、3歳以下は無料

ケ 観覧者数：50,248人



開会式の様子



入場5万人目セレモニーの様子



体験講座2の様子



体験展示（恐竜トンネル）



恐竜骨格標本の展示



大型標本の展示

③ 特別展「発見！きのこランド ～宮崎の自然をはぐくむきのこの世界～」

ア 会 期：令和3年10月16日（土）～11月28日（日） 37日間

イ 主 催：宮崎県総合博物館

ウ 展示内容

きのこは形も多様であり、その美しさや独特な形に魅了される人たちも多い。本県には発光性のきのこや「幻のきのこ」と称される種類も発生するなど、興味深いきのこも見られる。また、私たちの生活との結びつきも強く、県内各地に食用や薬などに利用されてきた文化が今でも残っている。

この展示会では、宮崎に発生する多様なきのこの紹介をすることで、本県の豊かな自然はきのこのはたらきに支えられていることを広く知ってもらい、きのこの魅力の発見を通して自然環境の理解と自然保護の意識の向上に繋げることを目的とした。

エ 関連行事

○ 特別展関連イベント「きのこマーケット」

日 時 令和3年10月24日（土）10：00～15：00

会 場 1階エントランス及び正面玄関周辺

出店、イベント

栽培きのこ（加藤えのき、田中椎茸、宮崎産業） きのこバーガー（杉本商店）

きのこ加工食品（美郷ノ蔵、本吉） 佐土原人形のきのこ土鈴（佐土原人形ますや）

きのこグッズ、書籍（SPORE） きのこジェラート きのこバターサンド

光るきのこの模型（宮崎大学）

しいたけひいくんのダンスステージ、じゃんけん大会 午前・午後1回

○ 講演会「きのこの自然誌」

日 時 令和3年10月31日（日） 13：30～15：00

講 師 千葉県立中央博物館 吹春俊光氏

会 場 本館研修室1

参加者 29名

○ 諸塚村のきのこ物産品販売

日 時 令和3年11月6日（土） 10：00～15：00

協 力 もろっこハウス

○ 講座「光るきのこをつくろう」

日 時 令和3年11月13日（土）

午前の部 9：30～11：00 午後の部 13：30～15：00

会 場 本館研修室1

参加者 午前 21名 午後 24名 計 45名

○ 特別展関連講演会「ギャラリートーク」

日 時 令和3年10月16日(土)、11月3日(水)、11月21日(日)、11月28日(日)

時 間 14:00～15:00

会 場 特別展示室

参加者 52名

オ 協力

国立科学博物館、千葉県立中央博物館、鳥取県立博物館、宮崎大学農学部、宮崎県林業技術センター、日本冬虫夏草の会

カ 観覧者数 32,038人



ようこそ！きのこランド



入場3万人目セレモニーの様子



光るきのこ体験



環境ときのこ



きのここと民俗



きのこアート

④ 貸館「岩合光昭写真展 こねこ」

ア 会 期：令和4年2月19日(土)～4月10日(日)

イ 主 催：宮崎日日新聞社、UMK テレビ宮崎

ウ 企画製作：クレヴィス

エ 展示の内容

写真家の岩合光昭氏が、世界各地で撮影した約150点の子猫の写真作品を展示した。

オ 観覧料：大人1,000円、中高生500円、小学生以下は無料

カ 観覧者：22,518人(ただし、2月19日～3月31日は15,415人)



開会式の様子



展示室の様子



チラシ

[illegible]

宮崎県総合博物館開館50周年記念事業

「きのこ」の自然を
はぐくむ
「きのこ」の自然を
はぐくむ
「きのこ」の自然を
はぐくむ

50

光る!

宮崎の自然をはぐくむきのこの世界

特別展

発見!!

きのこのランド

2021 10/16土 ~ 11/28日

●休館日／毎週火曜日(11月23日を除く)。
11月4日(木)、11月24日(水)

入場 無料

おもしろい!

かわいい!

みんな 見に来てね!

ヘンテコ?

宮崎県総合博物館 特別展示室

観覧時間／午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

■主催／宮崎県総合博物館
■協力／国立科学博物館、千葉県立中央博物館、京都府立博物館、日本免疫学協会、
宮崎県立技術センター、宮崎大学歯学部きのこ学研究室

T 090-0952 宮崎県総合博物館27日台通年 Tel. (0985) 24-2071 Fax. (0985) 24-2199
http://www.pref-miyazaki.jp/museum

先着100名様
「発見きのこランド」オリジナル
きのこ缶バッジプレゼント
(10月・11月・12月、1000名以内)

みやきはく

facebook

twitter

instagram

QRコード

(3) エントランス展示・ロビー展示

本館 1 階のエントランスホール（エントランスケース、展示スペース、情報コーナー）や 2 階民俗展示室前のロビーにおいては、1 年を通じてトピックや季節ごとにテーマを設定した展示を行っている。令和 3 年度は 19 回の展示を実施した。

① 展示一覧

番号	タイトル ＜展示場所＞	期 間	担当者	内 容
1	出陣！よろい武者「戦国武将の世界」 ＜1 階エントランス南側＞	3 月 27 日 ～ 4 月 25 日	平松	こどもの日に向けて、常設展示室に展示していない鎧・冑を展示した。
2	絶滅モンスター展 2021 ～恐竜 VS ほ乳類～プレ展示 ＜2 階ロビー＞	4 月 24 日 ～ 6 月 6 日	中山	夏の特別展のプレ展示として海の古生物を中心にカンブリア紀以降の実物化石と古生物の骨格復元模型を展示した。
3	アーマー展 ～守備力高めな生きもの紹介～ ＜1 階エントランス南側＞	4 月 29 日 ～ 6 月 6 日	竹下	カブトガニやオオクワガタなど、外骨格の鎧（アーマー）に覆われた守備力高めな生きものを紹介した。
4	絶滅モンスター展 2021 ～恐竜 VS ほ乳類～プレ展示・序章 ＜1 階エントランス南側＞	6 月 19 日 ～ 9 月 5 日	中山	夏の特別展のプレ展示・序章として実物化石及びレプリカ標本 17 点を展示した。
5	愛鳥作品コンクール作品展示 ＜2 階ロビー＞	7 月 3 日 ～ 7 月 25 日	河野	令和 3 年度愛鳥作品コンクールの絵画と習字を展示した。（中部農林振興局による企画）
6	宮崎の伝統工芸品 ＜2 階ロビー＞	7 月 28 日 ～ 9 月 3 日	永田	宮崎県内の伝統的工芸品を展示し、振興を図る機会とした。（オールみやざき営業課による企画）
7	博物館実習生による成果発表 ＜2 階ロビー＞	9 月 25 日 ～ 10 月 3 日	永田	博物館実習生 2 名それぞれが、課題として取り組んだ企画展示を公開した。
8	きのこワンダーランド ～絵本の中のきのこ～ ＜1 階エントランス南側＞	9 月 25 日 ～ 11 月 28 日	福松	「発見！きのこランド」のプレ展示として、千葉県立中央博物館から借りたパネルや宮崎県立図書館所蔵の絵本、きのこグッズなどを展示した。
9	みやざき模型アートの世界 ～後藤麻夫作品展～ ＜2 階ロビー＞	10 月 9 日 ～ 11 月 7 日	中山	本館所蔵の化石標本の生体復元模型や、常設展示室及び特別展等で展示した模型等の製作に携わっている後藤麻夫氏の作品を展示した。
10	博物館こども DAY ＜1 階エントランス北側＞	11 月 3 日	学芸課	6 部門それぞれから、子ども達が興味を抱く大型の収蔵資料や標本を展示した。
11	アーマー展 2 ～ダンゴムシたちの不思議な世界～ ＜2 階ロビー＞	11 月 13 日 ～ 12 月 12 日	田口	アーマー展の続編として、子どもたちに人気で馴染み深いダンゴムシやワラジムシも甲殻類であることを紹介した。
12	日向路を駆け抜けた聖火展 ＜1 階エントランス南側＞	12 月 1 日 ～ 1 月 30 日	平松	本県で実際に使われたトーチやユニホームなど、聖火リレーに関する
13	宮崎地域資源「宮崎の宝」写真展 ＜2 階ロビー＞	12 月 15 日 ～ 1 月 30 日	河野	地域資源ブランドの魅力を伝える写真の展示を行った。（中山間・地域政策課による企画）
14	M S E C 探究活動ポスター展 ＜1 階エントランス北側＞	12 月 18 日 ～ 1 月 31 日	濱田	県内の高校生の自然科学系探究活動の成果をポスター展示した。（出品 県立高校 7 校のポスター 24 件）
15	正月にちなんだ玩具 ＜1 階エントランス南側＞	1 月 5 日 ～ 1 月 23 日	永田	令和 4 年の干支・寅に合わせて、張り子の虎や凧、羽子板、きごまなどの玩具を展示した。
16	地上のハンター「ネコ科」展 ＜1 階エントランス南側＞	2 月 9 日 ～ 3 月 21 日	中山	令和 4 年の干支・寅や「岩合光昭写真展こねこ」にちなんで、太古を含んだネコ科の系統や、歯・身体の特徴を紹介した。
17	まちなかアート化作品展 ＜2 階ロビー＞	3 月 10 日 ～ 3 月 20 日	河野	県内の障がい者による絵や立体作品などアート作品を展示した。（文化振興課・宮崎県障がい者芸術文化支援センターによる企画）
18	博物館でひな祭り ＜1 階展示スペース・2 階ロビー＞	2 月 9 日 ～ 3 月 3 日	永田	春の節句の雰囲気来館者に感じてもらうため、博物館に寄贈された雛人形を展示した。
19	ねこ写真・大募集 ＜1 階エントランス南側＞	3 月 19 日 ～ 4 月 10 日	河野	特別展「岩合光昭写真展こねこ」来館者による持ち込み写真を展示した。（宮崎日日新聞社による企画）

② 主な展示

ア アーマー展 ～守備力高めな生きもの紹介～

- a 展示期間：令和3年4月29日（土）から
6月6日（日）まで
- b 展示場所：本館1階エントランスホール南側
- c 展示内容：カブトガニやカブトムシ、アカイセエビなど外骨格に覆われた「堅そうな」生き物を展示した。特に「アカイセエビ」「スイジガイ」「スジウミバラ」「ヘラクレスオオカブト」「ネプチューンオオカブト」は令和2年度に寄贈・提供された資料であり、それらを活用する機会とした。



展示の様子

イ 日向路を駆け抜けた聖火展

- a 展示期間：令和3年12月1日（水）から
令和4年1月30日（日）まで
- b 展示場所：本館1階エントランスホール南側
- c 展示内容：東京2020オリンピック・パラリンピックは新型コロナウイルス感染拡大のため1年延期され、今年開催された。本県でも聖火リレーが行われたので、57年前の聖火に関するポスターや写真と、今年実際に使われた聖火トーチやユニフォーム、聖火台などを展示した。



展示の様子

ウ まちなかアート化作品展

- a 展示期間：令和4年3月10日（木）から
3月20日（日）まで
- b 展示場所：本館2階ロビー
- c 展示内容：みやざき文化振興課及び宮崎県障がい者芸術文化支援センターが企画する「まちなかアート化作品展」を共催した。県内の重度障がい者福祉施設で創作された作品や、活動を紹介するパネルを展示した。



展示の様子

③ 関係機関と連携した展示

博物館施設の展示空間の有効活用として、関係機関が企画する展示を行っている。今年度は、5つの関係機関の企画及び共催企画を行った。

(4) 民家園

民家園は、本館の東側に位置し、県内に残っていたその地方独特の建築様式を持つ民家を昭和47年から昭和53年にかけて移築復元した4棟の民家から成る。これらのうち「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」は国の重要文化財に、「米良の民家」と「椎葉の民家」は宮崎県の有形文化財に指定されている。

また、民家の内部には、実際に使用されていた踏み臼のほか、唐箕や機織り機といった生業道具、釜や甕などの生活用具を展示するとともに、屋外には石風呂などを展示し、来園者が民家の雰囲気を感じ取れるようにしている。

なお、4棟とも経年劣化や耐震上の問題があったことから、平成26～27年度に「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」の保存修理を実施し、引き続き平成28～29年度に「米良の民家」と「椎葉の民家」の保存修理を実施した。

【旧藤田家住宅】

九州山地中央部に残る民家の古い形式を伝える数少ない建物で、五ヶ瀬町から移築復元した。県内で確認された民家では最も古く、間仕切柱の刻銘から天明7年(1787)に建てられたことが明らかとなっている。間取りは、オモテ（客間）、ヘンヤ（居間）の2つからなる。



旧藤田家住宅

【旧黒木家住宅】

高原町にあった郷土の建物を移築復元したものである。この民家は、県南西部に分布する分棟型農家の典型で、平入のオモテ（主屋）と妻入のナカエ（釜屋）の2棟からなる。発見された墨書によって、天保5年(1834)から2年間かけて建てられたことが明らかになっている。



旧黒木家住宅

【米良の民家】

西米良村にあった建物を移築復元したもので、山間の3段石積みの上に建てられ、外観や間取りなどに古い西米良の農家のかたちが残されている。また、太い材を用いた馬屋が隣接している。口伝により、文政4年(1821)頃に建てられたとされている。



米良の民家

【椎葉の民家】

椎葉村にあった建物を移築復元したもので、県北西部に分布する並列型農家の典型で、間取りは、3つの部屋と1つの土間が横一列に並び、その手前に板縁がとおっている。解体中に発見された墨書によって、元治元年(1864)に建てられたことが明らかになっている。



椎葉の民家

(＊民家園を活用した普及事業については、54～55頁を参照)

(5) 利用状況

① 令和3年度の利用状況

ア 利用状況一覧

(単位：人)

施設、講座等		入館・入園者数
1 本館入館者数		137,753
① 特別展観覧者 ※		110,039
② 常設展示室の展示解説（定時解説及び通常解説）		(5,579)
③ 紙芝居		(2,746)
④ むかしのあそび体験広場		(3,088)
⑤ クイズラリー（通常版）		(548)
⑥ みどりの日クイズラリー（特別版）		(中止)
⑦ 文化の日クイズラリー（特別版）		(68)
2 民家園入園者数		52,976
① 伝統文化体験講座		
正月準備体験		(58)
② 民家園春まつり		(301)
③ みやざきの昔話公演 ※9回実施(3回中止)		(203)
④ 民家園利用事業		(87)
⑤ 昔のくらし体験		(122)
合 計		190,729

※ 特別展観覧者数には、「岩合光昭写真展『こねこ』」の4/1～4/10分の観覧者7,103人を含む。

イ 本館入館者の状況（月別）

(単位：人)

月	個人 (人)	団体(人)				総入館者数 (人)	開館日数 (日)	1日 平均 (人)
		大人	高校生 大学生	小学生 中学生	未就学児			
4	5,497	61	6	36	36	5,636	26	217
5	2,356	12	20	15	8	2,411	9	268
6	5,449	141	41	464	154	6,249	25	250
7	26,184	286	62	736	326	27,594	27	1,022
8	23,514	89	22	134	15	23,774	27	881
9	5,151	18	0	7	17	5,193	16	325
10	14,767	361	33	1,451	207	16,819	27	623
11	16,184	717	31	2,937	544	20,413	24	851
12	4,861	236	42	831	78	6,048	24	252
1	2,615	65	9	40	96	2,825	24	118
2	6,347	9	0	0	0	6,356	17	374
3	14,008	149	2	46	230	14,435	26	555
計	126,933	2,144	268	6,697	1,711	137,753	272	506

※ 9/13～9/24は、燻蒸期間のため、休館。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5/10～5/31は臨時休館。

ウ 利用団体内訳

(単位：団体)

	小学校	中学校、高校 特別支援学校	幼稚園、 保育園等	福祉施設	放課後児童 クラブ	旅行団体 等	合計
団体数	102	26	69	85	78	36	396

※小・中・高校・特別支援学校の内訳は 37・38 頁、その他の団体の内訳は 36～37 頁を参照

エ 特別展示入館状況

a 無料の特別展示

展示会名	会期 (日)	日数 (日)	個人 (人)	団 体 (人)				合計 (人)	1 日 平均 (人)
				大人	高大学生	小中 学生	未就 学児		
第 41 回 S S P 展	令和 3 年 4 月 24 日～ 6 月 6 日	※ 39 (20)	5,085	31	20	18	81	5,235	262
発見！きのこラ ンド～宮崎の自 然をはぐくむき のこの世界～	令和 3 年 10 月 16 日～ 11 月 28 日	37	26,544	887	64	3,857	686	32,038	866

※ S S P 展の日数の () 内は、5/10～5/31 の臨時休館を除いた開催日数

b 有料の特別展示

展示会名	会期	日数	入場者数（人）				合計 （人）	1 日平 均（人）
			有料		無料			
絶滅モンスター 展 2021～恐竜V S は乳類～	令和 3 年 7 月 10 日～ 9 月 5 日	51	大 人 シニア 小人 ペア割	21,703 1,963 16,265 986	3 歳以下 招待者 身障者他	5,484 1,751 2,096	50,248	985
岩合光昭写真展 「こねこ」	令和 4 年 2 月 19 日～ 4 月 10 日	43	大人 中高生	15,674 1,238	未就学児 招待者 身障者他	3,149 1,551 906	22,518	524

※ 「岩合光昭写真展『こねこ』」の 2/19～3/31 の入場者数は 15,415 人。

オ 民家園入園者の状況 (月別)

月	入園者数(人)	開園日数(日)	1日平均(人)
4	4,845	30	162
5	3,795	31	122
6	3,138	30	105
7	4,399	31	142
8	3,141	31	101
9	2,704	※ 25	108
10	5,132	31	166
11	5,779	30	193
12	4,263	31	138
1	4,817	31	155
2	4,993	28	178
3	5,970	31	193
計	52,976	360	147

※ 9/16～20 は燻蒸期間のため、民家園入園禁止。

② 過去 10 年間の利用状況の推移

ア 本館入館者数

年 度	個 人 (人)	団 体 別 (人)				合 計 (人)	開館 日数 (日)	1 日 平均 (人)	特別展 観覧者数 (人)
		大 人	高大学生	小中学生	未就学児				
24	91,374	5,156	636	8,752	1,835	107,753	298	362	69,680
25	113,438	5,481	756	9,003	2,504	131,182	299	439	95,611
26	91,050	5,310	127	8,620	2,361	107,468	292	368	73,621
27	112,909	5,976	429	9,356	1,892	130,562	289	452	91,901
28	92,342	4,673	343	8,380	1,982	107,720	284	379	64,973
29	93,867	5,576	498	8,766	2,265	110,972	285	389	61,552
30	117,772	5,697	1,390	8,881	2,394	136,134	285	478	92,797
R1	68,369	4,292	845	7,924	2,173	83,603	267	313	34,833
R2	47,874	1,226	311	5,745	1,038	56,194	268	199	18,765
R3	126,933	2,144	268	6,697	1,711	137,753	272	506	110,039

イ 本館の利用団体内訳

(単位：団体)

年 度	小学校	中学・高校・特 別支援学校	幼稚園、 保育園等	福祉施設	放課後児童 クラブ	旅行団体 等	合計
24	113	19	78	153	19	139	521
25	116	36	114	156	46	132	600
26	109	10	89	186	39	137	570
27	113	22	78	233	48	168	662
28	98	11	66	286	37	86	584
29	112	19	94	321	69	94	709
30	100	24	105	260	58	138	685
R1	101	19	83	166	85	88	542
R2	82	12	46	42	30	21	233
R3	102	26	69	85	78	36	396

ウ 民家園入園者数の推移

年度	入園者数 (人)	開園日数 (日)	1 日平均 (人)
24	44,889	359	125
25	47,810	359	133
26	44,718	358	125
27	36,267	361	100
28	46,648	358	130
29	50,461	357	141
30	50,714	359	141
R1	48,372	361	134
R2	50,539	360	140
R3	52,976	360	147

【参考】令和3年度 学校団体(小・中・高・特別支援学校)の利用状況

No.	年	月	日	曜	学 校 名	教科・総合	遠足	修学旅行	その他	学年	市町村名	人数
1	3	5	2	日	宮崎北高等学校 科学部				○	1~3	宮崎市	21
2	3	6	16	水	宮崎西高等学校附属中学校				○	1	宮崎市	83
3	3	6	16	水	尚学館小学校		○			1・2	延岡市	35
4	3	6	17	木	宮崎港小学校		○			2	宮崎市	77
5	3	6	17	木	宮崎東高等学校				○	1	宮崎市	6
6	3	6	18	金	西池小学校	○	○			3	宮崎市	143
7	3	6	18	金	穆佐小学校		○			5・6	宮崎市	51
8	3	6	28	月	木城中学校			○		3	木城町	53
9	3	7	1	木	檉小学校		○			3	宮崎市	103
10	3	7	1	木	檉小学校	○				4	宮崎市	109
11	3	7	2	金	寺迫小学校		○			3・4	日向市	29
12	3	7	2	金	大宮小学校	○	○			3	宮崎市	71
13	3	7	8	木	延岡しろやま支援学校、都城さくら聴覚支援学校(小学部)		○			1~6	延岡市	37
14	3	7	8	木	延岡しろやま支援学校、都城さくら聴覚支援学校(小学部)		○			1~6	延岡市	
15	3	7	9	金	東大宮小学校		○			3	宮崎市	123
16	3	7	9	金	田野小学校		○			2~6	宮崎市	31
17	3	7	9	金	西米良中学校			○		3	西米良村	10
18	3	7	16	金	木城小学校	○	○			6	木城町	58
19	3	7	16	金	児湯るびなす支援学校(高等部)		○			2	新富町	14
20	3	10	7	木	明和小学校	○	○			4	都城市	84
21	3	10	8	金	森永小学校		○			3・4	国富町	40
22	3	10	8	金	川南小学校		○			4	川南町	69
23	3	10	13	水	山田小学校			○		6	都城市	24
24	3	10	14	木	狭野小学校		○			1~6	高原町	42
25	3	10	15	金	都於郡小学校	○	○			3	西都市	21
26	3	10	15	金	八代小学校		○			3・4	国富町	44
27	3	10	15	金	みなみのかぜ支援学校(中学部)			○		2	宮崎市	38
28	3	10	15	金	恒富小学校	○	○			4	延岡市	31
29	3	10	15	金	有明小学校		○			3・4	串間市	23
30	3	10	15	金	沖水小学校		○			4	都城市	135
31	3	10	16	土	宮崎北高等学校サイエンス科	○				1	宮崎市	31
32	3	10	21	木	上新田小学校		○			1	新富町	31
33	3	10	22	金	茶臼原小学校		○			1~4	西都市	28
34	3	10	22	金	大王谷小学校		○			4	日向市	108
35	3	10	22	金	細島小学校	○	○			4	日向市	20
36	3	10	22	金	山之口小学校、麓小学校		○			5	都城市	52
37	3	10	22	金	山之口小学校、麓小学校		○			5	都城市	
38	3	10	22	金	多賀小学校		○			3・4	川南町	33
39	3	10	24	日	福島小学校			○		6	串間市	84
40	3	10	27	水	西小学校		○			4	都城市	154
41	3	10	28	木	梶山小学校		○			3. 4. 5	三股町	42
42	3	10	28	木	都農小学校		○			5	都農町	47
43	3	10	28	木	延岡しろやま支援学校(中学部)			○		2	延岡市	22
44	3	10	28	木	大東・大平連合小学校			○		6	串間市	20
45	3	10	28	木	大東・大平連合小学校			○		6	串間市	
46	3	10	29	金	石山小学校			○		6	都城市	14
47	3	10	29	金	宮村小学校		○			3・4	三股町	44
48	3	10	29	金	北浦小学校		○			3・4	延岡市	48
49	3	10	29	金	北方・市木連合小学校			○		6	串間市	36
50	3	10	29	金	北方・市木連合小学校			○		6	串間市	
51	3	10	29	金	妻北小学校	○	○			3	西都市	86
52	3	10	29	金	広瀬北小学校		○			3	宮崎市	97
53	3	10	29	金	赤江まつばら支援学校(高等部)			○		2~3	宮崎市	12
54	3	11	5	金	勝岡小学校		○			3	三股町	72
55	3	11	5	金	川東小学校		○			4	都城市	60
56	3	11	5	金	加納小学校	○	○			3	宮崎市	172
57	3	11	5	金	永久津小学校		○			3・4	小林市	27
58	3	11	5	金	東方小学校		○			3・4	小林市	41
59	3	11	6	土	明豊中学校			○		2	県外	66
60	3	11	7	日	北郷小中学校(小学校)			○		6	日南市	34
61	3	11	8	月	有明小学校			○		6	串間市	16
62	3	11	10	水	広瀬小学校	○	○			3	宮崎市	140
63	3	11	10	水	大塚小学校		○			2	宮崎市	133
64	3	11	10	水	都井小、本城小、金谷小、3校合同			○		6	串間市	28
65	3	11	10	水	都井小、本城小、金谷小、3校合同			○		6	串間市	
66	3	11	10	水	都井小、本城小、金谷小、3校合同			○		6	串間市	
67	3	11	11	木	学園木花台小学校		○			3・4	宮崎市	60
68	3	11	11	木	今町小学校		○			3・4	都城市	53
69	3	11	11	木	木之川内小学校			○		6	都城市	13
70	3	11	11	木	宮崎大学教育学部附属中学校		○			3	宮崎市	7
71	3	11	11	木	高鍋東小学校	○	○			4	高鍋町	106
72	3	11	12	金	宮崎南小学校	○	○			3	宮崎市	157
73	3	11	12	金	延岡小学校		○			5	延岡市	74
74	3	11	12	金	宮崎南小学校		○			4	宮崎市	137
75	3	11	12	金	油津小学校			○		6	日南市	46
76	3	11	12	金	小林こすもす支援学校(小学部)			○		6	宮崎市	18
77	3	11	12	金	瓜生野小学校		○			3・4	宮崎市	75
78	3	11	12	金	本庄小学校		○			3	国富町	58
79	3	11	12	金	那珂小学校	○	○			3	宮崎市	50
80	3	11	12	金	住吉南小学校	○	○			3	宮崎市	91

81	3	11	15	月	清武せいりゅう支援学校(小学部)		○			5	宮崎市	17
82	3	11	15	月	東小学校			○		6	延岡市	97
83	3	11	17	水	高岡小学校	○	○			3	宮崎市	68
84	3	11	18	木	赤江小学校	○	○			3	宮崎市	123
85	3	11	18	木	志和池小学校			○		6	都城市	40
86	3	11	18	木	国富小学校		○			3	宮崎市	124
87	3	11	19	金	旭小学校			○		6	延岡市	101
88	3	11	19	金	三財小学校		○			3	西都市	18
89	3	11	19	金	五十鈴小学校		○			4	門川町	43
90	3	11	19	金	新田学園(小学校)		○			5	新富町	48
91	3	11	19	金	後川内小学校		○			1~5	高原町	27
92	3	11	19	金	高原小学校		○			4	高原町	52
93	3	11	19	金	川島小学校			○		6	延岡市	25
94	3	11	22	月	清武せいりゅう支援学校(中学部)		○			1	宮崎市	10
95	3	11	25	木	佐土原小学校		○			3	宮崎市	48
96	3	11	25	木	東方小学校			○		6	小林市	13
97	3	11	25	木	北郷小中学校(中学校)			○		2	日南市	37
98	3	11	25	木	門川小学校			○		6	門川町	73
99	3	11	25	木	小松台小学校	○	○			3	宮崎市	112
100	3	11	25	木	日知屋小学校			○		6	日向市	29
101	3	11	26	金	三納小学校		○			3・4	西都市	34
102	3	11	26	金	恒富中学校				○	1	延岡市	88
103	3	11	26	金	酒谷小学校		○			1~6	日南市	12
104	3	11	26	金	本郷小学校	○	○			3	宮崎市	128
105	3	12	1	水	日知屋東小学校			○		6	日向市	104
106	3	12	2	木	椎葉中学校			○		2	椎葉村	21
107	3	12	3	金	大塚中学校			○		2	宮崎市	12
108	3	12	3	金	みやざき中央支援学校(小学部)		○			2	宮崎市	31
109	3	12	8	水	門川中学校			○		2	門川町	172
110	3	12	8	水	川南小学校(合同)	○				4~6	川南町	71
111	3	12	8	水	東小学校(合同)	○				4~6	川南町	
112	3	12	8	水	多賀小学校(合同)	○				4~6	川南町	
113	3	12	8	水	山本小学校(合同)	○				4~6	川南町	
114	3	12	10	金	延岡しろやま支援学校(高等部)			○		3	延岡市	11
115	3	12	13	月	大宮小学校	○				6	宮崎市	74
116	3	12	13	月	三松小学校			○		6	小林市	60
117	3	12	15	水	大宮小学校	○				6	宮崎市	79
118	3	12	15	水	椎葉小学校(連合)			○		6	椎葉村	13
119	3	12	15	水	尾向小学校(連合)			○		6	椎葉村	8
120	3	12	15	水	不土野小学校(連合)			○		6	椎葉村	2
121	3	12	15	水	大河内小学校(連合)			○		6	椎葉村	3
122	3	12	15	水	松尾小学校(連合)			○		6	椎葉村	3
123	3	12	16	木	宮崎大学教育学部附属中学校	○				1~3	宮崎市	22
124	3	12	16	木	丸野小学校			○		6	都城市	7
125	3	12	16	木	東郷小学校			○		6	日南市	39
126	3	12	17	金	祝吉小学校			○		6	都城市	138
127	3	12	21	月	国分高等学校				○	2・3	県外	13
128	4	3	14	月	永久津小学校			○		6	小林市	11

81	3	11	15	月	清武せいりゅう支援学校(小学部)		○			5	宮崎市	17
82	3	11	15	月	東小学校			○		6	延岡市	97
83	3	11	17	水	高岡小学校	○	○			3	宮崎市	68
84	3	11	18	木	赤江小学校	○	○			3	宮崎市	123
85	3	11	18	木	志和池小学校			○		6	都城市	40
86	3	11	18	木	国富小学校		○			3	宮崎市	124
87	3	11	19	金	旭小学校			○		6	延岡市	101
88	3	11	19	金	三財小学校		○			3	西都市	18
89	3	11	19	金	五十鈴小学校		○			4	門川町	43
90	3	11	19	金	新田学園(小学校)		○			5	新富町	48
91	3	11	19	金	後川内小学校		○			1~5	高原町	27
92	3	11	19	金	高原小学校		○			4	高原町	52
93	3	11	19	金	川島小学校			○		6	延岡市	25
94	3	11	22	月	清武せいりゅう支援学校(中学部)		○			1	宮崎市	10
95	3	11	25	木	佐土原小学校		○			3	宮崎市	48
96	3	11	25	木	東方小学校			○		6	小林市	13
97	3	11	25	木	北郷小中学校(中学校)			○		2	日南市	37
98	3	11	25	木	門川小学校			○		6	門川町	73
99	3	11	25	木	小松台小学校	○	○			3	宮崎市	112
100	3	11	25	木	日知屋小学校			○		6	日向市	29
101	3	11	26	金	三納小学校		○			3・4	西都市	34
102	3	11	26	金	恒富中学校				○	1	延岡市	88
103	3	11	26	金	酒谷小学校		○			1~6	日南市	12
104	3	11	26	金	本郷小学校	○	○			3	宮崎市	128
105	3	12	1	水	日知屋東小学校			○		6	日向市	104
106	3	12	2	木	椎葉中学校			○		2	椎葉村	21
107	3	12	3	金	大塚中学校			○		2	宮崎市	12
108	3	12	3	金	みやざき中央支援学校(小学部)		○			2	宮崎市	31
109	3	12	8	水	門川中学校			○		2	門川町	172
110	3	12	8	水	川南小学校(合同)	○				4~6	川南町	71
111	3	12	8	水	東小学校(合同)	○				4~6	川南町	
112	3	12	8	水	多賀小学校(合同)	○				4~6	川南町	
113	3	12	8	水	山本小学校(合同)	○				4~6	川南町	
114	3	12	10	金	延岡しろやま支援学校(高等部)			○		3	延岡市	11
115	3	12	13	月	大宮小学校	○				6	宮崎市	74
116	3	12	13	月	三松小学校			○		6	小林市	60
117	3	12	15	水	大宮小学校	○				6	宮崎市	79
118	3	12	15	水	椎葉小学校(連合)			○		6	椎葉村	13
119	3	12	15	水	尾向小学校(連合)			○		6	椎葉村	8
120	3	12	15	水	不土野小学校(連合)			○		6	椎葉村	2
121	3	12	15	水	大河内小学校(連合)			○		6	椎葉村	3
122	3	12	15	水	松尾小学校(連合)			○		6	椎葉村	3
123	3	12	16	木	宮崎大学教育学部附属中学校	○				1~3	宮崎市	22
124	3	12	16	木	丸野小学校			○		6	都城市	7
125	3	12	16	木	東郷小学校			○		6	日南市	39
126	3	12	17	金	祝吉小学校			○		6	都城市	138
127	3	12	21	月	国分高等学校				○	2・3	県外	13
128	4	3	14	月	永久津小学校			○		6	小林市	11

【参考】その他の団体の利用状況

月	日	曜	団 体 名	市町村名	人数
4	2	水	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
4	7	水	ちっくたっく大宮児童クラブ	宮崎市	24
4	7	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
4	8	木	おおきな木	宮崎市	7
4	9	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
4	12	月	タンポポ保育園	宮崎市	9
4	12	月	宮崎医療福祉専門学校	西都市	9
4	12	月	ケアサービスまごころ	宮崎市	4
4	14	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
4	16	金	就労移行支援事業響	宮崎市	5
4	16	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
4	17	土	牟礼	宮崎市	10
4	17	土	人の話くらぶ佐智	宮崎市	7
4	23	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	4
4	28	水	月見ヶ丘幼稚園	宮崎市	32
4	30	金	こどもプラス	宮崎市	5
5	1	土	タンポポ保育園	宮崎市	10
5	1	土	ひなたカレッジ住吉	宮崎市	11
5	1	土	ピースヒルみらい	宮崎市	13
6	3	木	タンポポ保育園	宮崎市	12
6	4	金	いずみ幼稚園	宮崎市	46
6	4	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
6	12	土	タンポポ保育園	宮崎市	11
6	12	土	放課後等デイサービス スポーツパークBASIS	宮崎市	12
6	16	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	4
6	18	金	西都ふたば幼稚園	宮崎市	73
6	18	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	6
6	19	土	GIFT Plus	西都市	10
6	19	土	放課後等デイサービス れんと	都城市	12
6	24	木	放課後等デイサービス さきがけ	新富町	3
6	25	金	ハッピーコーポレーション	宮崎市	39
6	25	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
6	26	土	宮崎大学	宮崎市	32
6	26	土	学遊館 ジュニア	宮崎市	10
6	26	土	放課後等デイサービス アシストプラザ	都城市	11
6	28	月	タンポポ保育園	宮崎市	10
6	28	月	にじいろホース	宮崎市	15
6	30	水	清武幼稚園、倉岡幼稚園	宮崎市	32
7	1	木	タンポポ保育園	宮崎市	18
7	1	木	せんり	綾町	15
7	2	金	社会福祉協議会つくし園	宮崎市	19
7	2	金	赤江保育園	宮崎市	29
7	2	金	はんびどん	宮崎市	10
7	3	土	南九州大学	都城市	39
7	5	月	健幸くらぶ万智	宮崎市	3
7	7	火	健幸くらぶ万智	宮崎市	5
7	8	木	野の花幼稚園	宮崎市	37
7	10	土	南九州大学	都城市	11
7	10	土	スタンザ	宮崎市	14
7	10	土	放課後等デイサービス れんと	都城市	15
7	10	土	らいふさぽーと あうる	宮崎市	9
7	12	月	江南よしみ地域生活支援センター	宮崎市	7
7	12	月	福祉サービス事業所 ポノポノ	宮崎市	6
7	14	水	地域生活支援センターすみよし	宮崎市	6
7	14	水	人の話くらぶ佐智	宮崎市	7
7	15	木	野の花幼稚園	宮崎市	36

7	16	金	一万城幼稚園、みまた幼稚園	都城市	44
7	16	金	木花こども園	宮崎市	45
7	16	金	株式会社ミヤチク	都城市	7
7	16	金	加江田保育園	宮崎市	26
7	19	月	ふたば認定こども園	宮崎市	28
7	21	水	タンポポ保育園	宮崎市	14
7	21	水	くにとみ幼稚園	国富町	10
7	21	水	秋吉 知里(家族)	宮崎市	11
7	21	水	芳土幼稚園	宮崎市	10
7	21	水	生目台幼稚園	宮崎市	34
7	22	木	障害者施設セサミファーム	新富町	20
7	23	金	アニマート宮崎うりゅうの	宮崎市	7
7	23	金	アニマート宮崎しまのうち	宮崎市	11
7	23	金	放課後等デイサービス あさひがおか	三股町	8
7	24	土	川南町7地区子供会	川南町	19
7	26	月	八幡児童クラブ	新富町	20
7	28	水	のぞみ保育園	宮崎市	20
7	28	水	こどもプラス宮崎	宮崎市	18
7	28	水	ドリトル加納	宮崎市	12
7	29	木	八幡児童クラブ	新富町	19
7	29	木	西都市児童館	西都市	33
7	29	木	放課後等デイサービス ゆめのはな	宮崎市	15
7	30	金	みなみこども園	宮崎市	26
7	30	金	こどもプラス	宮崎市	9
7	30	金	ユニバースアカデミー	都城市	40
7	30	金	放課後等デイサービス寺子屋MOMO	宮崎市	18
7	30	金	みなみこども園	宮崎市	22
8	1	日	日本ダウン症協会宮崎支部	宮崎市	16
8	2	月	放課後等デイサービス ANiMA	宮崎市	8
8	2	月	放課後等デイサービス ハッピーワックス	宮崎市	11
8	2	月	ひなたかれっじ	高鍋町	11
8	5	木	宮崎大学(博物館実習1)	宮崎市	11
8	6	金	社協児童クラブ	新富町	29
8	6	金	放課後等デイサービスはるぐち	宮崎市	32
8	6	金	向陽の里	国富町	6
8	6	金	放課後等デイサービスレモン	西都市	15
8	7	土	放課後等デイサービスこすもす	宮崎市	15
8	7	土	放課後等デイサービスGIFT Plus	西都市	12
8	9	月	エンラボカレッジ	宮崎市	10
8	10	火	学遊館ジュニア	宮崎市	10
8	11	水	タンポポ保育園	宮崎市	11
8	11	水	HAPPY WORKS	宮崎市	13
8	11	水	ピースヒルみらい	宮崎市	18
8	12	木	タンポポ保育園	宮崎市	8
8	12	木	向陽の里	国富町	5
8	12	木	HAPPY WORKS	宮崎市	8
8	16	月	タンポポ保育園学童	宮崎市	12
8	16	月	向陽の里	国富町	5
8	19	木	和田 健太	都城市	6
8	26	木	向陽の里	国富町	4
9	25	土	チックタック大宮児童クラブ	宮崎市	7
9	25	土	駒形南町会GRC会	県外	8
9	29	水	高千穂幼稚園	宮崎市	21
9	30	木	NPO法人 ヒミツキチ	宮崎市	6
10	7	木	綾幼稚園	綾町	21
10	8	金	いきいきサロンあけぼの会	延岡市	20
10	8	金	平和ヶ丘保育園 子育て支援センター	宮崎市	4
10	9	土	NPO法人 まんぷく	小林市	6
10	11	月	Grow-up 松橋	宮崎市	7

10	11	月	スマイルシード潮見町	宮崎市	11
10	11	月	みよしクリニック	宮崎市	6
10	13	水	田野カトリック聖母幼稚園	宮崎市	16
10	13	水	タンポポ保育園	宮崎市	19
10	13	水	愛知県モデル工場	県外	9
10	13	水	健幸クラブ万智	宮崎市	7
10	14	木	田野カトリック聖母幼稚園	宮崎市	12
10	14	木	児童発達支援 HAPPY WORKS	宮崎市	10
10	15	金	デイサービス稲穂	西都市	7
10	16	土	飛江田保育園	宮崎市	32
10	16	土	向陽の里	国富町	8
10	18	月	健幸クラブ万智	宮崎市	6
10	18	月	みよしクリニック	宮崎市	6
10	20	水	那珂こども園	宮崎市	19
10	20	水	七つの星幼稚園	宮崎市	34
10	20	水	田野カトリック聖母幼稚園	宮崎市	9
10	20	水	放課後等デイサービス リボン	宮崎市	3
10	20	水	宮崎県中央福祉こどもセンター	宮崎市	5
10	21	木	中央公民館 ひむか元気塾	宮崎市	21
10	21	木	ひがし保育園	宮崎市	24
10	21	木	タンポポ保育園	宮崎市	18
10	21	木	ふあいん神宮	宮崎市	6
10	22	金	放課後デイサービス みなみ	宮崎市	8
10	22	金	ふあいん神宮	宮崎市	6
10	22	金	放課後等デイサービス さくら	宮崎市	11
10	22	金	放課後等デイサービス ANiMA	宮崎市	9
10	22	水	子ども虐待防止みやざきの会放ディ	宮崎市	9
10	25	月	HAPPY WORKS 宮崎校	宮崎市	14
10	25	月	東保育園	宮崎市	26
10	25	月	HAPPY WORKS 宮崎校	宮崎市	14
10	25	月	学遊館ジュニア	宮崎市	5
10	25	月	みよしクリニック	宮崎市	5
10	25	月	山之口 れみ	宮崎市	11
10	27	水	諸塚村議会	諸塚村	10
10	28	木	向陽の里 かのき寮	国富町	4
10	30	土	みんせいかん	宮崎市	6
10	30	土	NPO法人 まんぷく 放課後等デイサービス ジェナ	小林市	7
11	1	月	みよしクリニック	宮崎市	5
11	3	水	放課後等デイサービス ぐろーあつが高原	高原町	16
11	3	水	アートステーション どんこや	宮崎市	7
11	5	金	あおぞら幼稚園	宮崎市	55
11	6	土	九州保健福祉大学	延岡市	7
11	6	土	児童デイサービス アニマート宮崎うりゅうの	宮崎市	6
11	6	土	ディハウス みずたま	宮崎市	11
11	6	土	放課後等デイサービス さきがけ	新富町	11
11	6	土	放課後等デイサービス おひさま	都城市	12
11	6	土	カリタスの園	宮崎市	5
11	6	土	学遊館ジュニア	宮崎市	8
11	6	土	放課後等デイサービス アシストプラザ	都城市	12
11	6	土	スポーツパークBASIS	宮崎市	12
11	7	日	宮崎大学学芸員養成課程	宮崎市	23
11	8	月	久峰保育学園、田代保育学園	宮崎市	44
11	8	月	平和が丘幼稚園	宮崎市	82
11	8	月	タンポポ保育園	宮崎市	23
11	8	月	黒田こども園	宮崎市	22
11	8	月	2525小野サロン会	西都市	23
11	8	月	東大宮夢はうす児童クラブ	宮崎市	14
11	8	月	みちくさ高岡	宮崎市	19
11	8	月	健幸クラブ万智	宮崎市	6

11	8	月	みよしクリニック	宮崎市	5
11	11	木	那珂こども園	宮崎市	20
11	11	木	祇園こども園	宮崎市	43
11	11	木	放課後等デイサービス HAPPY WORKS 宮崎校	宮崎市	2
11	13	土	チックタック大宮児童クラブ	宮崎市	6
11	13	土	放課後等デイサービス ひなたかれっじ	高鍋町	11
11	13	土	聖心会リワークディケアひかり	宮崎市	8
11	14	日	えびの麓共有林	えびの市	14
11	15	月	上長飯エンゼル児童クラブ	都城市	10
11	17	水	社会福祉協議会 なごみ会	宮崎市	15
11	17	水	はなの保育園	宮崎市	15
11	17	水	認定こども園 ソレイユ	宮崎市	31
11	17	水	NPO法人 Re lifeネイロ	宮崎市	18
11	17	水	人の話くらぶ佐智	宮崎市	7
11	17	水	日本きのこセンター	日向市	8
11	18	木	高原町教育委員会	高原町	16
11	18	木	永山自治会	えびの市	27
11	19	金	那珂こども園	宮崎市	21
11	19	金	社会福祉法人 げんきこすもす	宮崎市	31
11	20	土	茶臼原自然芸術館	木城町	18
11	22	月	黒田こども園	宮崎市	21
11	22	月	うちやまこども園、さんこうこども園	宮崎市	80
11	22	月	わかば保育園	宮崎市	31
11	22	月	福祉サービス事業所 ポノポノ	宮崎市	7
11	22	月	まるのキンダーガーデン	都城市	41
11	25	木	下是位川内 いきいきサロン	都城市	17
11	26	金	みどりのおか保育園	国富町	11
11	26	金	石井記念 明倫保育園	高鍋町	43
11	26	金	下広原老人クラブ	高原町	27
11	26	金	こんぺいとう	宮崎市	7
11	27	土	アニマート宮崎 うりゅうの	宮崎市	4
11	27	土	宮崎ダルク	宮崎市	7
11	29	月	みよしクリニック	宮崎市	7
11	29	月	えびの市自治会連合会	えびの市	47
12	1	水	アローズ	宮崎市	4
12	1	水	健幸クラブ万智	宮崎市	6
12	2	木	清武さんさんクラブ	宮崎市	16
12	3	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
12	4	土	大宮小学校6年3組	宮崎市	45
12	4	金	放課後等デイサービス あさひがおか	三股町	10
12	5	土	宮崎大学博物館コース	宮崎市	27
12	10	金	花ヶ島幼稚園	宮崎市	11
12	10	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	2
12	13	月	中央ヴィラこども園	宮崎市	25
12	15	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	6
12	18	土	南九州大学環境園芸学科	宮崎市	46
12	18	土	放課後等デイサービス ぐろーあつぷ高原	高原町	16
12	18	土	放課後等デイサービス キッズラボ	都城市	13
12	18	土	放課後等デイサービス みどりがおか	都城市	5
12	18	土	放課後等デイサービス れんと	都城市	11
12	19	日	佐賀県連女性部	県外	14
12	22	水	黒田こども園	宮崎市	23
12	22	水	デイサービス 稲穂	西都市	7
12	23	木	中央ヴィラこども園	宮崎市	29
12	24	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
12	25	土	デイサービスもてなす	国富町	5
1	5	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
1	6	木	タンポポ保育園	宮崎市	10
1	6	木	福祉支援センターふぁみりあ	宮崎市	15

1	6	木	民間学童保育おちあいさん家	宮崎市	11
1	6	木	スポーツパークBASIS	宮崎市	16
1	7	金	MOCOがじゅまるの樹保育園	宮崎市	7
1	7	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	3
1	8	土	宮崎大学	宮崎市	8
1	10	月	ふぁくとリーくらぶ	国富町	9
1	12	水	健幸くらぶ万智	宮崎市	7
1	13	木	生目幼稚園	宮崎市	79
1	14	金	祇園デイサービスセンター	宮崎市	2
1	14	金	松山学園	宮崎市	8
1	15	土	馬場	小林市	9
1	20	木	ニコニコ美味探会	県外	5
1	27	木	タンポポ保育園	宮崎市	14
2	21	月	あいクリニック	宮崎市	9
3	3	木	明星幼稚園	宮崎市	20
3	4	金	合同会社ワークス	宮崎市	14
3	9	水	社会福祉法人げんき	宮崎市	4
3	10	金	ハッピーパーク	新富町	10
3	14	月	デイサービスあゆみ	宮崎市	7
3	16	水	はんびどん	宮崎市	11
3	17	木	たいよう保育園	宮崎市	47
3	17	木	向陽の里 地域支援係	国富町	9
3	18	金	ころころ保育園	宮崎市	15
3	18	金	千代田幼稚園	宮崎市	29
3	21	月	スマイルシード潮見町	宮崎市	7
3	23	水	都農聖愛幼稚園	都農町	19
3	24	木	セサミ・ファーム	新富町	18
3	25	金	リサイクル工房	宮崎市	31
3	26	土	合同会社LUKE	宮崎市	8
3	26	土	放課後等デイサービス GIFT	西都市	14
3	28	月	宮崎きもの学院	宮崎市	6
3	28	月	ふぁいん宮崎	宮崎市	17
3	28	月	向陽の里	国富町	9
3	28	月	放課後等デイサービス Happiness Lifeみらい	宮崎市	8
3	28	月	ひがし保育園	宮崎市	26

4 教育普及

県民誰もが参加でき、本県の自然や歴史について楽しく学べるような学習機会を提供することを目的に、本館ではこれまで収集してきた資料や調査研究成果を積極的に活用しながら、学校や関係機関と連携して、学校教育に対する支援や展示解説員による普及活動、各種講座などを行っている。

(1) 学校教育支援

① 学校の受け入れ[197校]

学校団体が、遠足や授業などで本館を訪問する形での利用があり、令和3年度は、小学校102校、中学校11校、高等学校4校、特別支援学校11校、幼稚園・保育園・認定こども園69校の計197校を受け入れた。

② 授業への支援[18回]

専門的な内容をテーマにした授業がある場合に、担当教員と事前の打ち合わせを十分行った上で、本館職員が直接生徒や学生に説明や指導を行っている。今年度は、6件18回行った。

ア 宮崎西高等学校附属中学校「青島亜熱帯植物観察会」及び事前学習への協力

担当：福松東一（植物部門）

期日：令和3年6月16日（水）

期日：令和3年7月13日（火）

場所：宮崎県総合博物館 研修室1（6/16）

場所：青島（7/13）

内容：宮崎西高等学校附属中学校1年生2クラスを対象として、6月16日（水）は事前研修として植物に関する基本的な知識と観察の視点、亜熱帯植物に関する説明を行った。

また、7月13日（火）は、現地青島で海浜植物と亜熱帯性の植物について観察の仕方と

説明を行った。また、青島の地質について埋蔵文化財センターの松田清孝課長が地質に関する観察と説明を行った。

参加者：80名（1年生）教諭3名



青島での観察の様子

イ 宮崎北高等学校・宮崎県総合博物館連携事業「フィールドワーク」

担当：福松東一（植物）、黒木秀一（植物）、濱田真理（地質）

期日：延期分 令和3年4月27日（火）～4月29日（木）（場所：鹿児島県屋久島町）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年10月から延期

第1講 令和3年9月18日（土）9:00～12:00（場所：宮崎北高）

第2講 令和3年9月25日（土）9:00～12:00（場所：宮崎市青島）

第3講 令和3年10月16日（土）9:00～12:00（場所：総合博物館）

第4講 令和3年10月23日（土）8:00～17:00

（場所：日之影町梁崎、延岡市北方町比叡山、日向市馬ヶ背・権現崎）

第5講 令和3年11月10日（水）～11月12日（金）（場所：鹿児島県屋久島町）

第6講 令和4年2月26日（土）9:00～12:00（場所：宮崎市野島）

対象：宮崎北高等学校サイエンス科1年生（36名）

内容：これから探求活動に取り組むサイエンス科1年生に、フィールドワークの研究テーマや手法を知ってもらうことを目的として、宮崎県内及び屋久島の植生と地質を体系的に学ぶ一連の事業を行った。本館職員は博物館での事前学習及びフィールドワークでの講師を務め、生徒への指導・助言を行った。また、全体計画や教材作成に関して高校側担当者へ助言や資料提供、資料貸出を行った。



第2講 青島



第3講 総合博物館



第4講 県北



第5講 屋久島



第6講 野島



植物標本の貸出

ウ 延岡高等学校「普通科 SDGs フィールドワーク」への協力

担当：中山貴義・濱田真理（地質部門）

期日：令和3年10月15日（金）

場所：日之影町五ヶ瀬川河床、延岡市比叡山千畳敷、高千穂町高千穂峡

内容：普通科1年生1クラスを対象にフィールドワークの支援を行った。県北の大地で観察できる地質の中から、大崩山を取り巻く環状岩脈と阿蘇山の活動に共なる火砕流堆積物を中心にフィールドを選び、学習を構成した。その中で、生徒に地形・岩石・鉱物の観察、地形図の読図、科学的スケッチ等に取り組ませ、解説を行った。また、全体計画や教材作成に関して高校側担当者へ助言や資料提供を行った。

参加者：生徒40人・引率教諭4人

エ 宮崎市立大宮小学校への協力

担当：中山貴義・濱田真理（地質部門）

期日：令和3年12月13日（月）、15日（水）

場所：総合博物館 自然史展示室・研修室1

内容：小学校6学年の地質に関する学習のまとめとして、博物館の資料を活用した授業に協力した。宮崎県全体や学校周辺の地質の説明、県内で産出する化石の紹介を行った。

参加者：6年生児童147人・引率教諭6人

オ 宮崎市立広瀬小学校への協力

担当：永田文昭（民俗部門）

期日：令和3年6月30日（水）

場所：宮崎市立広瀬小学校 多目的室

内容：総合的な学習の時間「広瀬50年後に残したいもの」について、佐土原名物の「くじらようかん」を詳しく知るために、小豆の歴史や名前の由来について解説した。

参加者：107人（5年生児童）



授業の様子

カ 宮崎大学地域創生学部との連携事業

担当：福松東一（博物館概論）、黒木秀一（自然）、平松憲太郎（歴史）永田文昭（民俗）

期日：令和3年5月21日（金）

場所：宮崎大学地域創生学部

内容：宮崎大学地域創生学部の「地域理解実習」において、博物館概論、宮崎の自然・歴史・民俗の概要について新入生を対象とした講義をオンラインで行った。

参加者：90名

③ 教員研修等への支援【0回】

④ 学校への資料貸出し【5回】

本館では、学校支援の一環として、授業等で活用することの多い資料をセットにして、学校への貸出しを行っている。また、リスト以外の資料についても随時相談に応じている。

ア 主な貸出しセット（本館HPに掲載）

【動物】乾燥標本（トンボ、チョウ、ハチ等）、剥製標本（ほ乳類、鳥）、骨格標本（ほ乳類）

【植物】押し葉植物標本、コケ・シダ模型

【地質】鉱物・岩石標本、人類頭骨レプリカ、化石レプリカ

【歴史部門】蒙古襲来絵詞・西郷札・地券写真パネル、伊能図（複製）、防空ずきん

【民俗部門】むかしの道具等写真パネル、むかしの道具貸出しキット

イ 学校貸出し実績

学校名	期間	資料	点数
宮崎国際大学	6/17～7/1	礫岩1点、砂岩1点、泥岩1点、石灰岩1点、 チャート1点、安山岩1点、花崗岩1点、 化石標本セット1点	8点
美々津中学校	6/21～7/2	人類頭骨レプリカ3点（プロコンスル、アフリカヌス、ホモ・エルガスター）	3点
吾田中学校	7/27～7/29	コブハクジラ（骨格、展示台、パネル各1点）、 ツノシマクジラ（骨格、展示台、パネル各1点）、 ハンドウイルカ（骨格、展示台、パネル各1点）	9点
荒谷小学校	8/26～8/29	イノシシ骨格標本	1点
宮崎北高校	2/8～2/28	植物押し葉標本（宮崎市産）	23点

⑤ 職場体験学習・インターンシップの受入れ【0回】

中高生の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成を図るため、毎年度、学校教育一環として行われている中学校の職場体験学習と高等学校のインターンシップの受け入れを行っている。令和3年度は、新型コロナウイルスのため学校からの申し込みはなかった。次年度も同様の状況が予想されるため、各学校からの要望があれば、学芸課職員を中学校へ派遣し、博物館の仕事を説明するなど支援についての案内文書を受入れ実績のある中学校6校へ発送した。（宮崎大学教育学部附属中学校、宮崎市立大宮中学校、宮崎市立宮崎東中学校、宮崎市立穂中学校、宮崎市立赤江中学校、宮崎市立生目中学校）

⑥ 博物館実習生の受入れ【1回】

学芸員資格取得を希望する大学生に対して、博物館の概要や学芸員の業務等についての理解と、展示や普及活動の実習を通しての知識や技能の習得を目的として、本館での実習を行っている。令和3年度は、2大学2人の実習生を受け入れた。

期 間：令和3年8月18日(水)～8月27日(金)の8日間（8/22(日)と8/24(火)を除く）

実習生：在籍大学・学部、人数については次のとおり。

大学・学部等	人数
昭和大学人間文化学部	1人
南九州大学環境園芸学部	1人

(2) 展示解説員による普及活動

来館された方に対してきめ細やかなサービスを提供するため、平成12年度から展示解説員制度を本格スタートさせた。展示解説員は、学校やその他の団体の来館時対応や展示解説を担当するほか、来館者の案内や問い合わせの対応を行っている。また、常設展示室において、紙芝居・クイズラリーなどの催し物の運営を行っている。

【展示解説員が担当する催し物の参加者数】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定時解説及び 通常解説	69	15	439	828	9	0	1,115	2,589	414	55	0	46	5,579
紙芝居	343	47	324	542	74	0	394	609	209	138	0	66	2,746
むかしのあそび	543	194	318	542	0	0	678	466	235	44	0	68	3,088
クイズラリー	33	0	96	81	32	36	53	63	49	32	33	40	548

① 常設展示室の展示解説【5,579人】

常設展示室では、来館者が展示資料等に関する理解を深め、本県の自然や歴史に対する関心を持ってもらうため、展示解説員による展示解説を行っている。この展示解説には、あらかじめ日時と展示室を指定して定期的に行う「定時解説（ガイドツアー）」と、来館者の要望に応じて随時行う「通常解説」があり、申込みに応じて実施している。

まず、定時解説については、毎週土曜日、日曜日、祝日の午前と午後に、自然史、歴史、民俗の各展示室を指定して、30分程度の解説を行っている。また、通常解説には、個人解説と団体解説があり、時間、内容、展示室についての入館者の希望に可能な限り対応しており、特に、学校団体には、希望に応じて「むかしの道具」の解説マニュアルを使った解説を行ったり、視覚障害者向けには触察資料を紹介するマニュアルを用いた解説を行っている。

令和2年度に展示解説を受けた方の数は5,579人であった。

② 催し物の運営

展示解説員の企画運営により、次の催し物を行った。

ア 紙芝居 [2,746人]

日 時：日曜日及び祝日、午前11時30分から午後2時30分からの各日2回

新型コロナウイルス感染拡大防止のため5、8、9、1、2月に予定していた26日（52回）を中止した。

場 所：2階ロビー（10月中旬から11月上旬はロビー展の都合により「時代のひろば」）

内 容：各回2話の公演を行った。

その他：「民家園春まつり」では紙芝居用自転車を用いて公演を行った。

イ むかしのあそび体験ひろば [3,088人]

日 時：毎月第1・3・5土曜日、午前9時から午後3時

新型コロナウイルス感染拡大防止のため5、8、9、1、2、3月に予定していた8日を中止した。

場 所：2階ロビー（10月中旬から11月上旬はロビー展の都合により「時代のひろば」）

内 容：「あやとり」「おはじき」「はしごだるま」等を準備し、展示解説員が遊び方のアドバイスをした。参加者の手指消毒及び道具等の消毒を徹底した。

その他：ゴールデンウィーク期間（2回）と「民家園春まつり」では、「むかしのあそび拡大版」を実施した。拡大版では通常の遊び道具に加え、「魚釣りゲーム」、「シャボン玉」、「けん玉」、「手裏剣射的」などを用意した。

ウ クイズラリー

[通常版：548人（個人用529人、団体用1団体19人）、特別版：68人 計616人]

日 時：通常版（個人用）毎月第2・4土曜日の午前9時から午後4時まで
（団体用）随時

特別版 11月3日（水）（文化の日）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため5月に予定していた2日を中止した。

場 所：常設展示室内

内 容：館内の展示資料を見ながら、用意された問題（クイズ）を解いていく催し。

参加を受け付けて実施しており、参加者には参加賞を、設定した段階をクリアした正解者には賞品を贈呈。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手指や道具等の消毒、自己採点方式及び参加賞の自主選択方式を取り入れて対応した。

その他：対象者：（個人用）小中学生及び大人 （団体用）小学生

③ 地域回想法「博物館で思い出を語ろう！」事業の実施

本館では高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に「博物館で思い出を語ろう！」事業を実施しており、展示解説員が来館当日の団体対応をはじめ、福祉施設との連絡調整などを担当している。（活動の詳細は63頁参照）

※その他展示解説員が担当する業務

展示解説員は①～③を担当する他、本館の普及活動等に関わる次の業務も担当している。

- ゴールデンウィーク・夏休みイベント等の企画立案
- イベント運営（博物館こども DAY、風車フェスタ）
- 展覧会の開会式における司会進行と介添え、誘導、監視
- 展覧会の準備補助、チラシ等発送業務
- 学芸課が行う講座などの補助
- 燻蒸期間やメンテナンス期間、特別整理期間における展示室・収蔵庫の整理・清掃
- IPM ウォッチング
- 広報推進委員会出会
- SNS による広報
- 民俗展示室解説シート作成
- ホームページにおけるクイズ作成

(3) 博物館講座等

博物館講座は、本館がこれまで収集した資料や調査研究の成果をもとに、県民に自然や歴史に関する多様な体験・学習の機会を提供することを目的に実施している。年間を通じて部門ごとに実施する普及講座のほか、特別展示に関連して実施する講座がある。特に、普及講座では、県内各地を会場として館外で実施するものを地域講座として位置づけ、地域バランスを考慮しながら、県下全域に講座会場を設定して実施している。

令和3年度は、野外講座を含む講座総数41（地域講座10を含む）を設定。新型コロナウイルス感染拡大防止のために7講座、これとは別に天候不良などにより2講座が中止となったが、32講座（地域講座7を含む）を実施した。受講者の総数は1,956人であった。

【令和3年度の博物館講座参加者数一覧】

博物館講座等名称	回 数		参加者数
	計画	実施	
① 普及講座	26	20	602
② 助成金を活用した海に関するイベント(講座)	4	3	1,131
③ 特別展示関連講座	11	9	223
計	41	32	1,956

① 普及講座 （※地は地域講座、（コ）は新型コロナウイルス感染拡大防止による中止）

No	部門	講座名	外部講師	実施日	場所	参加者数 (人)
1	動物	地 見つけよう！海のお宝貝がら	日本貝類学会 西邦雄氏	4月29日	崎田浜	中止
2	植物	地 春の野の花観察会（霧島山）		5月1日 延5月2日	えびの高原	9
3	歴史	よろい・かぶと着用体験！		5月5日	エントランスホール	中止(コ)
4	民俗	地 鶴戸山の民俗を学ぼう	鶴戸神宮 黒岩昭彦宮司	5月8日	鶴戸神宮	中止(コ)
5	植物	地 加江田溪谷ハイキング「シダ・コケ植物観察会」		5月15日	加江田溪谷	中止(コ)
6	動物	地 不思議な磯の生きものたち		5月16日 延10月9日	内海野島	20
7	植物	光るキノコづくり		5月29日 延6月12・13日	研修室1	126
8	歴史	宮崎の歴史を学ぶ1	宮崎大学 関周一教授	6月12日	研修室1	24
9	植物	地 きこの観察会		7月3日 延7月11日	行藤山	12
10	地質	標本講座「化石レプリカをつくろう！」		8月1日	研修室1	53
11	植物	標本講座「夏休みの自由研究 押し葉標本をつくろう！」		8月2日	研修室2	23
12	自然史	採集作品の名前を調べる会		8月7日	情報室	中止(コ)
13	地質	化石の日関連特別講座「モンゴルの地質調査より」	名古屋大学博物館 大路樹生教授	10月10日	研修室1	32
14	動物	地 干潟ってなあに～干潟の生き物大集合～		10月23日	加江田川河口	40

15	植物	自然の色で染めてみよう	中武享子氏	10月24日	研修室2	22
16	歴史	宮崎の歴史を学ぶ2	都城島津邸 山下真一館長	10月30日	研修室1	17
17	地質	地 大地のつくりを観察しよう（西郷編）		10月31日	大斗の滝周辺	19
18	民俗	みやざきの神楽を学ぼう	宮崎民俗学会 前田博仁会長	11月6日	研修室1	7
19	動物	チリモン Get だぜ！		11月7日	研修室2	51
20	考古	地 西都原古墳群の地下式横穴墓を観察しよう	宮崎考古学会 長津宗重会長	11月14日	西都原古墳群	20
21	地質	地 大地のつくりを観察しよう（青島編）		11月21日	青島	26
22	民俗	佐土原人形絵付け体験	ますや 下西美和氏	12月4日	研修室2	17
23	動物	河川と海辺のマイクロモンスター観察 ～水辺を守るササラダニ～		12月5日	研修室2	16
24	地質	先進研究特別講座 「不思議な球状コンクリーションを解明せよ！」	名古屋大学博物館 吉田英一教授	12月19日	研修室1	40
25	考古	大淀川下流域の考古学～弥生時代のムラと墓～	宮崎考古学会 長津宗重会長	1月9日	研修室1	28
26	地質	海岸の砂を顕微鏡で観察しよう		2月13日	研修室2	中止(コ)

② 助成金を活用した海に関するイベント（講座）（※（コ）は新型コロナウイルス感染拡大防止による中止）

No	部門	講座名	外部講師	実施日	場所	参加者数 (人)
1	動物	博物館 de 『磯』！ ～ナマコにヒトデ 磯の生き物触察体験～		8月14日 延10月10日 ・11月3日	博物館玄関	1034
2	動物	講演会「宮崎のサンゴは今」	宮崎大学 深見裕伸教授	9月4日	研修室1	中止(コ)
3	動物	講演会「マッコウクジラの大きな頭の秘密」	宮崎大学 西田伸教授	12月18日	研修室1	35
4	動物	講演会・イベント「組み立てよう！地球上最大の海洋 肉食獣「マッコウクジラ」骨格」	宮崎大学 西田伸教授	12月8日～ 12月25日	特別展示室	62

③ 特別展示関連講座（※（コ）は新型コロナウイルス感染拡大防止による中止）

No	講座名	外部講師	実施日	場所	参加者数 (人)
1	講演会「生きもの写真で伝えたいこと」	昆虫写真家 海野和男氏	4月25日	研修室1	中止(コ)
2	生きもの Kids 写真教室	自然写真家 東木場昭裕氏	5月2日	エントランス 神宮の森	11
3	写真教室「プロに学ぶ！写真撮影講座」	自然写真家 東木場昭裕氏	5月23日 延6月5日	研修室1	19
4	講演会「よみがえれ！絶滅モンスター」	足寄動物 化石博物館 新村龍也氏	7月18日	研修室1	31
5	講座「復活！サーベルタイガー～古生物の復元模型を作ろう！～」	立体造形作家 後藤麻夫氏	8月8日	研修室1	26

5	講座「復活！サーベルタイガー～古生物の復元模型を作ろう！～」	立体造形作家 後藤麻夫氏	8月8日	研修室 1	26
6	講演会「動物が、好きですか？～動物園の魅力と役割～」	フェニックス 自然動物園 出口智久顧問	8月9日	研修室 1	19
7	講演会「絶滅モンスター列伝～絶滅動物の進化をたどる～」	群馬県立 自然史博物館 高菜祐司氏	8月22日	オンライン	15
8	講座「進化のカギは『歯』だった!? ～恐竜と人類の歯のレプリカを作ろう！～」	宮崎市郡 歯科医師会 柿崎陽介氏	8月29日 延11月3日	研修室 2	28
9	講演会「きのこの自然誌」	千葉県立 中央博物館 吹春俊光氏	10月31日	研修室 1	29
10	講座「光るキノコ観察会」		11月3・6日	研修室 1	中止
11	光るきのこをつくろう		11月13日	研修室 1	45

【主な講座実施例】

ア 博物館講座「干潟ってなあに～干潟の生き物大集合」

実 施 日：令和3年10月23日（土）

実施場所：加江田川河口干潟（宮崎市）

参 加 者：40人

内 容：講師として、宮崎大学名誉教授の三浦知之氏を招いて実施した。干潟のでき方や底にすんでいる生き物についての説明の後、1時間ほど生物採集を行い、ハクセンシオマネキやトビハゼなど干潟を代表する生き物が豊富に見られた。ウミニナと呼ばれる貝の仲間も比較的多く採集でき、干潟の環境が豊かであることを実感できた。三浦氏の生物同定会を行い、参加者からも多くの質問が出て大変盛り上がった。



野外講座の様子（加江田川河口）

イ 博物館講座「西都原古墳群の地下式横穴墓を観察しよう」

実 施 日：令和3年11月14日（日）

実施場所：西都原古墳群（西都市）

参 加 者：20人

内 容：宮崎考古学会の長津宗重会長を講師に迎えて、野外講座を実施した。

テーマである地下式横穴墓は、地下に造られたトンネル状の空間を埋葬場所とした南九州に特徴的な古墳の形態で、野外では実見できないことから、まずは隣接する考古博物館内にある模型を見学し、その構造などを学んだ。その後、地下式横穴墓が数多く存在する西都原古墳群最北のエリアを歩きながら、地下式横穴墓が築かれた背景や西都原古墳群とヤマト王権との関係などについて、講師より詳しい解説があった。

実際に古墳を見ながらフィールドを歩くことで気づく学びも多く、子どもにも大人にも充実した野外講座が実施できた。



野外講座の様子（西都原古墳群）

(4) 「どこでも博物館」事業

本館が所在する宮崎市から離れ、訪れることが難しい地域の県民を対象に博物館が出向き、収蔵資料の展示紹介や体験講座を行う「どこでも博物館」事業を平成27年度から実施してきた。令和3年度は、県内3か所で開催した。

① どこでも博物館 in 高千穂町としょかんまつり

日時：令和3年7月30日（金）午後2時～午後5時

令和3年7月31日（土）午前9時～午後2時

会場：高千穂町中央体育館

内容：自然史系2部門と歴史系3部門の計5部門と博物館活動紹介を合わせた6ブースを設定した。自然史系部門からは高千穂町に関連のある資料を中心に展示した。歴史系部門は、展示資料を紹介した。高千穂町内はもとより、高千穂町外からの来場者も多数おり、大変好評であった。

参加者：196人



会場の様子

② どこでも博物館 in 島野浦小学校

日時：令和3年11月19日（金）午前8時10分～午後1時55分

会場：延岡市立島野浦小学校体育館

後援：延岡市教育委員会

内容：島野浦小学校開催ではあったが、島野浦中学校や保育所、島民が参加していただいた。自然史系2部門と歴史系3部門と博物館紹介コーナー、植物・考古資料の一部を展示紹介した。島野浦島を描いた伊能忠敬絵図やオリンピック・パラリンピックの聖火トーチも大好評であった。どこでも博物館史上初めての離島での開催であり、島民のみなさんに喜んでいただいた。

参加者：151人



会場の様子

③ どこでも博物館 in 県立日南くろしお支援学校

日時：令和3年12月8日（水）午前10時～午後2時15分

会場：県立日南くろしお支援学校体育館

内容：昨年に続き、2回目の特別支援学校での開催である。自然史系2部門、歴史系3部門（一部植物資料）と博物館紹介・パズルができるブースを設置した。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、学校側から地域の関係施設や一般の方々、児童生徒の保護者を呼ぶことができないことをお願いされ、日南くろしお支援学校の児童生徒、職員のみ参加となった。児童生徒とともに支援学校職員が参加・支援していただき、スムーズに説明をすることができた。

参加者：162人



会場の様子

(5) 民家園を活用した普及事業

国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟の計4棟の古民家からなる民家園の活用事業については、平成19年度の「民家園利活用構想報告書」をもとに、平成20～21年度は「民家園利活用促進事業」、平成22～23年度は「民家園環境整備事業」、平成24～25年度は「総合博物館民家園を活用した故郷の四季体験事業」として展開してきており、平成26年度から「民家園民俗文化体験事業」として、正月行事体験、民家園春まつりを実施している。これらの他、民家園ボランティアによる火入れ（毎週土曜日）や昔の道具体験、県内の語り部の会による宮崎の昔話公演、民家園の貸出しなどを行っている。また、令和元年度から伝統文化や民俗の伝承などを行いたい個人や団体に民家園を無料で貸し出す「民家園利用事業」を新たに実施している。令和元年7月からは、営利目的の場合における有料の貸し出しも実施している。また、令和2年8月からは、更に利用拡大を図るため、民家園を利用する事業に対して、貸し出しを実施している。

民家園事業名	回数	参加人数
みやざきの昔話	6	203
昔のくらし体験	2	122
民家園利用事業	7	87
春まつり	1	301
伝統文化体験講座	1	58
計	17	771

① 火入れ

民家園ボランティアによる毎週土曜日に実施している民家の囲炉裏の火入れは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5月及び8月はボランティア活動が中止となったが、活動再開後、火入れを行った。年明けの1月中旬からは、再び新型コロナウイルスの感染が拡大し、ボランティア活動は中止となった。



火入れの様子

② 伝統文化体験講座

民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう！

実施日：令和3年12月25日（土）

会 場：椎葉の民家

参加者：58人

内 容：椎葉の民家で民家の大掃除を行った。また、参加者全員で餅つきを行い、鏡餅の説明や昔の遊びを体験した。

餅の振る舞いについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市販されている袋入りの餅を子ども限定で振る舞った。



餅つき体験

③ 「みやざきの昔話」公演

実施日：令和3年4月17日、6月19日、7月17日、10月16日、11月20日、3月19日
（※ 5月、8月、2月は新型コロナウイルス感染拡大の状況により中止）

会 場：民家園 椎葉の民家
 講 師：「民家園語りの会」「神話語り部の会」会員
 参加者：203 人（6 回の合計）
 内 容：12 月と 1 月を除く毎月第 3 土曜日に、毎回 5 ～ 6
 話の県内各地で語り継がれてきた昔話を語っても
 らった。7 月は特別に怖い話を特集し、多くの参加
 があった。
 3 月は「民家園春まつり」にあわせて昔話公演を
 実施した。



昔話公演 民家園語りの会

④ 民家園利用事業

実施日：7 回（詳細を下に示す）

令和 3 年 4 月 10 日（土）	外国人の着物体験	16 人
令和 3 年 4 月 18 日（日）	コスプレ撮影会の事前確認会	6 人
令和 3 年 6 月 6 日（日）	コスプレ撮影交流会	6 人
令和 3 年 10 月 3 日（日）	コスプレ撮影交流会	11 人
令和 3 年 10 月 23 日（土）	外国人の生け花体験	17 人
令和 3 年 11 月 27 日（土）	コスプレ撮影交流会	11 人
令和 3 年 12 月 26 日（日）	コスプレ撮影交流会	20 人

会 場：椎葉の民家、米良の民家等

参加者：87 人（7 回の合計）

内 容：昨年度から民家園利用事業の対象を拡大し、利用
 件数の増加を目指している。今年度は、新たな民家
 園利用事業の利用として「コスプレ撮影交流会」の
 定期的な利用が見込まれていたが、年明けからは新
 型コロナウイルス感染拡大により、利用が中止とな
 り厳しい状況であった。

（無料の実績 3 件、有料の実績 4 件）



外国人の着物体験の様子

⑤ 昔のくらし体験

実施日：2 回

令和 3 年 11 月 12 日（金）	住吉南小学校	91 名
令和 3 年 11 月 15 日（月）	内山子ども園	31 名

会 場：椎葉の民家

講 師：民家園ボランティア

内 容：民家園ボランティアが指導者となり、小学生など
 を対象に、脱穀機や唐箕などの昔の道具を使った脱
 穀や石臼などの体験を行った。実際に道具を使った
 体験ができ、参加した児童などには好評であった。



脱穀体験の様子

⑥ 民家園春祭り

実施日：令和 4 年 3 月 19 日（土）

参加者：301 名

会 場：民家園

内 容：民家園内において、「昔の遊び」・「昔のくらし
 体験」・「昔話公演」・「ちびっこ落語」・「民謡
 公演」・「お琴の演奏」など様々な催しを開催した。
 ちびっこ落語や民謡公演は、立ち見が出るほどの賑
 わいであった。



民謡公演の様子

(6) 関係機関との連携

博物館活動を展開するにあたっては、関係機関との連携が不可欠であることから、の博物館や研究機関、さらに教育関係機関と連携し、調査研究等のための職員派遣・招聘、展示等に伴う資料の貸出・借用、情報交換等を行っている。

① 職員の派遣

他の機関からの依頼に応じて、講師や委員会のメンバーとして、また企画展などの指導・助言者として、職員の派遣を行った。

年月日	依頼機関	依頼内容	派遣職員
令和3年5月21日	宮崎大学地域資源創成学部	地域理解実習「宮崎県の地域資源」	福松東一 黒木秀一 平松憲太郎 永田文昭
令和3年6月16日 7月13日	宮崎西高等学校附属中学校	「青島亜熱帯植物観察会」の事前学習 「青島亜熱帯植物観察会」現地観察会	福松東一
令和3年4月27～29日 9月18日、25日 10月16日、23日 11月10日～12日 令和4年2月26日	宮崎県立宮崎北高等学校	探究活動「フィールドワーク」講師 (屋久島 ※昨年度からの延期 1講座) プレ探究活動「宮崎の自然」講師 (宮崎北高、博物館での事前学習 2講座) 探究活動「フィールドワーク」講師 (青島・県北・屋久島・野島 4講座)	福松東一 黒木秀一 濱田真理
令和3年6月30日	宮崎市立広瀬小学校	総合的な学習の時間 「広瀬50年後に残したいもの」	永田文昭
令和3年10月15日	宮崎県立延岡高等学校	「普通科SDGsフィールドワーク」比叡山・高千穂峡の地質について	中山貴義 濱田真理
令和3年11月7日	宮崎県教育庁高校教育課	第11回「科学の甲子園」宮崎県予選に関する業務	濱田真理
令和3年12月4日	日之影町森林セラピー推進協議会	癒やしの森の案内人スキルアップ研修	濱田真理

計7件18回

② 研究者等の招聘 ※講座・展示・講演会・共同研究等 計15件16名

普及講座の外部講師として7件7名、特別展示関連講座の外部講師として7件7名で、調査研究で1件2名を招聘した。

<普及講座>

前田博仁氏（宮崎民俗学会）、下西美和氏（佐土原人形製作所ますや）、関周一氏（宮崎大学教育学部）、山下真一氏（都城島津邸館長）、大路樹生氏（名古屋大学博物館）、吉田英一氏（名古屋大学博物館）、長津宗重氏（宮崎考古学会）

<特別展関連>

東木場昭裕氏（写真家）、新村龍也氏（足寄動物化石博物館）、出口智久氏（宮崎市フェニックス自然動物園）、高桑祐司氏（群馬県立自然史博物館）、後藤麻夫氏（立体造型作家）、吹春俊光氏（千葉県立中央博物館）、西田伸氏（宮崎大学教育学部）

<水系別総合調査（五ヶ瀬川水系）>

那賀教史氏・地村光弘氏（宮崎民俗学会）

③ 視察・調査等で来館された関係機関（順不同）

計9機関

< 県外 >

富山大学、栃木県立博物館、茨城県自然博物館、青森県立郷土博物館

< 県内 >

県立延岡高等学校、県立宮崎北高等学校、五ヶ瀬町教育委員会、宮崎地質研究会、宮崎化石研友会

④ 資料の貸出し

ア 館外資料貸出し

計25機関

	資料名	貸出先	期間	目的
動物	コシジロヤマドリ本剥製標本1点	えびの市民図書館	令和3年5月1日 ～5月31日	生物多様性展で展示
	イノシシ本剥製標本2点	宮崎県立西都原考古博物館	令和3年9月8日 ～12月10日	令和3年度国際交流展「イノシシと人間－身近な野生と交流史」において展示するため
植物	大野寅夫氏植物標本3点、写真資料2点	西都原考古博物館	令和4年3月16日 ～4月17日	コレクションギャラリー展「宮崎県の考古学～学史に刻まれた人々～」で使用
	植物さく葉標本	宮崎県立宮崎北高等学校	令和4年2月8日 ～2月28日	授業で教材として使用
地質	礫岩1点、砂岩1点、泥岩1点、石灰岩1点、チャート1点、安山岩1点、花崗岩1点、化石標本セット1点	宮崎国際大学	令和3年6月17日 ～7月1日	講義において教材研究に使用
	恐竜の糞化石1点	宮崎県立図書館	令和3年7月9日 ～9月6日	特別展「絶滅モンスター展2021」関連図書とあわせて展示するため
	人類頭骨レプリカ3点（プロコンスル・アフリカヌス、ホモ・エルガスター、港川人）	日向市立美々津中学校	令和3年6月21日 ～7月2日	授業で教材として使用
	ナウマンゾウ下顎骨レプリカ1点、ニホンムカシジカ角レプリカ1点	宮崎県立西都原考古博物館	令和3年12月22日 ～令和4年3月18日	令和3年度企画展Ⅱ「教科書から学ぶ考古学～日本史、その頃の宮崎～」において展示するため
考古	綾式土器1点	宮崎県立西都原考古博物館	令和3年9月2日 ～10月1日	令和3年度コレクションギャラリー展「宮崎県の考古学～学史に刻まれた人々②～」において展示するため
	青森県・岩手県内遺跡出土骨角器レプリカ計14点、群馬県出土イノシシ形埴輪模型1点	宮崎県立西都原考古博物館	令和3年9月8日 ～12月10日	令和3年度国際交流展「イノシシと人間－身近な野生と交流史」において展示するため
	埼玉県内出土みみずく土偶模型1点、青森県内出土注口土器模型1点、青森県内出土亀ヶ岡式土器1点	宮崎県立西都原考古博物館	令和3年12月22日 ～令和4年3月16日	令和3年度企画展Ⅱ「教科書から学ぶ考古学～日本史、その頃の宮崎～」において展示するため

	西都原古墳群図 複製	西都市教育委員会	令和4年2月22日 ～3月30日	西都市役所新庁舎開庁記念「写真で振り返る西都市の歩み Vol. 1－西都市役所本庁舎と中心市街－」において借用資料を展示するため
歴史	刀「表銘：日州古屋之住国廣作 裏銘：天正五年十月吉日」	足利市立美術館	令和4年1月24日 ～令和4年4月13日	足利市制100周年記念特別展「戦国武将足利長尾の武と美－その命脈は永遠に－」において展示するため
	『瀬之口傳九郎資料』	宮崎県立西都原考古博物館	令和3年6月9日 ～7月7日	令和3年度コレクションギャラリー「宮崎県の考古学～学史に刻まれた人々①～」において展示するため
	平城京跡出土木簡複製「日向国牛皮四枚」 西都市立妻北小学校出土木簡	都城島津邸	令和3年6月14日 ～8月18日	第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会分野別フェスティバル「都城市3館周年記念特別展事業～神話にみえる都城～」において展示するため
	森永家資料（小林市）『當用日記』自昭和十五年～昭和十九年	個人	令和3年7月7日 ～令和4年3月31日	活字におこすため
	『若山牧水関係資料』	宮崎県立図書館	令和3年9月18日 ～10月17日	令和3年度特別展「若山牧水」～短歌（うた）への思いを辿る～において展示するため
	西都市立妻北小学校出土木簡1点、貨泉1点	宮崎県立西都原考古博物館	令和3年12月22日 ～令和4年3月18日	令和3年度企画展Ⅱ「教科書から学ぶ考古学～日本史、その頃の宮崎～」において展示するため
民俗	宮崎漆器（4点） 都城弓	商工観光労働部	令和3年5月7日 ～5月31日	県庁内各所に本県の伝統的工芸品を展示するため
	神楽人形	宮崎空港	令和3年5月15日 ～5月31日	「国文祭・芸文祭みやざき2020 開幕50日前イベント」で神楽人形を展示するため
	佐土原人形（1体） うずら車（6体）	宮崎空港	令和3年6月5日 ～7月11日	「国文祭・芸文祭みやざき開幕記念パネル展」で本県の伝統工芸品を展示するため
	かるい 竹工芸品（3点）	商工観光労働部	令和3年9月1日 ～10月31日	県庁内各所に本県の伝統的工芸品を展示するため
	カツオ、イカ用疑似餌（4点） 鹿笛、ズサンボウ、出刃包丁、 カマゲタ、猪頭部剥製	西都原考古博物館	令和3年9月8日 ～12月10日	令和3年度国際交流展「イノシシと人間－身近な野生と交流史」において展示するため
	衣桁	西都市教育委員会	令和3年9月14日 ～10月8日	西都市「まっぼす」神楽のPR活動として、西都市夢たまごにおいて寒川神楽の衣装を展示するため

衣桁	高鍋町教育委員会	令和4年3月17日 ～3月28日	高鍋神楽の記録作成事業に伴う写真撮影のため
----	----------	---------------------	-----------------------

イ 資料の館内利用

計 20 件

	資料名	点数
地質	日之影町洞岳産メガロドン石灰岩（屋外展示）	1 件
	五ヶ瀬町産アンモナイト化石（シヤスティクリオセラス・インターメディウム）	1 件
歴史	『田辺家資料』	1 件
	西都市立妻北小学校出土木簡	1 点
	日本持丸長者集	1 点
	鰐口	4 点
	『高岡郷全絵図（紙屋口浦之名村道筋素図）』	1 点
	『土持文書』	1 件
	藤原姓伊東氏系図	1 点
民俗	浦尻・島之浦海浜図	1 点
	火薬入れ（素焼きの壺）	1 点
	火薬入れ（木製）	1 点
	「宮崎県民俗地図」	1 点
	民俗文化財分布調査票	1 点
	諸職関係民俗文化財調査票	1 点
	各地方言収集緊急調査にかかる目録	1 点
	民俗文化財調査にかかる調査票または目録	1 点

ウ 貸出した写真データが展示・出版物等に掲載・放映された資料

計22件

	資料名	出版社・機関
地質	えびの市小牧産ナウマンゾウ下顎骨 五ヶ瀬町産アンモナイト	株式会社日本標準『宮崎県版理科テスト』付属プリントに掲載
	2011年新燃岳噴火記録映像	令和3年度宮崎県立図書館特別展「生命を守る ～語り継がれる災禍の記憶～」にて展示（※4月24日～5月30日予定を6月1日～6月30日に延期）
	忠類ナウマンゾウ全身復元骨格	忠類ナウマン象記念館（北海道幕別町）の常設展示パネルに掲載（展示更新のため）
	五ヶ瀬町祇園山産クサリサンゴ化石	株式会社昭文社『都道府県のトリセツ 宮崎県』に掲載
考古	小田元第2遺跡出土剥片尖頭器レプリカ	個人自費出版『神武と徐福』に掲載予定
歴史	地券（鹿児島県発行）	中央出版株式会社『ナビスタ！NEXT 社会』に掲載

	奈良時代 西都市妻北小学校出土木簡	第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会分野別フェスティバル「都城市3館周年記念特別展事業～神話にみえる都城～」展示における図録及びパネルに掲載
	刀「表銘：日州古屋之住国廣作 裏銘：天正五年十月吉日」	足利市立美術館『足利市政100周年記念特別展 戦国武将足利長尾の武と美ーその命脈は永遠にー』展示における図録や広報印刷物、ホームページ等に掲載
	正保日向国絵図	国立研究開発法人防災科学技術研究所『1662年日向灘地震における供養碑及び歴史的資産に関する研究』に掲載
	地券（鹿児島県発行）	中央出版株式会社『冬期講習 ナビスタ！中学2年』に掲載
	天盃2点 天盃木箱1点	吉川弘文館『かわらけの文化史』に掲載
	佐土原御城下細見之図 川越進肖像画	株式会社昭文社『都道府県のトリセツ 宮崎県』に掲載
	地券（鹿児島県発行）	中央出版株式会社『春期講習 ナビスタ！新中学3年』に掲載
	日本持丸長者集	神奈川大学理学部情報科学科の研究資料に掲載予定
	鰐口4点	延岡市 内藤記念館が「延岡城・内藤記念博物館」を新築する際の展示パネル等に掲載予定
	高岡郷全絵図（紙屋口浦之名村道筋素図）	宮崎市文化財調査報告書 第141集「本永寺原遺跡」に掲載予定
	地券（鹿児島県発行）	中央出版株式会社『ナビスタ！NEXT 社会』に掲載
	文化住宅 駄菓子屋	京都芸術大学大学院「現代日本に生きる人々の営みの記憶、行為の記憶のアーカイブとしての博物館展示研究」に掲載予定
	高岡郷全絵図（高濱道筋素図・去川道筋素図・紙屋口浦之名村道筋素図）	天ヶ城歴史民俗資料館企画展「高岡、道ものがたり展」のパネルに掲載
民俗	銀鏡神楽	NHK「イブニング宮崎」内シリーズ企画「神呑み」で銀鏡神楽の映像を掲載
	火薬入れ（素焼きの壺） 火薬入れ（木製）	鹿児島大学渡辺芳郎教授が執筆している「指宿秋山家伝来の色絵薩摩角形瓶の用途と性格」に掲載
その他	「どこでも博物館」の記録写真2点 延岡市立島野浦小学校での記録写真	『九州保健福祉大学博物館学年報 11』「博物館と学校の連携推進のため」に掲載予定

⑤ 本館が資料を借用又は展覧会・調査研究等で協力を得た関係機関（順不同） 計 45 機関

＜県外＞

群馬県立自然史博物館、茨城県自然博物館、千葉県立中央博物館、独立行政法人国立科学博物館、名古屋大学博物館、鳥取県立博物館、熊本博物館、天草市立御所浦白亜紀資料館、鹿児島大学、日本自然科学写真協会、鹿児島県尚古集成館、日本冬虫夏草の会、大阪市立自然史博物館、名古屋市立科学館、日本モンキーセンター

＜県内＞

県中部農林振興局、県オールみやざき営業課、県中山間地域施策課、県みやざき文化振興課、県立図書館、県埋蔵文化財センター、県立延岡高等学校、県立延岡星雲高等学校、県立日向高等学校、県立高鍋農業高等学校、県立宮崎北高等学校、県立宮崎大宮高等学校、県立宮崎西高等学校、宮崎大学農学部附属農業博物館、宮崎大学、宮崎市フェニックス自然動物園、宮崎県総合博物館友の会、宮崎地質研究会、宮崎化石研友会、県林業技術センター、県食品開発センター、県工業技術センター、宮崎県障がい者芸術文化支援センター、県山村・木材振興課、都城島津邸、延岡市 内藤記念館、宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館、延岡市歴史資料調査会、ラスパたかざき、宮崎市教育委員会

⑥ 宮崎大学との連携

宮崎大学地域創成学部は、「地域理解実習」のカリキュラムにおいて「コロナ禍で地域社会・まちづくり・地域資源の利活用はどのように変化したか？」をテーマに大学周辺の3地域や都農町の現状・課題やまちづくりの取組について学んでいる。総合博物館では、このカリキュラムにおいて自然史・歴史・民俗の宮崎県の地域資源についての講義を令和3年5月21日に行った。

⑦ 名古屋大学博物館との連携

本館と名古屋大学博物館とは、令和元年12月に相互協力に関する協定書の調印式を行い、協定を締結した。職員の派遣や収蔵資料の提供・貸借、共同研究などにおける相互協力を目的とする。令和3年度は、博物館講座として2講座（大路樹生教授、吉田英一教授）を実施し、当館職員（動物担当）が資料調査で訪問した。

(7) 福祉施設との連携

本館を利用する児童・生徒、高齢者、障がい者の福祉施設は、近年増加傾向にあり、令和3年度は延べ87団体・施設、812名が来館された。

このうち、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に、平成27年度から展示解説員がコーディネーター役となり、博物館にある「昔の道具」「おもちゃ」「映像」等を用いて、子どもの頃や若い頃に経験したことを楽しみながら語っていただくことによって脳を活性化させ、心を元気にする「博物館で思い出を語ろう！」事業（地域回想法を行っている。令和3年度は対象団体を公募し、計24回実施した（テーマ地域回想法：みよしクリニック6回、健幸くらぶ万智6回、祇園デイサービス12回）さらに、福祉施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」などをパッケージにした「貸出しキット」を用意しており、令和3年度は4施設4回の利用があった。



テーマ地域回想法の様子



テーマ地域回想法の様子

福祉施設連携	事業回数等	備 考
地域回想法	24	地域回想法：24、コース回想：0
貸出キット	4	
合 計	28	

(8) レファレンス対応

日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも何にでも相談にのれる博物館」を目指し、来館時の質問はもとより、電話やメールでのレファレンス対応に努めている。令和3年度のレファレンス件数は417件であった。

① 問い合わせ件数

（単位：件）

	自然史			歴史			その他	合計
	動物	植物	地質	考古	歴史	民俗		
一般	76	96	45	2	58	4	8	289
学校	2	0	8	0	3	0	1	14
博物館等施設	4	1	4	0	17	0	6	32
マスコミ	12	11	26	0	14	0	6	69
公共機関	1	0	3	0	3	0	4	11
その他	0	0	1	0	0	0	1	2
合 計	95	108	87	2	95	4	26	417

② 問い合わせ内容

(単位：件)

	自然史			歴史			その他	合計
	動物	植物	地質	考古	歴史	民俗		
部門に関すること	81	106	60	2	84	4	0	337
展示会	4	6	24	0	4	0	11	49
講座	3	2	2	0	7	0	1	15
イベント	0	0	0	0	0	0	2	2
その他	1	0	1	0	0	0	12	14
合計	89	114	87	2	95	4	26	417

(9) 博物館友の会の活動支援

博物館友の会は、会員が自ら積極的に本県の自然や歴史を学ぶことによって自らの教養を豊かなものにするとともに、博物館が今後さらに充実発展することを願って、その活動を支援することを目的として、平成 11 年 8 月に設立された。令和 3 年の活動は以下のとおりである。

- ① 会員 個人会員 40 会員 ジュニア会員 1 会員 賛助会員 1 団体
- ② 役員 会長 斎藤政美 副会長 八木真紀子
 理事 黒葛原由美 中島沙於史 下西美和 松本美津 辛島育代
 幹事 末吉豊文

③ 友の会事業

実施日	行事	参加者人数
4 月 10 日 (土)	理事会・通信発送	5 名
4 月 24 日 (日)	地域探訪 南郷町大島	11 名
4 月 24 日 (土)	S S P 展開会式	7 名
5 月 16 日 (土)	ホテル観察会 (西都原)	中止
6 月 26 日 (土)	きのこ観察会 (綾町)	8 名
7 月 4 日 (日)	理事会・通信発送	中止
7 月 9 日 (金)	絶滅モンスター展開会式	中止
8 月 5 日 (木)	学習会 絶滅モンスター展	10 名
8 月 21 日 (土)	佐土原人形絵付け体験	中止
9 月 25 日 (土)	地域探訪 児湯郡	中止
10 月 2 日 (土)	理事会・通信発送	5 名
10 月 16 日 (日)	発見！きのこランド開会式	7 名
10 月 17 日 (日)	学習会 発見！きのこランド	12 名
10 月 31 日 (日)	地域探訪 佐土原城と鶴松館	10 名
11 月 7 日 (日)	地域探訪 えびの市	中止
1 月 8 日 (土)	理事会・通信発送	6 名
2 月 11 日 (金) ～	はくとも写真展	中止
3 月 12 日 (土)	総会	中止

④ 博物館支援活動

「春の野の花観察会」(5/2、1名)、「きのご観察会」(7/11、1名)「干潟の生き物大集合」(10/23、2名)、「大地の作りを観察しよう西郷編」(10/31、1名)「西都原古墳群の観察」(11/14、1名)
※令和3年度の活動はコロナ感染症予防のため、自粛しながら開催及び中止した。

刊行物

- 会誌「む〜ちゃんだより」108号〜111号
- ガイドブック「絶滅モンスターミニ図鑑」
- ガイドブック「発見!きのこランド」



地域探訪：南郷大島の散策



野外勉強会：きのご観察会



博物館支援活動：干潟の生き物大集合

(10) 研修室の利用

本館には3つの研修室があり、主に本館の諸活動で使用しているが、外部団体から利用依頼があった場合、下記の利用条件を満たしていれば、本館活動に支障を来さない範囲で貸出しに応じている。

① 研修室の定員・設備等

室名	用途	定員	利用可能な機器類
研修室1	会議室	60人	放送設備、スクリーン等
研修室2	実験室	30人	顕微鏡、実験道具等
研修室3	会議室	15人	なし

② 外部団体の利用条件

本館の研修室は、以下のいずれかに該当する場合に外部団体等の利用に供している。

- ア 博物館事業に協力が期待できる団体が、会議・研修会等に利用する場合で、博物館が共催し、又は支援するもの
- イ 県の機関が、会議・研修会等に利用する場合で、学校教育又は社会教育の充実に資すると考えられるもの
- ウ 博物館活動に支障のない範囲内で博物館教育普及活動の充実に資すると館長が特に認めたもの

③ 令和3年度の外部団体等の利用状況

計 19 件 538 人

件数	期日	時間	団体名等	利用者数 (人)	
1	4月23日	13:30～17:00	令和4年度九州音楽教育研究大会宮崎大会に係る第3回準備委員会	20	研修室 1
2	6月5日	13:00～16:00	宮崎民俗学会	10	研修室 1
3	6月6日	9:00～16:00	ほごコス！	6	研修室 1
4	6月19日	9:00～15:00	宮崎植物研究会	20	研修室 1
5	6月19日	13:00～16:00	宮崎民俗学会	5	研修室 2
6	7月24日	13:00～16:30	宮崎民俗学会	20	研修室 1
7	7月30日	9:00～12:00	宮崎県中学校教育研究会理科部会	20	研修室 1
8	10月3日	9:00～16:00	ほごコス！	11	研修室 1・2
9	10月9日	9:00～12:00	宮崎県環境情報センター	20	研修室 1
10	10月30日	13:00～15:30	宮崎民俗学会	7	研修室 2
11	11月27日	9:00～16:00	ほごコス！	11	研修室 1・2
12	12月10日	13:00～16:30	宮崎県教育庁義務教育課	40	研修室 1
13	12月11日	9:00～15:30	宮崎植物研究会	15	研修室 1
14	12月12日	13:00～15:30	宮崎民俗学会	5	研修室 3
15	12月19日	9:00～12:00	宮崎大学学芸員養成課程	20	研修室 1
16	12月26日	9:00～16:00	ほごコス！	20	研修室 1・2
17	1月23日	13:00～17:00	地学オリンピック日本委員会	2	研修室 3
18	2月14日～ 3月31日	9:00～17:00	宮崎日日新聞社	266	研修室 3
19	3月28日	9:00～16:00	九州産業大学	20	研修室 1

(11) 情報室の利用

① 目的

「みんなの情報室」には国内の主な博物館の図録や6部門の関係書籍の他、DVDを利用できるスペースや資料に直接触れたりすることができる標本など、体験できる資料が設置されている。また、未就学児を含む親子などが楽しみながら学べるスペースとして、「むーちゃん広場」が情報室内に設置してある。

② 蔵書等

49,698 冊



情報室とむーちゃん広場の様子

③ むーちゃん広場の運用拡大

親子で楽しむ「むーちゃん広場」は令和元年度11月から情報室内の机等の配置を一部変更し運用を始めた。展示資料を理解できるようなぬりえや折り紙、また、クイズや簡単パズルなどを配置し、親子での読み聞かせができるような絵本を設置した。開始当初は、平日のみであったが、令和2年12月より、土・日・祝日の運用を始め、多くの利用者で賑わった。令和3年度の利用者は1,612組、子ども2,556名、保護者2,217名、計4,773名の利用があり、ぬりえセットについては、819名に配布した。

5 海と遊べ！博物館「海さんまい事業」

- 主 催 宮崎県総合博物館
- 協 力 独立行政法人国立科学博物館、国立大学法人宮崎大学、川南町教育委員会、串間市漁業協同組合、宮崎市漁業協同組合、きしわだ自然史料館、公益財団法人宮崎文化振興協会大淀川学習館、NPO 法人宮崎くじら研究会、NPO 法人宮崎野生動物研究会
- 特別協力 船の科学館「海の学びミュージアムサポート」
- 宮崎県総合博物館では、宮崎の海に親しむ事を目的として、海に関する様々なイベントや展示を行った。

① 見つけよう！お宝貝がら探し

日 時：令和3年4月29日（木・祝）→雨天のため中止

内 容：フィールドワーク形式による「貝殻採集」を導入口とした「海の学び」活動を予定していたが、当日雨天により中止。急遽、博物館 HP に串間市で見られる貝がら紹介などの特設ページを作成した。

② 宮崎のサンゴは今

日 時：令和3年9月4日（土）→新型コロナウイルスの影響により中止

内 容：宮崎のサンゴ群集に関する講演会を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止とした。その後、博物館 HP に宮崎県のサンゴ群集を紹介する特設ページを作成した。

③ 不思議な磯の生き物たち（宮崎県総合博物館普及講座としても実施）

日 時：令和3年10月9日（土）

場 所：宮崎県総合博物館 研修室2

参加者：20名

内 容：フィールドワーク形式による「磯の生物採集」を導入口とした「海の学び」活動を予定していたが、当日雨天のため、室内講座に変更した。干潮時に磯にできるタイドプールに残された温帯性の水生生物について説明し、事前に採集した磯の生き物に触れてもらいながら、生き物の生態を解説した。

④ 博物館 de 「磯」！～ナマコにヒトデ 磯の生き物触察体験～

日 時：令和3年10月10日（日）・11月3日（水）

場 所：宮崎県総合博物館入口テラス

参加者：1,034名（10月10日321名・11月3日713名）

内 容：宮崎県の磯で見られるナマコやヒトデ類といった海岸動物を観察し、触察体験できる「タッチプール」を実施。実際に見られる場所や生物の特徴について解説した。

⑤ 干潟ってなあに！？ ～干潟の生き物大集合～（宮崎県総合博物館普及講座としても実施）

日 時：令和3年10月23日（土）

場 所：宮崎市 加江田川河口

講 師：三浦知之氏（宮崎大学名誉教授）

参加者：40名

内 容：フィールドワーク形式による「干潟の生物採集」を導入口とした「海の学び」活動である。県内に大小数多く存在する干潟というフィールドに着目し、独自の生物相を持つ干潟において生息する生き物を観察、採集、触察体験を行った。

⑥ **チリモン Get だぜ！（宮崎県総合博物館普及講座としても実施）**

日 時：令和3年11月7日（日）

場 所：宮崎県総合博物館 研修室2

参加者：51名

内 容：室内観察プログラムによる「近海に生息する微小生物観察」を導入とした「海の学び」活動である。宮崎県の近海で漁獲されたチリメンジャコの中に紛れているカタクチイワシの稚魚以外の生物（チリメンモンスター）を探し、ルーペや実体顕微鏡で観察した。成魚とは異なる魚類の幼魚やイカ、カニの幼生など、様々な生物を発見し名前を調べてオリジナル図鑑を作製した。

⑦ **河川と海辺のマイクロモンスター観察 ～水辺を守るササラダニ～（宮崎県総合博物館普及講座としても実施）**

日 時：令和3年12月5日（日）

場 所：宮崎県総合博物館 研修室1

参加者：16名

内 容：本講座では、ダニ類の中でも「森の分解者」としての役割を持つ「ササラダニ」に着目し、河川や海辺に生息するササラダニについて実体顕微鏡を用いて観察した。ササラダニの働きによって作られる水が、河川から海洋に流れ、動植物プランクトンをはじめとする他の生物の命を育むそのシステムを、ササラダニの観察を通して学習した。

⑧ **組み立てよう！地球上最大の海洋肉食獣「マッコウクジラ骨格」**

日 時：令和3年12月8日（水）

場 所：宮崎県総合博物館 特別展示室

参加者：62名

内 容：2014年4月に宮崎県川南町に打ち上がったマッコウクジラの骨格を、川南町の小学生62名で組み立てるというイベント。体験を通してマッコウクジラの大きさや生態について学び、海の生態系を理解する事を目的として実施した。

⑨ **マッコウクジラの大きな頭の秘密 ～宮崎の海のイルカ・クジラ～**

日 時：令和3年12月18日（土）

場 所：宮崎県総合博物館 研修室1

講 師：西田伸氏（宮崎大学准教授）

参加者：35名

内 容：宮崎県近海では年間4～6例ほどの鯨類のストランディング情報が寄せられ、調査や埋設等の処理がなされている。このことから、宮崎県近海でも鯨類が生息および回遊している事実があり、宮崎県沿岸でのストランディング情報を元に鯨類の紹介やそれらの生態、特徴について紹介する講演を実施した。

⑩ **大公開！ 地球上最大の海洋肉食獣「マッコウクジラ」骨格**

日 時：令和3年12月11日（土）～12月25日（土）

場 所：宮崎県総合博物館 特別展示室

入場者：3,668名

内 容：宮崎県川南町の小学生が組み立てた、全長16mのマッコウクジラの骨格標本を展示した。海洋生物の形態的特徴や生態について学ぶ機会とした。



組み立てよう！地球上最大の海洋肉食獣「マッコウクジラ骨格」の様子



大公開！ 地球上最大の海洋肉食獣「マッコウクジラ」骨格の様子

Ⅳ 情報発信及び経営

1 情報発信

県内外の方々が、本館に興味を持ち気軽に訪問していただくとともに、本館を訪れる際に十分に満足してもらうため、施設の運営状況や活動状況等に関する情報発信を様々な方法で行っている。

(1) 広報推進委員会

「宮崎県総合博物館広報戦略」に基づく館の広報と集客増に向けた取組みを推進するため、令和3年度は、専門主幹（広報委員長）、総務課長、学芸課長、総務担当リーダー、学芸担当職員（1名）、普及担当職員（2名）、展示解説員（3名）で「広報推進委員会」を組織し、12回会議を開催し、協議を行った。

(2) 博物館だよりの発行

① みやはく2021カレンダー 発行：2021年4月1日

- ア 特別展「絶滅モンスター展2021」【地質部門】
- イ 特別展「発見！きのこランド」【植物部門】
- ウ 特別展「第41回SSP展 ー自然を楽しむ科学の眼ー」
- エ 博物館カレンダー
- オ 「博物館講座」案内
- カ 博物館情報



② 「みやはく通信第1号」 発行：2021年9月1日

- ア みやはく紹介
 - 紙芝居、昔のあそび、ガイドツアー、クイズラリー、
 - 民家園催し、どこでも博物館情報、親子ふれあいスペース
- イ 宮崎の自然史情報【地質部門】
- ウ 「博物館講座」案内
- エ 博物館情報



③ 「博物館わくわく通信」の発行

総合博物館の資料や活動などを紹介する「博物館わくわく通信」（年2回発行）は、展示解説員が作成を担当しており、4月と10月に発行した。幅広い方々に楽しめるように分かりやすい表記を心がけている。また、館内での掲示も行い、周知に努めている。

(3) ホームページ等による情報発信運用

本館のホームページでは、施設や利用案内などの基本情報のほか、展覧会や講座などの行事案内、広報紙「森の通信」を掲載するなど、本館の様々な情報を伝える手段として多くの方々に利用していただいている。

令和3年度は、新着情報の掲載を中心に平均月45.5回(年546回)の更新を行うとともに、SNSでは、Facebookが129件、Twitterが146件、Instagramが106件の投稿を行った。令和3年度のホームページのアクセス数は年間357,683件となった。

(4) 県広報紙等への掲載

本館が実施する特別展や講座、その他の催しなどについて、県の広報媒体を利用した広報を行ったほか、報道機関に情報を提供する報道処理や報道機関からの求めに応じて情報提供を行い、新聞やテレビ・ラジオ、情報誌等を通じた広報活動を行った。

令和3年度の報道処理件数は、55件であり、報道処理等によりマスコミが報道した件数は、196件であった。

① 県広報媒体による広報

ア 県政けいじばん(毎月第2第4週末)

掲載日	内 容
令和3年 4月第2週	博物館講座「よろい・かぶと着用体験」参加者募集
4月第4週	博物館講座加江田溪谷ハイキング「シダ・コケ植物観察会」参加者募集
5月第2週	博物館講座「光るきのこづくり」参加者募集
6月第2週	博物館講座「きのこ観察会」参加者募集
6月第4週	特別展「絶滅モンスター展 2021～恐竜 VS 哺乳類～」のお知らせ
令和4年 1月第2週	博物館講座「大淀川下流域の考古学～弥生時代のムラと墓～」参加者募集
3月第2週	「民家園春まつり」のお知らせ
3月第4週	令和4年度特別展開連講座「ウミガメのための海岸清掃」参加者募集

イ 県広報紙「県広報みやざき」

掲載日	内 容
令和3年 6月号	博物館講座「宮崎の歴史を学ぶ1」〈今川了俊と南九州〉
8月号	特別展「絶滅モンスター展 2021～恐竜 VS 哺乳類～」
10月号	特別展「発見!きのこランド」～宮崎の自然をはぐくむきのこの世界～
12月号	大公開!地球上最大の海洋肉食獣「マッコウクジラ」骨格標本展示
令和4年 2月号	総合博物館の常設展示はいつでも無料!
4月号	第42回SSP展 自然を楽しむ科学の目

ウ 県広報番組

○ 県広報番組（広報戦略室）

MRTテレビ「おしえて！みやざき」

- ・ ふしぎ発見！博物館（民俗展示室の紹介）

MRTラジオ「おはよう県庁です」

- ・ 第41回SSP展 自然を楽しむ科学の目
- ・ 特別展「絶滅モンスター展 2021～恐竜VSほ乳類～」
- ・ 大公開！地球上最大の海洋肉食獣「マッコウクジラ」骨格標本展示
- ・ 民家園春まつり

UMKテレビ「おしえてケンチョー」

- ・ 特別展「絶滅モンスター展 2021～恐竜VSほ乳類～」

○ 県教育委員会広報番組（教育庁教育政策課）

MRTテレビ「みらい みやざき まなび隊」

- ・ 特別展「絶滅モンスター展 2021～恐竜VSほ乳類～」

UMKテレビ「のびよ！みやざきっ子」

- ・ 民家園春まつり

計 22件

② 新聞への掲載

ア 展示に関する掲載

○ 「第41回SSP展」（日本自然科学写真協会展）

〈告知〉夕刊デイリー（4/19）、宮日（4/25）

〈記事〉秘宝にくぎ付け。宮崎日日新聞（4/25）

虫や草花に接近 夢中でパシャリ宮崎日日新聞（5/8）

自宅からオンライン 自然楽しむ写真150点毎日新聞（5/17）

オンライン 会場ぐるり宮崎日日新聞（5/21）

館内展示 オンラインで 剥製標本など読売新聞（5/27）

計 7件

○ 「絶滅モンスター展2021」

〈告知〉宮崎日日新聞（5/13、5/15、5/18、5/22、5/23、5/27、5/30、6/2、6/4、6/5、6/6、6/10、6/11、6/13、6/17、6/19、6/20、6/27、6/28、6/30、7/1、7/3、7/5、7/8、7/9、7/14、7/17、7/18、7/21、7/23、7/24、7/25、7/26、7/28、7/29、7/30、7/31、8/1、8/2、8/4、8/6、8/7、8/8、8/9、8/10、8/11、8/12、8/15、8/18、8/19、8/20、8/21、8/22、8/23、8/25、8/26、8/27、8/28、8/29、8/30、9/1、9/2、9/3）

夕刊デイリー（6/26）

南日本新聞（7/14）

計 65件

〈記事〉恐竜の全身骨格圧倒

宮崎日日新聞（6/27）

子どものティラノサウルス全身骨格組み立て毎日新聞（6/27）

生命誕生、進化の歴史迫る

宮崎日日新聞（7/7）

絶滅モンスター展きょう開幕

宮崎日日新聞（7/10）

迫力の骨格標本ずらり

宮崎日日新聞（7/11）

生命の誕生、進化学ぼう

宮日こども新聞（7/17）

来場1万人突破

宮崎日日新聞（7/22）

「絶滅モンスター展」入場者 1 万人達成	毎日新聞 (7/24)
来場 2 万人突破	宮崎日日新聞 (7/29)
生命の進化 楽しく学ぶ	宮崎日日新聞 (8/13)
ティラノサウルス	宮日こども新聞 (8/14)
哺乳類の祖先資料展示	宮日こども新聞 (8/28)
絶滅モンスター展あす閉幕	宮崎日日新聞 (9/4)
絶滅モンスター展きょう閉幕	宮崎日日新聞 (9/5)
絶滅モンスター展閉幕	宮崎日日新聞 (9/6)

計 15 件

○ 「発見！きのこランド」

〈告知〉

〈記事〉 キノコ知り広がる世界	宮崎日日新聞 (10/21)
キノコ発見！250種	朝日新聞 (10/29)
「発見！きのこランド」講演会受講者募集	宮崎日日新聞 (10/29)
「光るキノコ」粘土で作る	毎日新聞 (11/14)
宮崎のキノコを集めた展覧会を開催中	宮崎日日新聞 (11/18)

計 5 件

○ 「岩合光昭写真展 こねこ」

〈告知〉	宮崎日日新聞 (12/15、12/20、12/25、12/29、12/31、1/6、1/11、1/16、1/20、1/24、1/26、1/29、2/2、2/3、2/7、2/8、2/10、2/11、2/13、2/17、2/18、2/19、2/23、2/25、2/26、3/5、3/6、3/8、3/10、3/12、3/16、3/17、3/21、3/24、3/26、3/28)
------	---

計 36 件

〈記事〉 愛くるしさに、ほっこり	宮崎日日新聞 (1/1)
「こねこ」きょう開幕	宮崎日日新聞 (2/19)
愛らしい「こねこ」一堂に	宮崎日日新聞 (2/20)
「こねこ」岩合さんインタビュー	宮崎日日新聞 (2/27)
世界の子ネコ大集合	読売新聞 (3/3)
「こねこ」来場 5000 人突破	宮崎日日新聞 (3/5)
「こねこ」愛らしさに きゅん	宮崎日日新聞 こども新聞 (3/12)
こねこ展 来場 1 万人突破	宮崎日日新聞 (3/20)
「かわいいー」 「癒やされる」	宮崎日日新聞 (3/23)
歩廊 “ミニねこ展” やってますー。	宮崎日日新聞 (3/25)

計 10 件

イ 講座に関する掲載

- [illegible]

計 17 件

ウ その他イベントに関する掲載（コラム等）

- | | | |
|----------------------------------|------------|---------------------|
| ○ 美術館だより | ※毎週木曜日掲載 | 宮崎日日新聞（通年） |
| ○ 県総合博物館が HP リニューアル | | 夕刊デイリー（4/6） |
| ○ 県総合博物館で種の不思議紹介 | | 宮崎日日新聞（4/21） |
| ○ 1970年代のラジカセ紹介 | | 読売新聞（4/29） |
| ○ 歩廊 まるでよろいー。「アーマー展」 | | 宮崎日日新聞（4/30） |
| ○ 総合博物館で温かさ感じた | | 宮崎日日新聞（4/30） |
| ○ まるでよろい外骨格生物 | | 読売新聞（6/10） |
| ○ 歩廊 「人面犬」 | | 宮崎日日新聞（8/11） |
| ○ 県内の植生、地質は | 屋久島研修の事前学習 | 宮崎日日新聞（9/24） |
| ○ 歩廊 大迫力ー。 | | 宮崎日日新聞（10/15） |
| ○ 宮崎の歴史から自然まで見て、触って、楽しく学べる | | 宮崎日日新聞 きゅんと（11/18） |
| ○ 19日、どこでも博物館 in 島野浦小 | | 夕刊デイリー（11/18） |
| ○ 大きな骨格、分厚い歯 マッコウクジラの下顎 | | 夕刊デイリー（12/7） |
| ○ マッコウクジラ大迫力 川南に14年漂着 | | 宮崎日日新聞（12/9） |
| ○ 恐竜の頭骨「大きい」 | | 宮崎日日新聞（12/12） |
| ○ マッコウクジラ骨格展 | | 宮崎日日新聞 きゅんと（12/16） |
| ○ マッコウクジラ16メートルの骨格標本 | | 宮崎日日新聞（12/20） |
| ○ 巨体マッコウクジラ標本に 児童が組み立て | | 朝日新聞（12/21） |
| ○ 大公開！地球上最大の海洋肉食獣「マッコウクジラ」骨格標本展示 | | 毎日新聞 こども新聞（12月） |
| ○ 歩廊 感動よみがえるー。 | | 宮崎日日新聞（12/22） |
| ○ 迫力標本 クジラの大きさ実感 | | 宮崎日日新聞 こども新聞（12/25） |

- 地域資源調べ活性化 宮崎日日新聞 (12/26)
- 五輪聖火リレートーチなど10点 読売新聞 (1/20)
- 化石や剥製、骨格展示 宮崎市で「ネコ科」展 毎日新聞 (2/12)
- 宮崎県総合博物館で「雛祭り」展開催 毎日新聞 (2/21)
- 足を運ばなくても楽しめます。 宮崎日日新聞 (2/26)
- エントランス・ロビー展 地上のハンターネコ科
毎日新聞 こども新聞 (3月)
- 地上のハンター ネコ科展 宮崎日日新聞 きゅんと (3/3)
- 「一日博物館長 小中学生を募集」 宮崎日日新聞 こども新聞 (3/26)
- 戦国武将の鎧展示 宮崎日日新聞 (3/31)

計 29件

③ テレビ・ラジオによる放送

○ MRTテレビ「ニュースNext」	○ MRTテレビ「Check!」
○ MRTテレビ「つづくさんのどようだよ」	○ MRTラジオ「バリ朝!土曜日」
○ MRTラジオ「サンデーラジオ大学」	○ UMKテレビ「スーパーニュース」
○ UMKテレビ「smile」	○ NHKテレビ「イブニング宮崎」
○ MCNケーブルテレビ「週刊マックン情報局」	○ FM宮崎「TODAYみやざき」

④ 定期刊行物・情報誌への掲載

- 日本博物館協会 機関誌「博物館研究」(毎月掲載)
- 全国科学博物館協議会「全科協NEWS」
- 宮崎市教育委員会 情報誌「わくわくランド」
- 鉦脈社「タウンみやざき」
- 宮崎の子育て応援フリーマガジン「Withplus」

⑤ Webメディアによる広報

- BIGLOBE 旅行
- J:COM ZAQ おでかけガイド
- おでかけ情報サイト「いこーよ」
- Trip Advisor
- 宮崎市観光サイト
- 日本旅行
- 大東建託 進化する暮らし
- ゆこゆこネット
- ディスカバー宮崎
- まいぷれ宮崎
- Walkerplus (KADOKAWA)
- goo 地図
- SmartNews
- 旬ナビ
- じゃらん net

⑥ 本館の刊行物

- 宮崎県総合博物館研究紀要 第42輯
- みやはく通信 第1、2号

(5) その他の広報及びイベント

① 4館見学ツアー

平成25年度から実施している県立美術館、県立図書館及び県総合博物館による「3館見学ツアー」に、平成28年度から新たに県立芸術劇場を加えた4館が連携して、「4館見学ツアー」をスタートさせた。この見学ツアーは、見学者が本館に申込を行うことにより4館を一度に見学することが可能で、本県の芸術・文化・歴史等の魅力を総合的に観覧することができ、令和3年度は、次の5団体183人の利用があった。

実施日	団 体 名	参加人員 (人)	内 訳 (人)			
			博物館	美術館	図書館	芸術劇場
5月14日(金)	国富町立八代小学校	26	26	26		26
5月20日(木)	都城市立木之川内小学校	10	10	10		
6月20日(日)	宮崎大学教育学部	33	33	33		33
7月 1日(木)	宮崎市立櫛小学校	109	109	109	109	
9月15日(水)	江南よしみ地域生活支援センター	5				5
計 (5団体)		183	178	178	109	64

② 県庁職員の情報ネットワークを活用したイベント情報等の発信

県庁職員の情報ネットワークに「全庁掲示板」があり、ネットワークに繋がっている知事部局及び教育委員会等の各職員に一斉に情報を発信することが可能である。

この「全庁掲示板」を活用して、前月末に月毎の「イベント情報」や「特別展や講座情報」等を発信した。

③ 観光関係機関等へのPR

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、他県との往来が厳しい状況となったが、特別展「第41回SSP展」や夏の特別展「絶滅モンスター展」、秋の特別展「きのこランド」などの広報において、宮崎市内の観光案内所などの観光関係機関、国際交流関係機関、文化団体、館周辺の飲食店などを訪問し、ポスター・チラシなどを配布・説明を行った。

④ 博物館こどもDAY

令和3年11月3日(水)の文化の日に実施した。昨年まではエントランスロビーに展示等を集中させていたが、コロナウイルス感染拡大防止に留意し、今回は会場を館内外に分散させた。

緊急事態宣言下でやむなく中止した「絶滅モンスター」展でのワークショップや海ざんまい事業のタッチプールを復活開催させ、秋の特別展「きのこランド」展でのギャラリートークや文化の日クイズラリーなど盛りだくさんの内容で実施した。

また、隣接する埋蔵文化財センターの施設公開と同日共同開催を行い、両館を巡るスタンプラリーを設けたことで、入館者を相互に行き来させる良い機会となった。さらに、参加者に配布する缶バッジも、非常に好評であった。博物館こどもDAYでは、1,932人という多くの来場者に恵まれ、博物館の魅力を伝える良い機会となり、子どもたちの楽しそうな笑顔は職員の励みになった。



博物館こどもDAY

⑤ クリスマスツリー設置

入館者数の少ない 12 月にクリスマスツリーを設置し、博物館ならではのオーナメント（飾り物）を装飾することで、少しでも賑わいを醸成し、入館者数に結び付けるために、本館 1 階エントランスホールに高さ約 2.4 m のクリスマスツリーを設置した。

設置期間 令和 3 年 12 月 1 日（水）～12 月 26 日（日）



クリスマスツリー

⑥ クリスマスコンサート

本館 1 階のエントランスホールを利用して、入館者の少ない冬場にコンサートを開催することにより、普段博物館になじみのない方々にも足を運んでもらい、宮崎の自然や歴史に関心を持ってもらうために、クリスマスコンサートを開催した。

実施日：令和 3 年 12 月 12 日（日）

午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分

会 場：1 階 エントランスホール（北側）

内 容：宮崎市内で活躍されているチェロ奏者の土田浩さんと電子ピアノ奏者の土田悦子さんご夫婦によるクリスマスにちなんだ曲を中心とした演奏会であった。



クリスマスコンサートの様子

2 経営

魅力のある総合博物館として適正な管理運営を行うため、来館者へのアンケート調査を行うとともに来館者の安全・安心を確保するため、職員研修や危機管理に対応する訓練等を行っている。

(1) 来館者のアンケート調査

入館者の実態や館の運営状況に対する意見を把握し、その集計結果を今後の館の運営に適正に反映させるため、平成14年度から入館者個人及び団体に対してアンケート調査を実施している。個人アンケートでは、1階と2階でそれぞれに記入場所を設けて任意で回答をお願いし、団体アンケートでは、代表者に記入をお願いして回収するようにしている。また、個人アンケート回収数を増やすために、令和2年度からアンケート回収強化期間を年4回設定している。

各種アンケート	有効回答数	アンケート満足度	満足度数(%)
① 個人アンケート	898	集中アンケート	97
② 学校団体アンケート	76	全体アンケート	93
③ 一般団体アンケート	90		
④ 特別展アンケート	2,827		
合 計	3,891		

*集中アンケートは年4回の強化期間、全体アンケートは、年間を通して行っているアンケート

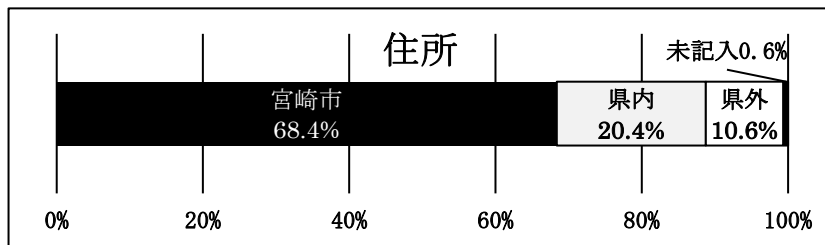
① 個人アンケート

ア 年齢・居住地について

年齢別割合は、10代以下の回答件数が約19%増加している。また、回答者の居住地については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により県外居住者が減少し、県内居住者について、約7%増加している。

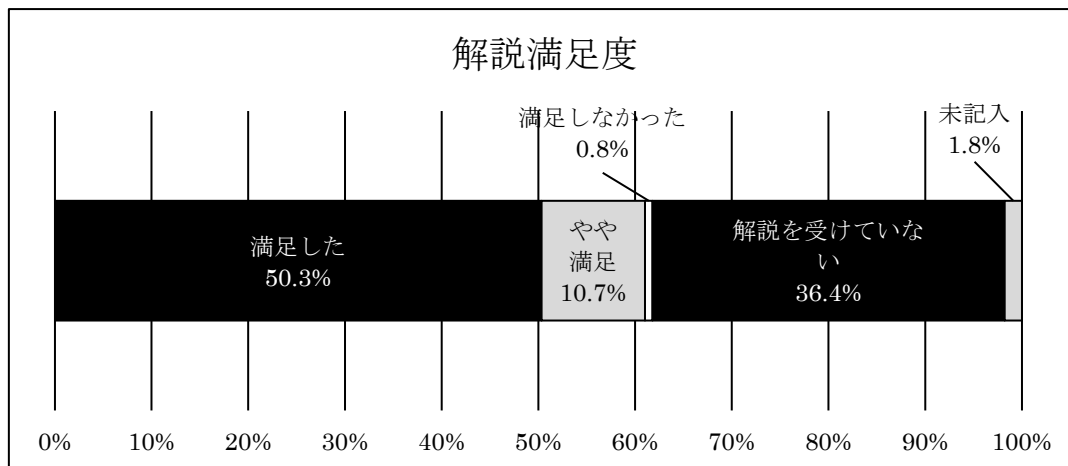
年代の内訳

9歳以下	34.9%
10代	24.1%
20代	9.2%
30代	10.1%
40代	7.6%
50代	4.2%
60代以上	9.0%
未記入	0.9%



イ 展示解説員の解説について

回答者の約62%が展示解説員の解説を受けており、ほとんどの方が「満足した」、「やや満足した」と回答している。今後も、引き続き解説サービスの周知を図り、解説を受ける方を増やすとともに、質の高い解説を目指していきたい。

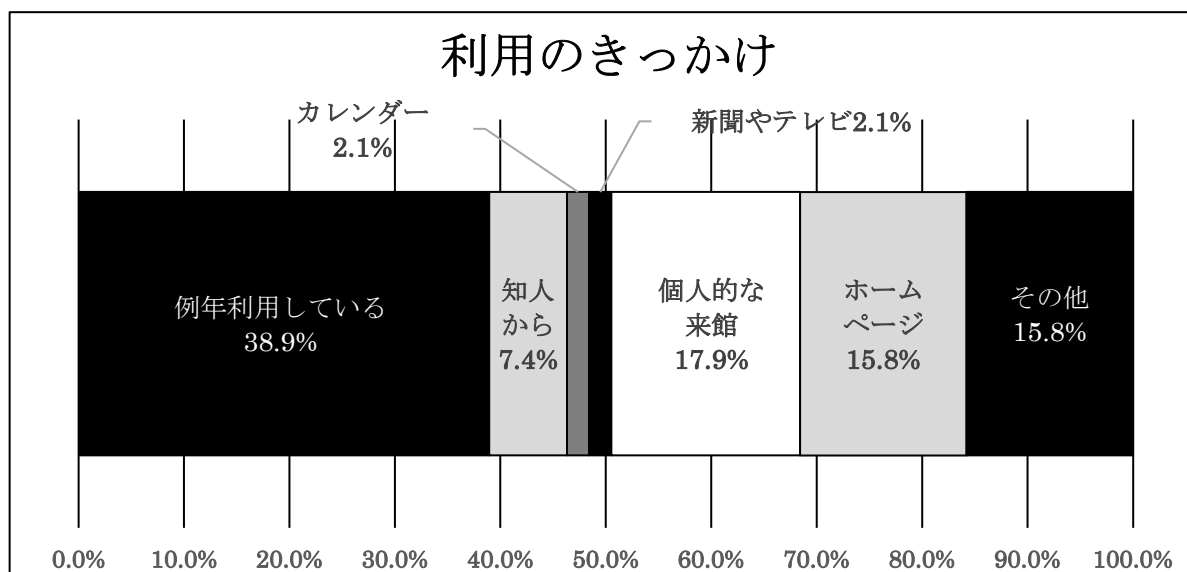


ウ 本館サービスに対する満足度について

サービス（展示資料、設備、職員の対応など）に「満足した」、「やや満足した」という回答は約95%であった。今後も、資料・設備のメンテナンス、展示解説等をしっかり行い、さらに満足度を高められるよう努めていきたい。

② 学校団体アンケート

来館のきっかけは、「例年利用している」が38.9%であり、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年利用している学校の利用が少なかったと考えられる。今後も、教育活動に利用したいと思わせるように様々なサービスを提供することにより、例年利用している割合を増やしていきたい。



③ 一般団体アンケート

博物館の情報の取得手段については、右表の通りで、「ポスター・チラシ」や「ホームページ」による取得が多い。「ポスター・チラシ」については、企画の趣旨に合わせて、配布場所や配布数に変化をもたせ配布を行っている。「ホームページ」に関しては、年間更新回数を増やすことにより、ホームページへのアクセス件数も増えてきている。SNSについては、特別展や講座の様子、様々な情報などを適宜発信して、当館の魅力を伝えているが、取得手段の割合は低い状況にある。今後もSNSについては、工夫しながら取り組んでいく必要がある。

ポスター・チラシ	22.8%
ホームページ	19.9%
みやはくカレンダー	11.0%
テレビ・ラジオ	11.0%
看板	8.8%
情報誌・フリーペーパー	3.7%
家族・知人の紹介	3.7%
SNS	2.9%
新聞	2.9%
その他	13.2%

④ 特別展アンケート

主催事業の3回の特別展では、すべてアンケートを実施した。満足度調査では、「大変良かった」「良かった」を合わせると約92%となり、来場者には概ね好評であった。今後も創意工夫を重ね、魅力ある特別展の開催に努め、満足度を高めていきたい。

特別展の満足度	
大変良かった	65.1%
良かった	26.8%
普通	3.5%
良くなかった	0.5%
未記入	4.0%

(2) 職員の資質向上

本館は、広く県民が利用する施設であることから、来館者への適切な対応や危機などの事象管理など、博物館職員として基本的な資質が求められている。このため、全職員を対象とした基本研修や県内外での研修、解説員の研修などを行った。

回数		実施日及び研修期間	場 所	研修会・視察等の名称及び研修内容	参加者
①	基本 研修	令和3年4月20日	研修室1等	・コンプライアンス研修 ・資料保存研修（IPMウォッチングの重要性） ・よろい、かぶと着用体験	全職員
②		令和4年3月1日	展示室1階ロビー	・人権研修 ・コンプライアンス研修	全職員
③		令和4年3月2日	研修室1	学芸課職員研修 ・資料梱包方法及び運搬の技能研修 講師：日本通運㈱ 岡野章一 氏 ※博物館等協議会会員へのオンライン聴講を実施（申込22人）	学芸課 職員
④		令和4年3月8日	研修室1	学芸課による調査研究報告会	全職員
⑤	県内・ 県外 研修	令和3年 7月5日～6日	国際マンガミュージアム、神戸ゆかりの美術館	特別展に係る調査	平松 河野
⑥		令和3年 7月6日～7日	国立科学博物館筑波実験植物園、千葉県立中央博物館	特別展に係る調査	黒木
⑦		令和3年 7月14日～16日	国立科学博物館筑波研究施設、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、大洗水族館	特別展に係る調査	田口 竹下
⑧		令和3年 10月27日～28日	群馬県立歴史博物館、群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘情報館、富岡製糸場	特別展に係る調査 他館視察	二宮 永田
⑨		令和3年 12月1日～4日	国立科学博物館、鳥取県立博物館、九州国立博物館	資料返却・他館視察	黒木
⑩		令和3年 11月17日～19日	かでのホール、国立アイヌ民族博物館	全国博物館大会参加・他館視察	川口 福松
⑪		令和3年12月2日	宮崎市生目の杜遊古館	宮崎県博物館等協議会研修会	川口 福松 学芸担 当職員
⑫		令和4年1月17日	宮崎県総合博物館（オンライン）	国立科学博物館 学芸員研修	田口
⑬		令和4年2月18日	宮崎県総合博物館（オンライン）	全国科学博物館協議会 研究発表大会	中山 二宮 濱田
⑭		令和4年2月26日	宮崎県総合博物館（オンライン）	第38回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会	濱田
⑮		令和4年 3月10日・14日	宮崎県立西都原考古博物館、宮崎市埋蔵文化財センター	特別展に係る調査	二宮

①⑥		令和4年 3月16日～18日	大阪市立自然史博物館、名古屋 市科学館、名古屋大学博物館	特別展に係る調査	田口
①⑦		令和4年3月28日	宮崎県総合博物館 研修室1	令和3年度文化庁「大学における 文化芸術推進事業」 学芸員研修会「園芸療法」	福松 中山 黒木 濱田 永田
①⑧	解 説 員 研 修	令和3年9月16日	宮崎市	展示解説員館外研修	解説員
①⑨ ～ ②②		令和3年 5月19日ほか	博物館展示室	新任解説員発表研修 (自然史・歴史・民俗・むかしの道具)	解説員
②③		令和4年3月8日	展示室及び研修室	3年目研修	解説員

① 基本研修

基本研修は年4回実施し、休館日等を利用して行った。

コンプライアンス研修をはじめ全職員で取り組むIPMウォッチングなどの資料保存研修、学芸課職員が調査研究した発表研修などをおこなった。

② 県内・県外研修等

県外研修では、主に特別展における資料調査を中心に行い、県内研修ではさまざまに計画された研修に参加した。今年度は、専門研修等がコロナ感染症の影響で中止されるなど、参加できないものもみられた。

③ 展示解説員への研修

館外研修では、学芸課職員の案内で展示解説員全員が宮崎市周辺を訪れ、植物、地質、民俗などの実地見学を行い、知識の習得に努めた。

また、経験年数に応じた研修として、今年度展示解説員になった職員に対しては、学芸課の職員から展示の説明を受けた後、自然史・歴史・民俗の各展示室と「昔の道具」について、マニュアルに沿った発表研修を行った。3年を経過した展示解説員は、キオビエダシャクに関して自己学習した内容を発表する研修を行い、資質の維持向上に努めた。また、全員の取り組みとして、民俗展示室展示解説シートの作成を行った。



巨田神社（宮崎市）での館外研修

(3) 危機管理

本館は、広く県民が利用する施設であり、毎日多くの来館者が訪れる。

また、県民の財産である貴重な資料の収蔵や民家4棟【国重要文化財(2)・県有形文化財(2)】を移築復元していることなどから、各種の危機事象に適切に対応するための「危機管理マニュアル」や「防火管理規程」を作成して、職員への防災・防火訓練等を実施している。

回数	実施日	内 容
①	令和3年4月20日	危機管理マニュアル等に関する研修や救急講座
②	令和3年6月8日	地震想定防災訓練

① 防災・防火等研修

年度当初の4月20日に、全職員を対象に危機管理マニュアルに基づく様々な危機事象に応じた対処方法等やAEDの取扱を含めた救急講座を実施した。

② 防災訓練

6月8日に日向灘南部を震源とする震度5の地震を想定した防災訓練を計画し、全職員による避難誘導や伝達訓練を行った。

また、地震体験車を利用して、東日本大震災などの過去の大地震の体験も行った。

(4) 外部運営資金の獲得

博物館講座開催経費に係る外部資金として、公益財団法人日本海事科学振興財団の「海の学びミュージアムサポート」へ助成金申請を行い、支援を受けた。

また、秋の特別展「発見！きのこランド」では一般財団法人全国科学博物館振興財団に助成金申請を行い、支援を受けた。

(5) 県内にある博物館等との連携

【宮崎県博物館等協議会】

① 設立趣旨

宮崎県博物館等協議会は、県内の博物館、美術館、歴史資料館、動物園等が、共同して広報活動を行うとともに、研修会や視察等を通じて、運営上の課題やその対策の情報共有や意見交換を行うことで、会員館の機能の充実や県民の施設利用の促進を図り、本県の学術文化の進展に寄与することを目的に設立された。平成元年1月に設立された宮崎県博物館等連絡協議会を前身とし、平成13年度に会費制導入など組織体制の見直しを行った際、現在の名称に変更している。

② 会員数

令和4年3月31日現在 県内の36施設

③ 令和3年度の活動状況

ア 役員会・総会

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面による審議と議決に代えた。令和2年度の事業報告、決算報告等及び、令和3年度の事業計画、収支予算を審議し、承認を得た。また、災害時相互協力等に関する規約の一部改正についても承認を得た。

イ 研修会

当初5月、10月に実施予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため1回に集約して実施した。

期日：令和3年12月2日（木）

会場：宮崎市生目の杜遊古館

a 研修・情報交換

- ・文化財保存活用大綱の策定（県文化財課 甲斐貴充 主査）
- ・基礎から学ぶ新型コロナウイルス（峰松俊夫 医師）

b 視察

宮崎市生目の杜遊古館展示室（説明 宮崎市歴史資料館 永井淳生 館長）



研修（峰松医師の講演）



視察（永井館長の説明）

ウ 正副会長館及び理事館の担当者会

令和3年度実施事業及び予算執行についての事務局報告、令和4年度の事業案及び予算案の検討等を行った。

期日：令和4年2月16日（水）

方法：オンライン会議

エ 機関紙の発行

『宮博協だより 日向路の博物館 26号』を令和4年3月に発行した。

V 宮崎県博物館協議会

1 設置根拠

宮崎県博物館協議会条例（平成 15 年条例第 43 号）、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 20 条

2 目的

総合博物館及び西都原考古博物館の運営に関し、県民の様々な意見を幅広く活かすため、各館長の諮問に応ずるとともに、当該各館長に対して意見を述べる。

3 委員数 16 人

4 令和 3 年度の開催状況

○令和 3 年 10 月 27 日（水） 西都原考古博物館 1 階ホールにおいて開催

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため 9 / 3 （金）開催予定を延期）

- 議 題
- (1) 令和 2 年度総合博物館の事業報告及び評価について
 - (2) 令和 2 年度西都原考古博物館の事業報告及び評価について
 - (3) 令和 3 年度総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について
 - (4) その他

【委員名簿】

（任期：令和 2 年 7 月 30 日～令和 4 年 7 月 29 日）

区 分	氏 名	役 職 名 等	専 門	備 考
学校教育関係者	永 山 新 一	えびの市教育長	教育行政	
	大 重 美 貴	野の花幼稚園長	幼稚園	
	満 園 真由美	都城市立明和小学校長	小中学校	
	堀 田 由美子	尚学館小学校長	私立学校	
	矢 野 恭 子	県立日南くろしお支援学校長	県立学校	
社会教育関係者	山 口 和 代	県地域婦人連絡協議会 前幹事 延岡市地域婦人連絡協議会 会長	婦人団体	
家庭教育関係者	中 嶋 由 香	県 P T A 連合会 前副会長	P T A	
学識経験者	川野 美奈子	県社会福祉協議会 副会長	社会福祉	
	片 寄 元 道	県観光協会 専務理事	観光	
	出 口 智 久	宮崎市フェニックス自然動物園 前園長・顧問	動物	
	山 下 裕 亮	京都大学防災研究所附属地震予知研究セ ンター 宮崎観測所 助教	地質	
	柴 田 博 子	宮崎産業経営大学法学部 教授	歴史	
	那 賀 教 史	宮崎民俗学会 副会長	民俗	
	八ッ橋 寛 子	宮崎大学教育学部 教授	植物	会 長
	柳 澤 一 男	宮崎大学 名誉教授	考古	副会長
公募委員	谷 山 敦 子	フリーライター	公募	

参考資料

1	令和2年度 日誌(抄)	8 5
2	博物館の沿革	8 8
3	第2期中期運営ビジョン評価表(令和元年度分)	9 5
4	県総合博物館関係法規	1 0 3
	(1) 宮崎県総合博物館条例	1 0 3
	(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例(抄)	1 0 3
	(3) 宮崎県博物館協議会条例	1 0 4
	(4) 宮崎県総合博物館管理運営規則	1 0 5
	(5) 宮崎県総合博物館処務規程	1 1 4
	(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱	1 1 4
	(7) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱の運用	1 1 7

令和3年度 日誌(抄)

年月日	事 項
令和3年04月03日	展示解説(自然史・歴史・民俗) ※毎週土・日曜日・祝日・・・以下記載省略
(2021)04月03日	「むかしのあそび」 ※第1・3・5土曜日・・・以下記載省略
04月03日	民家園ボランティアによる「囲炉裏の火入れ」(民家園) ※毎週土曜日・・・以下記載省略
04月04日	「紙芝居」 ※毎週日曜日・祝日・・・以下記載省略
04月10日	「クイズラリー(常設展示室)」 ※第2・4土曜日・・・以下記載省略
04月10日	民家園利用事業「着物でおまいり！」
04月17日	みやざきの昔話公演
04月18日	民家園利用事業「撮影交流会ほごコス！」
04月24日	特別展「第41回SSP展」開会式・一日博物館長・内覧会
04月24日	特別展「第41回SSP展」開幕 (4/24～6/6)
04月25日	SSP展 みやはく50記念特別講演会「生きものの写真で伝えたいこと」 ※中止
04月25日	SSP展 ギャラリートーク(講演会代替)
04月25日	2階ロビー展「絶滅モンスター展」プレ展示 (4/25～6/14)
04月25日	1階エントランスロビー展「出陣! よろい武者 戦国武将の世界」(3/27～4/25)
04月29日	1階エントランスロビー展「アーマー展」(4/29～6/6)
04月29日	博物館講座「見つけよう! 海のお宝がら」 ※中止
04月29日	GW特別企画 むかしの道具ガイドツアー
04月29日	GW特別企画 むかしのあそび拡大版
05月01日	博物館講座「春の野の花観察会(霧島山)」 ※延期
05月01日	GW特別企画 むかしなつかし着せかえやよいちゃん! (5/1～5/5) ※6/6まで 土日限定で延期
05月01日	学芸員によるガイドツアー
05月01日	GW特別企画 むかしのあそび拡大版
05月02日	博物館講座「春の野の花観察会(霧島山)」(5/1分)
05月02日	SSP展関連講座・子ども向け写真教室「生きものKids写真教室」 講師: 東木場昭裕氏
05月02日	GW特別企画 自然史・タネの不思議にふれてみようガイドツアー
05月03日	GW特別企画 自然史・タネの不思議にふれてみようガイドツアー ※中止
05月04日	みどりの日クイズラリー ※中止
05月04日	GW特別企画 クイズラリーガイドツアー ※中止
05月04日	学芸員によるガイドツアー ※中止
05月05日	博物館講座「よろい・かぶと着用体験」 ※中止
05月05日	「よろい・かぶと着用体験」代替講座
05月05日	GW特別企画 むかしの道具ガイドツアー ※中止
05月08日	博物館講座「鶴戸山の民俗を学ぼう」 ※中止
05月08日	コロナウイルス感染拡大に伴い、イベント中止 ※クイズラリー
05月09日	コロナウイルス感染拡大に伴い、イベント中止 ※紙芝居
05月09日	SSP展ギャラリートーク ※中止
05月10日	県の緊急事態宣言 コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館 (5/10～5/31)
05月15日	博物館講座「シダ・コケ植物観察会」 ※中止
05月15日	みやざきの昔話公演 ※中止
05月16日	博物館講座「不思議な磯の生きものたち」 ※延期
05月16日	SSP展ギャラリートーク ※追加日程中止
05月23日	SSP展関連講座「プロに学ぶ! 写真撮影講座」 講師: 東木場昭裕氏 ※延期
05月29日	博物館講座「光るきのこづくり」 ※延期
05月30日	SSP展ギャラリートーク ※中止
06月02日	特別展「絶滅モンスター展2021」前売券販売開始 (6/2～7/9)
06月05日	SSP展関連講座「プロに学ぶ! 写真撮影講座」 講師: 東木場昭裕氏 (5/23分)
06月06日	SSP展ギャラリートーク
06月06日	特別展「第41回SSP展」閉幕
06月06日	民家園利用事業「撮影交流会ほごコス！」
06月07日	特別整理期間 (6/7～6/11) ※予定をしていたが、開館
06月07日	第1回アンケート強化期間 (6/7～7/7)
06月12日	博物館講座「宮崎の歴史を学ぶI」
06月12日	博物館講座「光るきのこづくり」① (5/29分)
06月13日	博物館講座「光るきのこづくり」② (5/29分)
06月19日	みやざきの昔話公演
06月19日	1階エントランスロビー展「絶滅モンスター展 序章」 (6/19～9/5)
06月26日	特別展「絶滅モンスター展2021」関連 恐竜骨格組立見学会
06月26日	友の会行事 講座「きのご観察会」
07月03日	博物館講座「きのご観察会」 ※延期
07月03日	2階ロビー展「愛鳥作品コンクール」 (7/3～7/25)
07月04日	民家園利用事業「撮影交流会ほごコス！」 ※中止
07月10日	特別展「絶滅モンスター展2021」開幕 (7/10～9/5)
07月11日	博物館講座「きのご観察会」(7/3分)
07月17日	みやざきの昔話公演・こわい話特集

年月日	事 項
07月18日	特別展「絶滅モンスター展2021」講演会1 よみがえれ！絶滅モンスター～なぜ化石から姿がわかるの？～
07月21日	特別展「絶滅モンスター展2021」 1万人目セレモニー
07月24日	友の会研修「歴史研修会」
07月28日	特別展「絶滅モンスター展2021」 2万人目セレモニー
07月30日	どこでも博物館事業「高千穂町としょかんまつり」 (7/30～7/31)
07月31日	2階ロビー展「みやざきの伝統工芸品展」 (7/31～9/5)
08月01日	博物館講座「化石のレプリカを作ろう」
08月02日	博物館講座「夏休みの自由研究 押し葉標本をつくろう！」
08月06日	特別展「絶滅モンスター展2021」 3万人目セレモニー
08月07日	博物館講座「採集作品の名前を調べる会」 ※中止
08月07日	まん延防止に伴いイベント中止（むかしのあそび・紙芝居・展示解説） (8/7～9/26)
08月08日	特別展「絶滅モンスター展2021」復活！サーベルタイガー～古生物の復元模型を作ろう～
08月09日	特別展「絶滅モンスター展2021」講演会2 動物が、好きですか？～動物園の魅力と役割～ 講師：出口智久氏
08月14日	海さんまい事業「フォトスボット」 (8/14、8/15)
08月14日	博物館de「磯」！～ナマコにヒトデ磯の生き物触察体験」 ※延期
08月18日	博物館実習 (8/18～8/27)
08月21日	みやざきの昔話公演・こわい話特集 ※中止
08月22日	特別展「絶滅モンスター展2021」講演会3（リモート）絶滅モンスター列伝～絶滅動物の進化をたどる～ 講師：高栗祐司氏
08月29日	特別展「絶滅モンスター展2021」体験講座2 ※延期
09月04日	海さんまい事業「宮崎のサンゴは今」講演会
09月05日	特別展「絶滅モンスター展2021」 閉幕
09月08日	第2回アンケート強化期間 (9/8～10/15)
09月13日	燐蒸休館 (9/13～9/24) ※民家園休園 (9/16～9/21)
09月25日	1階エントランスロビー展「きのこランド」関連 (9/25～11/28)
09月25日	みやざきの昔話公演
10月03日	民家園利用事業「撮影交流会ほごコス！」
10月09日	2階ロビー展「後藤麻生コレクション展～立体造形の世界～」 (10/9～11/7)
10月09日	博物館講座「不思議な磯の生きものたち」 (5/16分)
10月10日	海さんまい事業「タッチプール」
10月10日	化石の日関連特別講座「モンゴルの地質調査より」 講師：大路樹生氏
10月15日	特別展「発見！きのこランド」 開会式
10月16日	特別展「発見！きのこランド」 開幕 (10/16～11/28)
10月16日	みやざきの昔話公演 ※中止
10月16日	特別展「発見！きのこランド」 ギャラリートーク
10月22日	特別展「発見！きのこランド」 5,000人目セレモニー
10月23日	博物館講座「干潟ってなあに～干潟の生き物大集合～」
10月23日	民家園利用事業「生け花体験」
10月24日	博物館講座「自然の色で染めてみよう」
10月24日	特別展「発見！きのこランド」関連イベント 宮崎きのこマーケット
10月27日	宮崎県博物館協議会（西都原考古博物館）
10月29日	特別展「発見！きのこランド」 1万人目セレモニー
10月30日	民家園ボランティア研修会
10月30日	博物館講座「宮崎の歴史を学ぶ2」
10月31日	博物館講座「大地のつくりを観察しよう（西郷編）」
10月31日	特別展「発見！きのこランド」講演会 「きのこの自然誌」 講師：吹春俊光氏
11月03日	博物館こどもDAY（絶滅モンスター「ゾウのなかま」展示、海のいきものタッチプール）
11月03日	特別展「発見！きのこランド」ギャラリートーク
11月03日	体験講座「進化のカギは『歯』だった！～恐竜と人類の歯のレプリカを作ろう！～」 講師：宮崎市郡歯科医師会 (8/29分)
11月03日	文化の日クイズラリー
11月03日	文化の日特別解説「自然史展示室特別解説ツアー、歴史民俗解説ツアー」
11月03日	講座「光るきのこ観察会」① ※中止
11月05日	みやざきシェイクアウト訓練
11月06日	特別展「発見！きのこランド」関連イベント 諸塚村のきのこ物産品販売
11月06日	博物館講座「宮崎の神楽を学ぼう」
11月06日	講座「光るきのこ観察会」② ※中止
11月07日	博物館講座「チリモンGetだぜ！」
11月07日	博物館友の会研修「歴史研修」
11月11日	特別展「発見！きのこランド」 2万人目セレモニー
11月11日	2階ロビー「アーマー展2」 (11/13～12/12)
11月13日	特別展「発見！きのこランド」関連講座 「光るきのこをつくろう」
11月14日	博物館講座「西都原古墳群の地下式横穴墓を観察しよう」
11月19日	どこでも博物館in島之浦小
11月20日	みやざきの昔話公演
11月21日	博物館講座「大地のつくりを観察しよう（青島編）」
11月21日	特別展「発見！きのこランド」 ギャラリートーク

年月日	事 項
11月27日	特別展「発見！きのこランド」 3万人目セレモニー
11月27日	民家園利用事業「コスプレ撮影会」
11月28日	特別展「発見！きのこランド」 ギャラリートーク
11月28日	特別展「発見！きのこランド」 閉幕
11月29日	1階エントランスロビー展「オリンピック」関連 (11/29～1/31)
12月01日	1階エントランス展示「クリスマスツリー」 (12/1～12/26)
12月03日	第3回アンケート強化期間 (12/3～1/7)
12月04日	博物館講座「佐土原人形絵付け体験」
12月05日	博物館講座「河川と海辺のマイクロモンスター観察～水辺を守るササラダニ～」
12月08日	どこでも博物館 in 日南くろしお支援学校
12月08日	海さんまい事業「マッコウクジラ骨格組み立て体験」
12月11日	海さんまい事業「マッコウクジラ骨格標本展示」 (12/11～12/25)
12月12日	1階エントランス「クリスマスコンサート」
12月15日	2階ロビー展「宮崎地域資源『宮崎の宝』写真展」(中山間・地域政策課) (12/15～1/30)
12月18日	海さんまい事業・講演会「マッコウクジラの大きな頭の秘密～宮崎の海のイルカ・クジラ～」
12月18日	1階ロビー展「MSEC 高校生の探究活動ポスター展」 (12/18～1/30)
12月19日	先進研究特別講座「不思議な球状コンクリーションを解明せよ！」 講師：吉田英一氏
12月25日	民家園「民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう」
12月26日	民家園利用事業「コスプレ撮影会」
12月27日	1階エントランス展示「風と昔の玩具」 (12/27～1/31)
12月28日	年末年始休館 (12/28～1/4)
01月09日	博物館講座「大淀川下流域の考古学～弥生時代のムラと墓～」
01月22日	防災訓練 (※3/5へ延期したが、年度中に行えなかった)
01月22日	まん延防止に伴いイベント中止(むかしのあそび・紙芝居・展示解説) (1/22～3/6 予定)
02月01日	館内メンテナンス期間 (2/1～2/8)
02月09日	第4回アンケート強化期間 (2/9～3/10)
02月09日	2階ロビー展「博物館でひなまつり」 (2/9～3/3)
02月09日	1階エントランスロビー展「地上のハンター『ネコ科』～絶滅種から現生種まで、ネコ科はヒミツがいっぱい！」 (2/9～3/21)
02月13日	博物館講座「海岸の砂を顕微鏡で観察しよう」 ※中止
02月18日	貸し館「岩合光昭 こねこ」展 開会式
02月19日	貸し館「岩合光昭 こねこ」展 開幕 (2/19～4/10)
02月19日	みやざきの昔話公演 ※中止
03月19日	民家園春まつり

2 博物館の沿革

西暦	年 月 日	事 項
	昭和	
1951	26 年 4 月 1 日	宮崎県立博物館設置 教育関係使用料及び手数料徴収条例入館料施行 〔大人 10 円、小人 5 円、団体 3 割引（20 人以上）〕 県立博物館規則を制定
	6 月 1 日	宮崎神宮徴古館において開館
	12 月 1 日	博物館法公布（法律第 285 号）
1952	27 年 4 月 1 日	県立博物館条例制定 博物館法による登録博物館として県教育委員会登録原簿に登録（登録番号 1 号）
1953	28 年 4 月 1 日	日高重孝が初代専任館長として就任
1957	32 年 4 月 1 日	県立博物館協議会規則を制定
	11 月 1 日	博物館協議会委員任命（初・10 人）
1958	33 年 4 月 1 日	入館料改訂 〔大人 20 円、小人 10 円、団体 3 割引〕
1962	37 年 5 月 2 日	皇太子殿下ご夫妻ご視察
1967	42 年 8 月 1 日	西都原資料館（分館）設置 西都市大字三宅 5670（908.06 m ² 、古代住居 27 m ² ）
	11 月 21 日	明治百年記念事業準備委員会が「宮崎県総合文化施設建設」を答申
1968	43 年 7 月 1 日	西都原資料館開館
1969	44 年 11 月 3 日	宮崎県総合文化施設（仮称）の起工式
1970	45 年 4 月 1 日	宮崎県総合文化施設開設準備事務局を設置 事務局長 柳宏吉外職員 11 人を発令
	10 月 11 日	閉館記念特別展「宮崎県立博物館館蔵品展」 （前期 10/1～11/8 後期 11/14～12/9）
	12 月 10 日	新設博物館移転準備のため休館
1971	46 年 3 月 2 日	宮崎県総合博物館設置 館長 柳宏吉外職員 19 人を発令 宮崎県総合博物館条例施行 宮崎市神宮町 458 番の 2 7,384.06 m ² （博物館・美術館・県民文化ホール）
	3 月 2 日	入館料改訂 〔大人 30 円(25 円)、中高生 20 円(15 円)、小学生 15 円(10 円)、（ ）は団体〕
	3 月 7 日	開館式典挙行 「宮中雅楽」特別鑑賞会、記念特別展、記念美術講演会(3.10)等を開催
	4 月 1 日	総合博物館協議会規則施行
	7 月 26 日	宮崎県総合博物館協議会委員会（初・20 人）
1972	47 年 10 月 3 日	本館・メキシコ文化博物館姉妹館盟約締結式挙行 盟約記念展、記念講演会等を開催
1973	48 年 3 月 30 日	「米良の民家」移築復元工事完了
	4 月 7 日	天皇・皇后両陛下ご視察
1974	49 年 9 月 1 日	住所表示変更 宮崎市神宮 2 丁目 4 番 4 号となる
1975	50 年 8 月 1 日	入館料改訂 〔大人 50 円(40 円)、高大学生 30 円(20 円)、小中学生 20 円(10 円)、（ ）は団体〕
	8 月 31 日	「旧黒木家住宅」（昭 48.2.23 国指定重要文化財）移築復元工事完了
1977	52 年 3 月 25 日	「椎葉の民家」移築復元工事完了
	52 年 9 月 14 日	皇太子殿下ご夫妻ご視察
1978	53 年 9 月 30 日	「旧藤田家住宅」（昭 48.2.23 国指定重要文化財指定）移築復元工事完了
1979	54 年 9 月 7 日	仮収蔵庫増設（199 m ² ）
	9 月 23 日	宮崎国体開催記念展を開催（日向の古墳展・ふるさと美術展 10/21 まで）
	10 月 13 日	身障者施設増設（トイレ 7.40 m ² ）
	10 月 16 日	天皇陛下西都原資料館ご視察

西暦	年 月 日	事 項
	昭和	
1981	56 年 3 月	博物館設置 30 周年、総合博物館 10 周年 昭和 56 年度に記念特別展等を開催
	12 月 17 日	民家園監視詰所新築 (13.25 m ²)
1982	57 年 2 月 25 日	工作室増設 (43.72 m ²)
	10 月 1 日	埋蔵文化財センターを総合博物館の構成施設として設置(1,516.68 m ²)
	10 月 2 日	埋蔵文化財センター開館記念特別展及び記念公演を開催
1983	58 年 4 月 1 日	入館料改訂 〔大人 100 円(80 円)、高大生 60 円(40 円)、小中学生 40 円(20 円)、() は団体〕
		置県 100 年、昭和 58 年度に記念特別展等を開催
1986	61 年 12 月 22 日	民家園「椎葉の民家」屋根葺替工事完了
1987	62 年 4 月 1 日	徳仁親王殿下西都原資料館ご視察
1988	63 年 4 月 1 日	入館料改訂 〔大人 150 円(120 円)、高大生 90 円(60 円)、小中学生 60 円(30 円)、() は団体〕
		ポンプ室新築(8.75 m ²)、屋内消火栓改修工事完了
	平成	
1989	元年 4 月 1 日	入館料改訂 〔大人 155 円(125 円)、高大生 90 円(60 円)、小中学生 60 円(30 円)、() は団体〕
	11 月 14 日	総合博物館本館屋根防水工事完了(第 1 期分美術棟ほか)
1990	2 年 5 月 19 日	’90 ひむかの祭典参加特別展を開催 ブリヂストン美術館名作展 5/19～6/17 ベルリン国立美術館展 10/26～12/16
	10 月 20 日	総合博物館本館屋根防水工事完了(第 2 期分管理棟)
1991	3 年 3 月	博物館設置 40 周年、総合博物館 20 周年 平成 3 年度に記念特別展等を開催
	4 月 1 日	入館料改訂 〔大人 200 円(150 円)、高大生 120 円(80 円)、小中学生 80 円(50 円)、() は団体〕
1992	4 年 1 月 31 日	総合博物館本館屋根防水工事完了(特展室)
	3 月 9 日	民家園「旧黒木家住宅」屋根葺替工事完了
	10 月 1 日	埋蔵文化財センター開設 10 周年
	10 月 3 日	埋蔵文化財センター開設 10 周年記念講演会を開催
1993	5 年 3 月 1 日	博物館本館屋根防水工事完了(第 4 期常設展示室)
	4 月 15 日	「日向の山村生産用具」重要有形民俗文化財に指定
1994	6 年 8 月 12 日	民家園ポンプ扉取替工事完了
1995	7 年 3 月 4 日	本館考査室冷暖器取付工事完了
	3 月 27 日	本館宿直室等改装工事完了
	10 月 1 日	美術部門を県立美術館に移管(10/17 県立美術館開館)
1996	8 年 3 月 20 日	公共下水道接続工事完了
	3 月 29 日	県民文化ホールエントランス等改修工事完了
	4 月 1 日	埋蔵文化財センターが博物館から分離
	8 年 10 月 29 日	建設工事安全祈願祭
	11 月 6 日	博物館職員海外研修(11/6～11/13)「中国 雲南省」
1997	9 年 7 月 13 日	西都原古代生活体験館が総合博物館の構成施設として開館
	11 月 8 日	清子内親王殿下西都原古代生活体験館ご視察
	11 月 20 日	本館増改築建築主体工事完成
	12 月 10 日	本館増改築管工事完成
	12 月 20 日	本館増改築電気工事完成
	〃	本館昇降機設置工事完成
1998	10 年 2 月 10 日	本館タイルカーペット工事完成
	3 月 20 日	本館屋外トイレ改築工事完成

西暦	年 月 日	事 項
	平成	
1998	10 年 3 月 25 日	本館植栽工事完成
	〃	本館舗装工事完成
	〃	本館屋外電気工事完成
	〃	本館管理棟部分改修工事完成
	4 月 1 日	入館料改訂 〔大人 300 円(200 円)、高大生 200 円(100 円)、小中学生 100 円(50 円)、() は団体〕
	4 月 30 日	総合博物館リニューアルオープン記念式典
	5 月 1 日	総合博物館リニューアル開館
1999	11 年 5 月 14 日	秋篠宮同妃殿下西都原古代生活体験館ご視察
	10 月 22 日	清子内親王殿下ご視察
	11 月 12 日	天皇在位 10 周年記念無料公開
	12 月 10 日	シンガポール リム国務大臣ご視察
2000	12 年 4 月 1 日	展示解説員制度の導入(非常勤職員 11 人)
	〃	学芸課に学芸班と普及班を設置
	9 月 21 日	全国風土記の丘協議会開催(～22)
2001	13 年 6 月 1 日	開館 50 周年記念事業実施(記念講演、雅楽の演奏と舞)
	10 月 30 日	椎葉の民家補修及び補強工事着工
2002	14 年 11 月 13 日	全国博物館大会開催(宮崎市)(～15)
2003	15 年 3 月 14 日	特別展示室シャッター・荷物用昇降機取替え工事着工
	11 月 1 日	西都原資料館閉館 西都原古代生活体験館が西都原考古博物館へ移管
2004	16 年 4 月 1 日	火曜日休館の試行開始
	4 月 17 日	西都原考古博物館開館
	4 月 25 日	原田義昭文部科学副大臣ご視察(全国植樹祭：西都市)
	8 月 1 日	大韓民国蔚山広域市より感謝牌贈られる (当館所蔵コククジラ頭骨の標本作製のお礼)
	8 月 29 日	台風 16 号により民家園等被災(米良の民家、旧黒木家等)
2005	17 年 3 月 14 日	民家園災害復旧工事完成
	3 月 31 日	来客者用自転車置き場設置
	4 月 1 日	火曜日休館制度化(総合博物館運営規則の改正)
	〃	常設展の観覧料を無料化(教育関係使用料及び手数料徴収条例の改正)
	6 月 17 日	韓国長生浦鯨博物館より開館記念招待を受ける
	10 月 15 日	九州国立博物館(太宰府市)開館記念式典出席
	11 月 16 日	学芸課が教育功労者表彰を受ける
2006	18 年 4 月 1 日	総務課、学芸課に担当制導入(総務担当、学芸担当、普及担当)
	18 年 8 月 6 日	高円宮妃殿下常設展及び企画展(「化石展」)ご視察
	10 月 1 日	老朽化による諸問題のため平成 19 年 4 月 1 日付け県民文化ホール用途廃止決定 (宮崎県総合博物館条例等の改正)
2007	19 年 3 月 31 日	「民家園利活用構想」作成
	〃	県民文化ホール用途廃止
	19 年 9 月 22 日	特別展「吉村作治の早大エジプト発掘 40 年展」 9/22～11/18 (入館者数 74,951 人)
2008	20 年 3 月 10 日	民家園「椎葉の民家」復元工事完成
	3 月 27 日	県民文化ホール解体工事終了
	〃	博物館(屋上)改修工事完成
	4 月 28 日	第 1 駐車場(県民文化ホール跡地)使用開始(70 台)
	12 月 25 日	民家園フェンス整備工事完了
2009	21 年 3 月 26 日	民家園監視カメラ設置
	7 月 17 日	特別展「恐竜ワールド 2009」 7/17～9/6 (入館者数 108,966 人)

西暦	年 月 日	事 項
	平成	
2009	21 年 9 月	宮崎県総合博物館中期運営ビジョン策定
2010	22 年 2 月	民家園入園者数年間 5 万人を記録
	3 月	民家園便所新築工事完成
	6 月 12 日	口蹄疫拡大防止のための臨時休館 6/12～7/26
	7 月 31 日	特別展「古代カルタゴとローマ」 7/31～9/26 ※口蹄疫の影響により会期を変更して開催
	8 月 5 日	「賀来飛霞標本」国の登録記念物に指定
2011	23 年 5 月	第 1 駐車場舗装工事完成
	7 月 16 日	特別展「ふしぎ！昆虫パワー」 7/16～9/4（入館者数 46,434 人）
	7 月 19 日	台風 6 号接近に伴う臨時休館
	11 月	中央監視装置更新
2012	24 年 4 月	突風により旧藤田家住宅、米良の民家の茅葺き屋根の一部損壊
	7 月 14 日	特別展「吉村作治の古代七つの文明展」 7/14～9/2（入館者数 28,946 人）
2013	25 年 7 月	3 館（美術館、図書館、博物館）見学ツアー開始 7/12～3/23（16 団体）
	7 月 13 日	特別展「よみがえる恐竜時代」 7/13～9/1（入館者数 59,632 人）
	12 月 8 日	博物館南側の通路を一般公募により「杜の小道」に決定
2014	26 年 7 月 10 日	台風接近による臨時休館（他 8/9, 10/13）
	7 月 19 日	特別展「ほねほね大集合！」7/19～8/31（入館者数 26,802 人）
	7 月 31 日	「教員のための博物館の日 in 宮崎」開催
2015	27 年 1 月	管理棟改修（窓枠）工事
	3 月	宮崎県総合博物館第 2 期中期運営ビジョン策定
	3 月 18 日	民家園（旧黒木家、旧藤田家住宅）保存修理工事（工期 H27. 3. 18-28. 2. 29）
	5 月 21 日	九州博物館協議会理事会・総会・懇親会 5. 22 現地視察
	8 月 18 日	特別展「今昔、日本の妖怪」7/18～8/31（入館者数 29,781 人）
2016	28 年 3 月 6 日	民家園（旧黒木家、旧藤田家住宅）保存修理完成披露
	5 月	熊本地震発生（被災文化財レスキュー事業で職員派遣：10 月、11 月各 1 名）
	6 月 22 日	4 館（美術館、図書館、芸術劇場、博物館）見学ツアー開始 6/22～（11 団体）
	7 月	本館情報発信を職員ブログから SNS（Facebook・ツイッター）へ変更
	7 月 16 日	特別展「ワクワ！ふしぎ生物ワンダーワールド」7/16～9/4（入館者数 20,787 人）
	9 月 4 日	台風接近による臨時休館
2017	29 年 1 月	累計入館者 300 万人達成
	3 月 16 日	民家園（米良の民家、椎葉の民家）保存修理工事（工期 H29. 3. 16-30. 1. 18）
	7 月 15 日	特別展「日本南極観測 60 周年記念 南極展」7/15～9/3（入館者数 20,730 人）
	8 月 5 日	台風接近による臨時休館
	30 年 3 月 24 日	民家園（米良の民家、椎葉の民家）保存修理完成披露
	3 月	民家園消火設備改修工事完了
2018	30 年 7 月 14 日	特別展「むしムシ虫展」 7/14～9/2（入場者数 49,411 人）
	8 月 22 日	機器故障による臨時休館
	9 月 30 日	台風接近による臨時休館
	11 月 8 日	九州博物館協議会学芸員・事務職員研修会 11/9 現地視察
2019	令和元年	
	8 月 14 日～15 日	台風による臨時休館（8 月 14 日正午から 8 月 15 日）
	9 月	音声ガイドシステム「音えんぴつ」及び Free Wi-Fi の導入
	12 月 12 日	「名古屋大学博物館との相互協力に関する協定書」調印式
2020	令和 2 年	
	1 月	空調設備改修工事（I 期）完了
	2 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベント中止
	3 月	宮崎県総合博物館第 3 期中期運営ビジョン策定
	3 月 5 日～26 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

西暦	年 月 日	事 項
2020	令和 2 年 4 月 21 日～ 5 月 10 日 7 月 10 月 12 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため特別展「モンスター水族館」中止 常設展示室のシアター映像について、英語字幕を追加 「むーちゃん広場」の利用日拡大
2021	令和 3 年 2 月 3 月 6 日 3 月 7 日 4 月 1 日 5 月 10 日～ 5 月 31 日 7 月 10 日 10 月 16 日	空調設備改修工事（Ⅱ期）完了 総合博物館開館 50 周年記念事業（～ 7 日） 総合博物館開館 50 周年記念式典開催 博物館公式ホームページのリニューアル （多言語化・モバイル化・ユニバーサルデザイン化） 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（県の緊急事態宣言） 特別展「絶滅モンスター展 2 0 2 1」 7/10～9/5（入場者数 50,248 人） 特別展「発見！きのこランド」 10/16～11/28（入場者数 32,038 人）
2022	令和 4 年 3 月	公式 YouTube の開設

【歴代館長名】

歴代	氏 名	在 職 期 間	在職年数	備 考
初代	野 村 憲一郎	昭和 26 年 4 月 17 日 ～ 昭和 28 年 3 月 31 日	2 年	県教育長兼
2	日 高 重 孝	昭和 28 年 4 月 1 日 ～ 昭和 32 年 6 月 30 日	4 年 3 か月	専 任
3	伊集院 竜 雄	昭和 32 年 7 月 1 日 ～ 昭和 32 年 9 月 30 日	3 か月	県教育長兼
4	隈 江 信 光	昭和 32 年 10 月 1 日 ～ 昭和 35 年 12 月 20 日	3 年 3 か月	専 任
5	野 瀬 良 胤	昭和 35 年 12 月 21 日 ～ 昭和 36 年 7 月 15 日	7 か月	社会教育課長兼
6	柳 宏 吉	昭和 36 年 7 月 16 日 ～ 昭和 51 年 3 月 31 日	14 年 9 か月	専 任
7	園 田 穂 積	昭和 51 年 4 月 1 日 ～ 昭和 53 年 3 月 31 日	2 年	〃
8	日 高 千 文	昭和 53 年 4 月 1 日 ～ 昭和 55 年 3 月 31 日	2 年	〃
9	黒 木 淳 吉	昭和 55 年 4 月 1 日 ～ 平成 元年 3 月 31 日	9 年	〃
10	山 本 一 磨	平成 元 年 4 月 1 日 ～ 平成 5 年 3 月 31 日	4 年	〃
11	児 玉 純 一	平成 5 年 4 月 1 日 ～ 平成 7 年 3 月 31 日	2 年	〃
12	安 田 天 祥	平成 7 年 4 月 1 日 ～ 平成 9 年 3 月 31 日	2 年	〃
13	原 田 重 行	平成 9 年 4 月 1 日 ～ 平成 10 年 3 月 31 日	1 年	〃
14	間瀬田 達	平成 10 年 4 月 1 日 ～ 平成 11 年 3 月 31 日	1 年	〃
15	黒 木 泰 邦	平成 11 年 4 月 1 日 ～ 平成 13 年 3 月 31 日	2 年	〃
16	肱 岡 理 孝	平成 13 年 4 月 1 日 ～ 平成 14 年 3 月 31 日	1 年	〃
17	福 永 孝 義	平成 14 年 4 月 1 日 ～ 平成 15 年 3 月 31 日	1 年	〃
18	仲 田 俊 彦	平成 15 年 4 月 1 日 ～ 平成 15 年 8 月 27 日	5 か月	〃
19	甲 斐 景早文	平成 15 年 8 月 28 日 ～ 平成 17 年 3 月 31 日	1 年 7 か月	〃
20	藤 原 壽太郎	平成 17 年 4 月 1 日 ～ 平成 18 年 3 月 31 日	1 年	〃
21	高 柳 憲 一	平成 18 年 4 月 1 日 ～ 平成 19 年 3 月 31 日	1 年	〃
22	河 野 喜 和	平成 19 年 4 月 1 日 ～ 平成 21 年 3 月 31 日	2 年	〃
23	後 藤 厚 一	平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 3 月 31 日	1 年	〃
24	宮 脇 和 寛	平成 22 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月 31 日	2 年	〃

歴代	氏 名	在 職 期 間	在職年数	備 考
25	長 嶺 泰 弘	平成 24 年 4 月 1 日 ～ 平成 26 年 3 月 31 日	2 年	専 任
26	富 高 敏 明	平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日	2 年	〃
27	長 友 重 俊	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日	2 年	〃
28	黒 木 義 博	平成 30 年 4 月 1 日 ～ 令和 3 年 3 月 31 日	3 年	〃
29	川 口 泰 夫	令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 4 年 3 月 31 日	1 年	〃

宮崎県総合博物館 第3期中期運営ビジョン評価表（令和2年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

内部評価 4…指標を大きく上回った 3…指標を達成できた 2…指標をやや下回った 1…指標を大きく下回った
外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

※外部評価は、宮崎県博物館協議会委員による評価

（1） 調査研究

項目	評価指標		令和2年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価 意見	評価
1) 調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年1回	年1回	3	3.0	3月に12論文 報告からなる「研究紀要第41輯」を発行できた。自然史では、県内で確認例の少ないメイタイシガキフグやタイワンクダマキモドキなどの個体の記録やササラダニ、エナシラシタケなどの継続研究により生態等の解明に 大きな貢献ができた。また、館所蔵の水晶についても含有物の解明ができ、産出鉱物の情報収集ができた。 歴史部門では水系別調査である五ヶ瀬川水系の遺跡の動態を俯瞰的に調査したものや宮崎の神楽について研究成果を特別展で公開するなど大きな成果が得られた。 次年度の研究紀要では、水系別総合調査研究（五ヶ瀬川 北川水系）の成果の一部の報告も掲載する予定である。	①着実に調査研究成果を上げられている。調査 研究報告会については、今後コロナ対策だけでなく遠隔地の参加希望者にも配慮し、リモートまたは対面 リモートハイブリッド型の開催も検討されてはいかがか。 ②コロナ禍において『研究紀要』を発刊し、調査研究報告会を開催できたことは良かった。学芸課職員ができるだけ全員、投稿 発表できるとなおいと思う。 ③研究紀要を発行できたこと。内容的にも、県内確認例の少ない種等の確認ができて、継続研究により生態等の解明に期待できること。その他にも、宮崎の神楽の特別展では大きな成果を上げている。報告会はコロナ禍で制限があったものの開催した。 ④調査研究活動だけでなく、紀要発刊および報告会の実施が目標通りになされた点は、新型コロナウイルス感染症拡大で様々な状況が厳しい中で評価に値する。 ⑤調査研究発表会は、職員の方々の日ごろの研究の内容や成果、及び御苦労を聞くことが出来るよい機会でした。 ⑥初めて調査研究報告会に参加させていただきました。職員の方々が、熱心に研究し、発表されている姿を見て、博物館での仕事が、収集 展示だけでないという事を改めて知る事ができました。ご苦労、ご努力に心より敬服いたします。 ⑦目標を達成できており、評価できる。ただ、調査研究報告会について、指標が開催回数だけとなっているが、報告を行った職員の数なども、指標に加えてはどうかと考える。 ⑧学芸課諸氏によるテーマに沿った現地調査や、研究紀要にまとめられた報告は、今後の地域研究にとって重要です。	3.4
	調査研究報告会	年1回	年1回	3		3月に職員11名が調査研究の結果や収蔵資料に関する内容、アウトリーチ活動に関する内容についての報告を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者を限定して実施し、職員23名のほか博物館協議会委員3名、文化財課職員1名にも参加いただき、所期の目的を十分に達成できた。 解説員との意見交換など、発表時間の関係で設定は難しいため、発表内容について、それぞれから意見や質問を聞いたりしている。		

（2） 収集 保存

項目	評価指標		令和2年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価 意見	評価
1) 収集管理	資料の収集	2,500点 (年平均500点)	513点	最終年度に評価	3.0	資料の収集、図書 文献の収集は目標値の年平均点数（以下 年平均目標点数という）を上回っている。一方で収集資料の整理、登録では、年平均目標点数を下回った。 資料収集の内容については、動物部門ではサングの一種のスジウミバラ属の標本、ノコギリクワガタ（雌雄モザイク）標本、アカイセエビ標本、スイズガイ標本、アカウミガメ剥製標本等希少な標本を収集できた。植物部門では県内の野生植物の現状を解明できるさく葉標本、カブタケのレプリカを収集できた。地質部門ではアメリカ産哺乳類化石本、宮崎層群高鍋層ボーリング資料、一般岩石標本、及び県産化石標本や鉱物標本、歴史部門では本田家資料、民俗部門では、能衣装、古文書などの収集を行った。 収集資料の登録では年平均目標点数を下回ったものの、今年度収集した資料に加え、過年度に収集した昆虫標本や生痕化石標本などの資料についての登録も進めることができた。 収集 登録した資料は適切な環境下で保存し、展示や体験用に活用する予定である。今後も引き続き資料の所在情報の収集や館外調査を実施し、重要な資料の収集に取り組むとともに、未登録資料の整理 登録を行う。	①目標をほぼ達成できており、評価できる。 ②コロナ禍、例年平均並みの収集を実施した。収蔵庫が手狭なところ、資料の登録を進めている。 ③総数としては目標設定を上回る点数の収集がなされており、指標は達成できている。収集資料は整理 登録することで様々な用途に生かされると思うので、改善策を講じた上で引き続き頑張ってください。 ④内部評価2ページ令和2年度実績の数値について、「資料の収集513点」「図書 文献1091点」「収集資料の整理 登録740点」とあって「合計3277点」とあるが、合算すれば2344点ではないのか？一修正いたしました。 ⑤新規資料の収集には偶然性があるろう。いっばう整理 登録は計画を立てやすい事項なので、ぜひ整理 登録のほうをしっかりと計画的に進めてほしい。 ⑥5年計画の途上ありますが、コロナの影響の中こつこつと進めてください。 ⑦ほとんどの項目で、達成目標を上回る成果を上げている。 ⑧貴重な資料が収集され、整理された上で「宮崎県デジタルミュージアム」に登録され、一般の人が参照できることは重要です。 ⑨適切な環境を維持している。 ⑩定期的な点検等により、常に適切な環境を保てるよう、今後も努力を継続して頂きたい。	3.0
	図書 文献の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,091点					
	収集資料の整理 登録	5,000点 (年平均1,000点)	740点					
	合計	(年平均2,500点)	2,344点					

2) 保存	トラップ調査	年12回	12回	3	3.0	本館では平成23年度から I P M（総合的虫菌害管理）の考えを取り入れた資料保存に取り組んでいる。令和2年度も全職員による I P M ウォッチング、学芸課担当職員によるモニタリング調査を計画どおり実施することができた。併せて日常の点検を丹念に実施したことにより、虫菌害の発生を抑制することができた。 月に一度、学芸課職員による収蔵庫の目視、清掃を確実に実施することができ、適切な環境を維持することができた。	3.0
	I P M ウォッチング	年12回	12回				

(3) 展示

項目	評価指標		令和2年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価意見	評価
1) 入館者数	本館入館者数及び民家園入園者数	年平均17万人	本館入館者数 56,194人 民家園入館者 50,539人	1	2.5	本館の入館者数については、例年10万人程度で推移している。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大により、夏の特別展、博物館講座やイベントなどが中止となり、例年と比べ、大幅に入館者数が減少し、目標値である17万人を超えることはできなかったが、民家園入館者数は、秋の特別展での利用などにより入園者がわずかに増加した。 開館50周年記念事業では、3月6日から7日の2日間に記念式典を始め、「民家園みやはく50感謝祭」「記念講演会」「招待演奏」「前庭イベント」様々なイベントに1,000名を超える来館があった。 常設展示室における資料入替え、1階エントランスホールや2階ロビーを活用したロビー展の開催など、様々な部門での展示やタイムリーな展示などを心掛けた。解説員による展示解説や団体案内などのサービスの向上やSNSを活用した情報発信を行っている。今後引き続き、特別展をはじめ魅力ある企画を展開していく。 現在は、コロナ禍で厳しいが、今後の外国人観光客に対応するため、令和2年度は常設展示室のシアター英語字幕追加を行い、整備済みの多言語音声ガイドシステムやフリーWiFiとともにインバウンド対応を行っている。 例年好評である国重要文化財 県指定有形文化財の民家を活用した伝統文化体験講座をはじめ、神楽公演などの各種事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部中止となったが、3月に開催した開館50周年の「民家園みやはく50感謝祭」で民謡公演や琴演奏、昔話公演など多くの催しに来館者が参加できた。 令和2年8月から、民家園利用事業の対象を「伝統文化や民俗の伝承を目的とする事業」から「民家園を利用する事業」へ拡大した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用の状況は6件と厳しい状況であったが、外国人の茶道体験や撮影のロケ地としての利用があり、今後多くの利用が広がるものと思われる。 今後も文化財の保護に留意しながら、広報等により民家園利用事業を周知し、利活用を一層進めていく必要がある。	①新型コロナウイルス感染拡大の影響で当館の提供するさまざまなサービスの利用者が、拡大前の平成30年度にくらべ3分の1～2分の1に減少している。そのなかで、完全休館した月はなく、一人の感染者も出さなかった点で努力と工夫がうかがえる。 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、特別展、イベントや講座等の中止により、入館者数の大幅減少は致し方ないところはあるが、SNSでの情報発信などの取組が見られ、数値には出てこない、担当職員の工夫、努力、熱意が伺える。 ③館内利用者への感染予防対策の徹底が図られている。 ④コロナ禍の中、民間園入園者の増加は、「民家園みやはく50感謝祭」等での工夫や努力の成果だと思います。また、特別展「みやざきの神楽」は、神楽の本注連と金幣を設置され臨場感あふれる特別展でした。 ⑤コロナ禍での展示については、大変ご苦労があった事と推察いたします。コンサートや演劇等と異なり、一度に多人数が同じ方向を向いての集合体ではないので、こんな時こそ知識を深める施設として、利用して欲しいと感じました。 ⑥新型コロナ感染症の影響下の厳しい状況の中において、民家園の入園数が増加したのは大変評価できる。また、特別展やロビー展では、工夫を凝らした内容での取組を積極的に進めており、目標を達成できたことも、評価できる。 今後も、今回のコロナ禍で得たことを教訓とし、事業の進め方等について工夫をし、安全を確保しつつ、少しでも多くの県民に利用してもらうための取組を進めて欲しい。 ⑦新型コロナウイルス感染症拡大の影響で入館者の目標達成には至らなかったが、常設展や特別展、ロビー展に関しては目標値に近い、もしくは目標値を超える回数を実施されている。厳しい状況下でも博物館としての活動を維持できるよう、コロナ禍での経験を生かして頂きたい。 ⑧新型コロナ感染症の影響で、非常に厳しい状況であったと推察できるが、できることを努力されたと思う。開館50周年記念事業でも成果を上げられた。 ⑨入館者の大幅な減少は新型コロナ禍の中でやむをえないことなので目標数値対象外です。その中で、特別展やロビー展を数多く実施したことは評価されます。 ⑩コロナ禍にあって、入館者数等の確保には、大変御苦労されていると思います。展示の「質」の向上に、引き続き御尽力ください。	3.1
			合計 106,733人					

2) 常設展	展示替等回数	年15回	13回	1	2.5	歴史展示室では、歴史部門が現代の名工の鐫を3回、昭和初期の音響装置を3回展示した。考古部門では、古墳時代後期の資料として八鈴鏡のレプリカと復元資料、石包丁の関連展示として砥石を1回展示した。民俗展示室では季節に応じた佐土原人形の展示を5回行い、閲覧者に喜んでいただく工夫をした。自然史展示室では、地質部門が方解石をテーマにした展示を1回行った。	⑦特別展示は、主催事業「第39回SSP展」、「特選！蔵出し展」の2回、貸館「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」1回、都合3回であったので目標に達したが、「空調設備改修工事と新型コロナウイルス感染症拡大により、夏の特別展、博物館講座やイベントなどが中止」となり、入館者数は目標に及ばなかったとあり、内部評価は個別は1、総合は2とある。まず夏の特別展中に改修工事が行われることは当初からおり込み済みでは、また、コロナ禍による行事中止はやむを得ないこと、それらが入館者減の理由としているが、真実は企画力の問題ではないだろうか。 ⑧貸館「ネコ展」は平成27年度（4.3万人）、同30年（3.2万人）に開催、館活用にある程度貢献しているといえるが、何故か令和元年度は記載がなく期待したほどの入館がなかったのか。 ⑨「特選！蔵出し展」（1.2万人）は平成27年（5.7千人）にも開催し、観覧者が倍になっているからそれなり有意義と言えるが、単に収蔵資料を紹介しただけという印象はぬぐえない。収蔵資料紹介であれば自然史、歴史、民俗など部門毎のエントランス展示でもよいのではないだろうか。また、「SSP展」は日本自然科学写真協会の写真展示が主で、純然たる主催事業と言えないのではないかと。要は当初あげた開催回数の達成如何ではなく、展示内容つまり研究発表であろう。「むしムシ虫展」「日本刀の美と歴史」「賀来飛霞のみた自然と歴史」などのような「県民が見たい」「県民にアピール」する企画を期待する。 ⑩「第39回SSP展」では、写真作品と関連づけて置かれた当館資料が意外な効果を生んでいた。資料により被写体の実際の大きさや質感を知ること、接写や決定的瞬間の把握といった撮り手の技術や視点が明確になり、まさに「科学の眼」への気づきを促す展示が実現した。「蔵出し展」は職員選りすぐりの資料で展開する博物館らしい展示。自分の知らないことばかりで、改めて「博物館とは、学びの多様性を体験する空間」と実感した。なお、求められる「学びの多様性」は時代とともに変化する。今後は、「災害」などもキーワードになりそうだ。	3.1
3) 特別展	実施回数	年3回	主催事業 3回 貸館事業 0回	3		主催事業として、巡回展「第40回SSP展」、本館の独自企画、「記念物100年展～守り受け継ぐため」、特別展「みやぎきの神楽―神々への感謝と祈り―」を実施した。夏の特別展として「モンスター水族館」を計画していたが、新型コロナウイルスの感染状況拡大のため、中止となった。これに代わり、「記念物100年展」を実施し、年3回の目標に達した。秋の特別展「みやぎきの神楽」は、県内の神楽を一堂に会し、展示したことで好評を博した。2月から4月に予定していた貸館による「ダンボール恐竜展」は新型コロナウイルス感染状況拡大のため主催者側の判断により中止となった。 来場者の満足度は、アンケートによると「良かった」以上が「第40回SSP展」では91%、「みやぎきの神楽」では97%であり、高い評価をいただいた。		
4) エントランス ロビー展	実施回数	年15回	21回	4		1階のエントランスホール（エントランスクエース、展示スペース、情報コーナー）や2階の民俗展示室前ロビーにて展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら、トピックや季節に応じた展示を全21回実施した。内訳は各部門の企画展示16件、県他機関・学校の展示5件であった。各部門の展示に際しては、宮崎大学農学部農業博物館など関係機関2箇所より協力を得て実施した。 1月には、丑年にちなみ、自然史系、歴史系の6部門でそれぞれ「丑」に関わる資料を展示した「2021干支『丑』づくし展」を行った。また、2月から3月には開館50周年に関する展示として博物館の50年の歴史を振り返る展示やこれまで開催した主な特別展のポスターを展示した。 ⑪小学生（1、2年）の引率で展示物を見学したが、児童の興味を引くものばかりで（今さらながら）内容の充実に感心させられた。 ⑫コロナ禍で制約のある中、「みやぎきの神楽」特別展など内容の充実した質の高い展示が実施されていた。回数（量）ではなく、質を求めていくことが重要である。 ⑬コロナ禍で厳しい状況であったにもかかわらず、10万人以上の来場者があり魅力的な展示だったと思う。開館50周年記念事業中も親子で楽しんでいる姿は微笑ましかった。 ⑭みやぎきの神楽は、協議会の際に観させていただきましたが途中退席したため後日改めて伺いました。とても様々な視点から説明されており展示の方法も素晴らしかったです。 ⑮特別展「みやぎきの神楽」は、宮崎の多様な神楽をうまくまとめ、しかもインパクト強く見せていた。貴重な文書あり、豊富なモノあり、工夫されたコトありで見応えがあり、宮崎の神楽の将来をも見据えた、記念すべき展覧会となった。可動マネキンと天蓋を組み合わせ、特徴的な舞の衣装や仮面、一瞬の動きのみならず、舞廻の空間まで表現したことは、常設の民俗展示における民俗の営みをシーンとして再現するという特色との共通性を感じさせた。こうした展示コンセプトの一貫性に当館のこだわりがうかがえる。 ⑯特別展「みやぎきの神楽」はクオリティの高い素晴らしい展示であった。 ⑰特別展の内容や質も高く、来館者の評価も高く好評でありました。		

(4) 教育普及

項目	評価指標		令和2年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価 意見	評価
1) 学校教育支援		年30回	年24回	2	1.3	学校受け入れ校数は140校と前年度の203校を下回った。一方で今まで実績のなかった県内修学旅行として、36校受入れを行った。(県外2校) 授業支援は、8校で実施した。小学生から大学生への支援などを含め、複数日、実施した学校もあり、支援回数は、昨年より2回増えて、15回であった。 教員支援については民俗部門と植物部門で対応し、佐土原小学校と高等学校教育研究会理科部会生物部会の2回行った。 資料貸出については中学校2校、高等学校1校、大学校2校への貸出しがあった。 職場体験学習受入は、中学校から3校の申し込みがあり、受入れ体制を整えていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、辞退の申し入れがあった。 博物館実習受入は、2大学2人の実習生を受け入れ、新型コロナウイルス感染を留意しながら実施することができた。 今後も計画的に、学校教育支援に取り組むとともに、校長会や館で実施される職員研修会などの機会を通じて、博物館の学校支援のメニューや有効性、資料貸し出しの説明を行い、周知を図る。	①学校教育支援において、実績は目標値を下回る状況ではあるが、県内修学旅行での受入れ36校は大変評価できる。今後も修学旅行、遠足、体験活動などでの受入が増えるとい。 ②学校支援では、既に実施されているのかもしれませんが、学校の実態に合った体験的な活動を増やすことや旅行者への発信等で校外学習や修学旅行での利用につながるのではないのでしょうか。また、遠方の学校等には、オンライン講座も教育普及につながるのではないのでしょうか。 ③教育関係者の訪問は、「団体」になる事が一般的なもので、利用は通常期より困難だったと思います。アフターコロナを期待したいと思います。 ④新型コロナウイルス感染拡大のため受け入れ回数や学校が減少しているのは、やむを得ないことだと思う。 ⑤団体来館が減少した中でもホームページの充実や広報活動に力を入れていることがうかがえる。 ⑥実績のなかった県内の修学旅行は今後も郷土を認識する学習として各学校に取り組んでいただきたい。 ⑦フィールドワークにとっても興味を持ちました。我が子にも是非参加させたいです。様々な年齢層をターゲットにして工夫されている所が、博物館としての在り方をとても考えられていると思いました。 ⑧児童生徒の「学びの場」、「知的好奇心を探索する場」として、大いに期待しています。創意工夫を図りながら頑張ってください。 ⑨毎年、各種団体の利用状況の一覧表を興味深く見ている。どの団体についても多様性が大切と考える。学校団体については、やはり県央が中心だが、県北や県南からも来館している。前回の会議で、遠隔地の学校の来館はコストがかかるという問題が指摘された。補助金を期待できなければ、それだけのコストをかける価値があることを示すしかない。	2.5
	授業支援		15回					
	教員支援		2回					
	資料貸出		5回					
	職場体験学習受入		0回 (0校)					
	博物館実習受入		2回 (2校)					
2) 展示解説	実施人数	年10,000人	4,610人	1		新型コロナウイルスの影響による団体来館が減少した影響もあり、展示解説を受けた人数は目標人数を大きく下回った。感染対策をしながら、人数を少なくして対応したり、解説できない時には、他言語音声ガイドを利用したりするなど工夫を行った。 また、コロナ渦の中で来館が困難な人たちのために動画を作成し、ホームページのコンテンツの充実を図った。 今後も来館者への声かけや事前広報に取り組み、利用者の興味や関心を高めるようなより分かりやすい工夫を行い、多くの来館者に展示解説を実施していくとともに、遠足等での利用を推進できるよう広報活動を実施していく。 50周年記念事業のイベントとして解説員が「スタンプを集めてバッチをゲット」、博物館の内容を問題にした「みやはく検定」、博物館の思い出を書く「博物館に大きな花を咲かせよう」などの取組を行い、小さい子ども連れの親子に大変好評を博し、報道関係にも多く取り上げられた。	⑩展示解説において、来館できない方向けに、ホームページに動画コンテンツをアップしたことはとてもありがたい。	

3) 博物館講座等	博物館講座等 (アウトリーチ活動含む) * 博物館講座等は普及講座 特別展開連講座 民家園講 座「どこでも博物館」 * アウトリーチ活動は博物 館外で行った講座の回数	年35回 アウトリーチ活 動10回	19回 4回 (15回) (1回) (3回)	1		博物館講座等は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、普及講 座を23回予定したが10講座中止、特別展開連講座を6回予定した が4講座中止となり、全体で15回の実施となった。一部の講 演は開催できる日程を模索し、50周年感謝祭に併せて開催できた 講座もあった。民家園伝統文化体験講座は1回、どこでも博物館 は3回実施できた。 4月開催予定であった名古屋大学博物館館長の講演会は、コロナ 感染拡大防止のため中止となったが、開館50周年記念事業の中で 記念講演として、リモート開催を行い、多くの方が参加された。 アウトリーチ活動は、講座等が中止となるなか、西都市、門川 町、日之影町、高原町の1市3町で開催できた。 また、実施できた普及講座と特別展開連講座の受講者数は、前 年度と比べ約33%にとどまった。これは、受講者人数を絞ったこ となども影響しているものと思われる。 講座の回数もさることながら、博物館や宮崎の文化に、より興味 をもつように誘う内容の講座を企画すると共に広報活動を工夫し て継続していきたい。	①感染拡大を受けての中止措置の中でもリモート開催を計画するなど工夫がなされ ている。 ②「どこでも博物館」事業は遠距離の県民にとってはありがたい事業と考える。 ③新型コロナ感染症の影響により、学校教育支援やアウトリーチ講座などにおい て、実績が目標を大きく下回することは、やむを得ないとする。3年度も同じよう な状況が続いたが、今後に向けて、動画配信やリモート講座など、対面式によらな い方法の導入を更に増やすなどして、教育普及の取組を進めていきたい。 ④博物館講座等について、地域バランスを考慮して開催している点は評価できる。 全県民のための博物館なので、今後もその姿勢を大事にして企画 実施していただき たい。 ⑤コロナ禍において智慧を出して行ってきた様々な取り組みや経験を是非今後に生 かしていただきたい。特に、リモートツールの活用は、宮崎県内のどこにいても博物館 を教育普及において利活用できるチャンスだと思うので、今後に期待したい。
4) 民家園の活 用	民家園事業の実施 神楽公演等 みやぎの昔話 昔のくらし等 民家園利用事業 その他	年25回	16回 (2回) (6回) (1回) (6回) (1回)	1	1. 3	神楽公演は、10月に椎葉村の嶺之枝尾神楽、3月には、総合博物 館開館50周年民家園春まつりで、椎葉村大河内神楽を実施し、多 くの来場者があり好評であった。 毎週第3土曜日に開催している昔話公演は、新型コロナウイルス により、全10回公演中、4 5 8 2月は中止になったものの、7月 には特別に怖い話の特集し、幅広い年齢層に喜んでいただくこと ができた。 昔のくらし体験では、11月に内山こども園が民家園ボランティア 協力のもと体験学習を行った。内容としては、脱穀機や唐箕など 実際に昔の道具使った体験ができ、参加した園児には好評であっ た。 民家園利用事業については、新型コロナウイルスの影響を受けた ものの、6団体に活用していただき、6回の利用があった。外国 人の茶道体験や同人誌の編集会議など、伝統文化や民俗の伝承を 目的とする事業から民家園を利用する事業へ拡大しつつある。 共催事業としては、レコード愛好会と10月にレコードコンサート を実施することができた。 和製のフォーク&ポップスをはじめ、移り変わる時代の思い出 の流行歌や映画音楽を流して来場者楽しんでいただいた。	⑥限られた中でのさまざまな工夫がなされていると思う。
5) 関係機関と の連携	職員の派遣 他機関からの職員等の招聘 視察や調査の受入 資料貸出、出版等掲載 資料の借用、他機関調査や 視察 共催事業の実施	年120件	118件 (12件) (16件) (10件) (41件) (39件)	2		職員の派遣は自然史系を中心に植物分野と地質分野で学校教育機 関に講師として派遣した。また、今年度より宮崎大学地域資源創 成学部の依頼を受け講師派遣を行い、前年度より多い12件であっ た。近年それぞれの部門に対する講師依頼があり、極力対応し、協 力できている。 関係機関等の職員の招聘では普及講座や特別展の中止など、招聘 できなかったこともあり、16件と前年度を下回った。視察調査受 入れや調査等も県外の往来などの自粛により前年度を下まわり、 10件であった。館外資料の貸出しは12件、その他資料の館内利用 や出版物等に掲載 放映された資料などは29件であった。本館が資 料借用等で協力を得た関係機関は39件であった。 他館への調査など行き来は難しい状況であったが、リモートや電 話等を活用するなど、情報共有や情報収集に努めてきた。	⑦項目は、福祉なのか、教育なのか、不明だが、内部評価には、幼稚園、保育園、 認定こども園など就学前の園児たちの利用について明記されていない。年報には、P 3 4 ~ 4 2 に、利用状況が表記されているので、就学前の子どもたちに関連する内 容を内部評価の評価 改善策に記載できないものか。 ⑧来館が困難な人のためにホームページのコンテンツが充実され、家で、学校で、 博物館を楽しむことができる環境が整備され、大変役立った。福祉施設との連携は 今後もぜひ継続してほしい。 ⑨大学生支援については、大学に行くことも重要ですが、どこかの時期に大学生を 博物館に招くことも、館にとってはメリットが大きいと感じます。

6) 博物館と福祉施設との連携	福祉施設との事業実施 地域回想法 貸し出し	年80回	26回 (22回) (4回)	1	1.3	「博物館で思い出を語ろう！」事業については、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象として、公募のあった3団体に、テーマ地域回想法を21回実施し、コース地域回想法は1回実施した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、高齢者が来館することが困難となり、目標回数を大きく下回った。そのため、広報活動を重視し、今後來館してもらうための施設訪問などを行った。 福祉施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」をパッケージにした「貸出キット」を2団体4回の利用があった。	②福祉施設との連携において、コロナ禍での高齢者の利用は大変厳しいものがあったと思う。目標値を下回ったのはやむを得ない。 ②「その他の団体の利用状況」の一覧表を見ると、利用する施設は何度も利用する傾向がある。数だけでなく多様性にも留意し、利用したことのない施設への働きかけをコロナ収束後も心がけていきたい。	2.5
7) レファレンス対応						問合せは、年間約660件あり、最も多い内容がそれぞれの部門に対する質問で、約74%であった。もっとも多い問合せは、一般の方からだったが、マスコミからの問合せも多く、23%あった。		
8) 研究発表会の開催	研究発表会の実施	年1回	0回	1		自然科学系の9団体で構成される県内研究団体の発表会を3月に計画していたが、実施場所の問題など、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止した。各団体との連携をこれからも継続しながら、県内の情報共有のハブとしてのかかわりを深めていきたい。		

（５） 情報発信

項目	評価指標		令和2年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価 意見	評価
1) 情報発信の充実	広報紙発行	年4回	4回	3	3.8	①チラシ 博物館前の看板はインパクトを感じる。特に博物館前の看板は信号待ちの車内からも目を引く。 ②情報発信は良くできており、実績も十分だと思います。柔らかな発信の下、多くの県民の皆様へ情報発信を行い、多様なネットワークができることを期待します。 ③当館の情報発信の充実は、「宮崎県総合博物館広報戦略」と「広報推進委員会」の両輪に支えられているのだろう。何か課題があっても、すぐ討議できる体制が整っていることは高く評価できる。	3.8
	報道処理件数	年50件	66件	4			
2) ホームページの充実	ホームページ更新回数	年60回	451回	4		④ホームページのアクセス件数の増加は大変評価できる。家庭に居ながらにして、情報をキャッチできる環境を整備していただいており、ありがたい。さらにSNSもタイムリーな情報発信に努めており、高く評価できる。 ⑤コロナ禍の中、情報発信の工夫や努力が分かりました。特にホームページの更新回数やアクセス数の増加を見れば、様々な工夫や魅力的な発信となったことが分かりました。 ⑥久しぶりにホームページを検索してみると、新しいデザインになっており、とても見やすくなっていました。特に、トップページがキャッチーで興味をそそられます。加えて、FacebookやTwitter、Instagram等も対応しておられるようで、若い方々にも受け入れ易くなっていると思いました。 ⑦ホームページを含めてSNSは、いかに頻繁に書き換えをするかが、閲覧者を増やすキモだと思います。担当者は大変だろうと思いますがよろしく願いいたします。 ⑧コロナを逆手にとって、積極的かつ効果的に情報発信を勧められており、高く評価できる。 ⑨委員をさせていただくようになってからホームページ、またSNSをチェックしましたが、フォロワー数は今、影響力を可視化している指標となるので、投稿の数ではなく内容の工夫が必要かと思えます。 ⑩ホームページの更新やSNSでの情報発信に積極的に取り組んでおり、またホームページのアクセス数も増加するなど、その取組は大いに評価できる。引き続き、インターネット活用等による情報発信の充実強化に取り組んで欲しい。 ⑪発信の工夫努力により、アクセス数が増加し、理解や関心の高まりを感じます。 ⑫コロナ禍の状況下にもかかわらず、平成30年度とくらべホームページへのアクセス数は4.1万件余りもふえている。その間のコンテンツの充実の結果と評価する	
	ホームページアクセス件数	年500,000件	1,132,039件	4			
	SNS投稿回数 insta FB twitter	年300回	398回 (114件) (145件) (139件)	4			

(6) 経営

項目	評価指標		令和2年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		個別評価	総合評価	評価内容及び改善策	評価意見	評価
1) 博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	1,172件	1	2.5	アンケート収集件数については、新型コロナウイルスの感染拡大により、夏の特別展「モンスター水族館」が開催できなかったこと等により、収集件数は減少したが、回収率としては、令和元年に近い状況であった。 本館サービスに対する満足度は集中アンケートも年間を通したアンケートもともに94%となり、目標を達成できた。 今後もアンケートの積極的な回収に努め、利用者の意見を館の運営に活かしていく。 情報室の親子で楽しむ「むーちゃん広場」は、協議会の意見を踏まえ、12月より土日祝日も開催するようになり利用者が増加した。 また、協議会の意見を踏まえ、県内の動植物の現状を県民に知らせるため植物ではこれまで「今月の花」の紹介をしていたが、県内にみられる絶滅危惧種の植物の紹介を始めた。	①アンケートの満足度が94%というのは非常に高い数値であり、高く評価できる。ただ、6%の方は満足できていない（やや満足できないなど）という回答であるが、どのような意見が出たのか、知りたい。少数意見も大事である。 年報のP74～75にアンケート結果が帯グラフ付きで掲載されているが、①個人アンケート（ウ）本館サービスに対する満足度についてのみ、文章表現のみの記載である。 ②新型コロナウイルス感染拡大のため、アンケート回収率も目標達成には至らなかったようですが、満足度が高くなっていたことは経営の工夫や充実の成果だと思います。シナリオのない避難訓練等、危機管理体制の強化に向けての意識の高さが分かりました。 ③職員の資質向上のための研修や危機管理のための訓練にしっかりと取り組んでおり、この取組が、来館者アンケートの「本館サービスに対する満足度」が、昨年度より高い94%という数字に繋がったと思われる。 なお、来館者アンケート結果は5年間分程度の結果を、経年比較し、分析したものをまとめて、示して欲しい。 ④職員一人ひとりがアンテナを高く、広く張りながら、様々な県民の皆様の声を経営に反映させる努力を続けてください。職員の資質向上にも引き続き力を入れてください。 ⑤新型コロナウィルス感染症拡大の影響を考慮すれば、目標値に到達していないものもあるが、概ね指標は達成できていると評価できる。 ⑥意見を採り入れての改善が進められていることに、敬意を表します。心の安定が求められる昨今の状況下、くらしの歳時記的な、県内の四季の自然、地域の暮らしや仕事、行事、芸能等の紹介コーナーもよいかなと感じました。 ⑦コロナの影響でやむを得ない中止等はあったが、新しい試みもあり、アンケートでは高い満足度を得ている。	3.1
	集中アンケート実施回数及び満足度	年4回 満足度80%	3回 94%	2				
	全体満足度	80%	94%	3				
2) 職員の資質向上	研修の実施と参加	年20回	16回	2		全職員を対象とした基本研修では、コンプライアンス及び危機管理等について、4月、1月に実施するとともに、3月には学芸課職員による調査研究報告会を研修の機会とし、年3回実施した。 また、県外研修等として、関係職員が学芸員事務職員研修会や学芸員技術研修会などに参加し、職員の研修機会の確保と資質向上を図ることができた。 展示解説員の研修として、日向市を訪れ、植物、地質、民俗などの実地見学、50周年記念事業で実施した「みやはく検定」の問題集や解説集の作成を行い、知識の習得に努めた。また、1年目の職員に対して、各分野の発表研修、3年目の職員に対しては、自己学習内容の発表研修を行い、資質の維持向上に努めた。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による各種研修会の中止などで目標値を下回った。 今後も引き続き館内外の研修の機会を確保し、職員の資質向上に努める。	⑧コロナ禍で感染防止対策を推し進めた中で、職員や展示解説員等の研修を進めている。一方、外部運営資金の獲得も行い、特別展「みやぎの神楽」では、支援を受けて展示内容を充実した。 ⑨当館の調査研究発表会に参加したとき、発表者が、「宮博の魅力って何だと思えますか」と質問を発した。私は少し考えて「展示解説員が活躍していること」と答えを出した。予算不足、展示の考え方等で展示解説員を置かない博物館も多い。しかし、展示と来館者を結びつける点で展示解説員は大きな役割を果たしていると考え。今後も、彼らの潜在力を引き出し、じっくりと養成する関係を大切にしたい。	

3)危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	3回	4	2.5					⑩危機管理体制の強化において、防火訓練、避難訓練など、防災対策は計画的に実施され、評価できる。万が一の対応で、入館時に発熱者がいた場合（コロナの陽性者が疑われる場合も含め）や体調不良者が出た場合、AEDを使用する必要がある場合、不審者が入館した場合など、危機管理マニュアルは整備されていると思うが、様々な危機への対応シミュレーションは利用者の「安全 安心の確保」のためには必要だと思う。 ⑪貴重な展示物の危機管理は大変なことと思います。職員の方のスキルの大きな向上とのこと、今後も気を付けてお願いいたします。	3.1
3)外部運営資金の獲得	外部運営資金への応募件数 ＊県基金、公共機関助成金補助金、民間の助成金 補助金	年2件	2件	3		夏の特別展「モンスター水族館」での外部資金として公益財団法人日本海事科学財団の「海の学びミュージアムサポート」へ申請を行い、「海の企画展サポート」として支援を受けた。 しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響から特別展の中止を余儀なくされたため、中止決定前の準備に要した経費を除いて、資金の活用は出来なかった。 秋の特別展「みやぎの神楽」では独立行政法人日本芸術文化振興会に助成金申請を行い、支援を受けた。地域文化施設公演 展示活動の支援を受けたことで展示内容が大幅に充実し、来場された方々への満足度を高めることができた。	⑫博物館のような業態は、資金調達は大変だと思います。他の県立の施設のように「ネーミングライツ」を利用してくれるような業者があると良いですね。 ⑬外部運営資金、これからも活用して展示活動に動きをつけてください。 ⑭県の財政のこともあり、助成金などの活用で工夫されていると思います。今後も低コストで出来るものとしてうでないものでバランスを図り楽しませていただけたらと思います。 ⑮外部運営資金の応募と獲得をされたのは大変良かった。日本芸術文化振興会からのほうは展示に生かせたとのこと。こういった資金については、金額を明示してほしい。				
その他のご意見							①収集資料が増加してゆけば、今後収蔵についての課題が生じてくるのではないかと懸念している。貴館には昭和46年の建設当初の設備のままのところもあり、50年を経過して不備も生じているのではないか。この間、保存についての科学技術は大きく進歩している。自治体の財政は厳しいだろうが、貴重な文化資源を将来の県民へ受け継ぐため、また国宝等の展示を可能として県民に供するためにも、館の建えされることを要望したい。 ②新型コロナウイルス感染拡大が収まらないなか、開館50周年記念事業が無事に実施されたことは喜ばしい出来事であった。式典に参加した折、人びとで賑わう館内や前庭の様子に接し、日常の光景であるはずなのに夢の1シーンように感じられた。この不思議な感覚を忘れまいと思う。式典で上映された映像では、館の運営を支えてくれている人たちへの感謝の思いが強調されていて好感が持てた。警備員の方がヒーローのように映し出されたときは、胸がジーンとした。				

4 県総合博物館関係法規

(1) 宮崎県総合博物館条例

昭和 45 年 12 月 23 日
宮崎県条例第 41 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、宮崎県総合博物館（以下「総合博物館」という。）の設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条第 1 項の規定に基づき、総合博物館を設置する。

2 総合博物館の位置は、宮崎市神宮 2 丁目 4 番 4 号とする。

(使用料の徴収)

第 3 条 総合博物館の資料を観覧し、又は施設を利用しようとする者は、別に条例で定めるところにより使用料を納付しなければならない。

(委任)

第 4 条 この条例に定めるもののほか、総合博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、県教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和 46 年 3 月 2 日から施行する。

附 則（平成 18 年 10 月 1 日条例第 62 号）

この条例は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(2) 教育関係使用料及び手数料徴収条例(抄)

平成 13 年 3 月 29 日
宮崎県条例第 23 号

(趣旨)

第 1 条 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 225 条の規定に基づく使用料及び同法第 227 条の規定に基づく手数料で宮崎県教育委員会の所管に属するものの徴収については、他の条例に特別の定めがある場合を除くほか、この条例の定めるところによる。

(使用料)

第 2 条 次の各号に掲げる公の施設を利用する者は、それぞれ当該各号に掲げる名称の使用料を納めなければならない。ただし、教育関係の公の施設に関する条例（昭和 39 年宮崎県条例第 36 号）第 6 条第 1 項の規定により、教育関係の公の施設を管理する指定管理者が、当該教育関係の公の施設の利用料金を収受している場合は、この限りでない。

(1)～(4) 省略

(5) 宮崎県総合博物館 総合博物館観覧料及び総合博物館使用料

(6)～(8) 省略

2 前項各号に掲げる使用料の金額その他その徴収に関する事項については、それぞれ別表第 1 に定めるところとする。

別表第 1 (第 2 条関係)

使用料	区分			単位	金額	納期	備考
5 総合博物館観覧料及び総合博物館使用料	総合博物館観覧料	特別展示		宮崎県教育委員会がその都度定める単位	宮崎県教育委員会がその都度定める額	宮崎県教育委員会がその都度定める時期	
	総合博物館使用料	博物館特別展示室	入場料等を徴収する場合	1 日につき	24,660 円	使用許可の時	「入場料等」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず入場することに関し徴収される入場の対価その他これに類するものをいう。
			入場料等を徴収しない場合	同	18,500 円		

(3) 宮崎県博物館協議会条例

平成 15 年 9 月 26 日

宮崎県条例第 43 号

(設置)

第 1 条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 20 条第 1 項の規定に基づき、宮崎県総合博物館に宮崎県博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、宮崎県総合博物館及び県立西都原考古博物館の運営に関し、宮崎県総合博物館及び県立西都原考古博物館の各館長の諮問に応ずるとともに、当該各館長に対して意見を述べる機関とする。

(組織)

第 2 条 協議会は、委員 20 人以内で組織する。

(委員)

第 3 条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、県教育委員会が任命し、又は委嘱する。

2 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

4 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(会長及び副会長)

第 4 条 協議会に会長及び副会長各 1 人を置く。

2 会長及び副会長は、それぞれ委員の互選によってこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第 6 条 協議会の庶務は、宮崎県総合博物館において処理する。

(委任)

第 7 条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則（抄）

(施行期日)

1 この条例は、平成 15 年 11 月 1 日から施行する。

(協議会の委員に関する経過措置)

3 この条例の施行の際現に前項の規定による改正前の宮崎県総合博物館条例第 6 条に規定する委員に任命され、又は委嘱されている者は、第 3 条第 1 項の規定により任命され、又は委嘱されたものとみなす。この場合において、当該委員の任期は、第 3 条第 2 項の規定にかかわらず、平成 16 年 7 月 25 日までとする。

附 則（平成 24 年 3 月 29 日条例第 32 号）

この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(4)宮崎県総合博物館管理運営規則

昭和 46 年 3 月 2 日

教育委員会規則第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県総合博物館（以下「総合博物館」という。）の管理運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第 2 条 総合博物館は、その目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史・民俗・自然科学及びその他の資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 歴史・民俗・自然科学の展覧会、講習会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (3) 歴史・民俗・自然科学の資料の専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (4) 特別展示室を、県民の文化活動に使用させること。

(組織)

第 3 条 総合博物館に、次の課を置く。

総務課

学芸課

(分掌事務)

第 4 条 前条の各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- (1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
- (2) 予算の執行及び決算に関すること。
- (3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
- (4) 公印の管守に関すること。
- (5) 施設、設備の管理運営に関すること。
- (6) 宮崎県博物館協議会に関すること（宮崎県博物館協議会条例（平成 15 年宮崎県条例第 43 号）第 6 条に規定する協議会の庶務及び総合博物館の運営に関することに限る。ただし、委員の任免を除く。）。
- (7) その他館務に関し、他課の所管に属さない事項に関すること。

学芸課

- (1) 資料の収集、整理、保管、修理及び展示に関すること。
- (2) 資料に関する標本、模写、模型、写真、文献、図表、フィルム及びレコード等の作成に関すること。
- (3) 資料の利用及び展示品の解説並びに指導に関すること。
- (4) 展覧会、講習会、研究会を主催し、及びその開催を援助すること。
- (5) 展示及び保管の専門的、技術的な調査、研究に関すること。
- (6) その他学芸又は文化に関する他の博物館との連携及び情報交換に関すること。

(職の設置)

第5条 総合博物館に、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
館 長	館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 館 長 (2 人)	館長を補佐し、館長に事故があるとき、又は館長が欠けたときは、その職務を代行する。
課 長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
学 芸 員	上司の命を受けて、資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項を処理する。
専 門 主 事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主 任 主 事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主 事	上司の命を受けて、事務に従事する。
専 門 技 師	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする技術に従事する。
主 任 技 師	上司の命を受けて、複雑な技術に従事する。
技 師	上司の命を受けて、技術に従事する。

2 前項に規定する副館長の職務の担当区分は、一人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副館長が館長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副館長

第2順位 業務担当の副館長

4 第1項に規定する職のほか、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
参 事	上司の命を受けて、総合博物館の特定の事務を掌理する。
主 幹	上司の命を受けて、総合博物館の特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする総合博物館の特定の事務を掌理する。
副 主 幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は総合博物館の特定の事務を掌理する。
主 査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

5 第1項に規定する館長の職は、非常勤とすることができる。

第6条 前条に規定する職のほか、必要に応じ、会計年度任用職員を置く。

2 会計年度任用職員は、上司の命を受けて、事務又は技術に従事する。

(開館時間)

第7条 総合博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。

2 館長は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

(休館日)

第8条 総合博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときを除く。）
- (2) 休日の翌日（土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。）
- (3) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで
- (4) 特別整理期間（あらかじめ、館長が定めて公示する期間）

2 館長は、必要があると認めるときは、臨時に前項各号に掲げる休館日に開館し、又は開館日に休館することができる。

(施設の使用申込み)

第9条 特別展示室を利用しようとするものは、使用期日の30日前までに、特別展示室使用申請書（別記様式第1号）を提出して、使用許可を受けなければならない。

(使用許可)

第10条 前条の規定による使用許可は、特別展示室使用許可書（別記様式第2号）を当該申請者に交付して行うものとする。

2 次の各号のいずれかに該当するときは、使用を許可しない。

- (1) 使用申請書の内容に偽りがあるとき。
- (2) 公の秩序又は風俗を乱すおそれがあるとき。
- (3) 館内の施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (4) 集团的又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれのある組織の利益になると認められるとき。
- (5) その他管理運営上支障があると認められるとき。

(使用者の遵守事項)

第11条 使用を許可されたものは、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 許可された使用の目的又は条件に違反しないこと。
- (2) 公の秩序又は善良の風俗を乱さないこと。
- (3) 館内の施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
- (4) 他人の迷惑となるような行為をしないこと。
- (5) その他条例、規則及び館長の指示に従うこと。

(許可の取消し等)

第12条 使用者が第10条第2項各号のいずれかに該当するに至ったとき、又は前条の規定に反する行為があるものについては、特別展示室の使用許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

2 前項の取消し等によって使用者に損害が生じても、県は、その損害の賠償の責は負わないものとする。

(使用後の検査)

第13条 特別展示室の使用を終えて原状に回復したものは、直ちに、館長に報告して検査を受けなければならない。

(入館制限等)

第14条 館長は、総合博物館の管理運営上支障があるとき、その他入館しようとする者が次に掲げる行為をするおそれがあると認められるときは、入館を制限し、又は拒絶することができる。

- (1) 総合博物館における秩序又は風紀を乱す行為
- (2) めいてい等により公衆に迷惑をかける行為

2 入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 前項第1号及び第2号に掲げる行為をしないこと。
- (2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
- (3) 許可なく展示品に触れたり、写真撮影、模写等をしないこと。
- (4) 指定する場所以外において喫煙又は飲食をしないこと。
- (5) その他関係条例、規則及び総合博物館の係員の指示に従うこと。

3 館長は、入館者が前項の規定に違反したときは、退場を命ずることができる。

(資料の館内利用)

第15条 資料を学術上の研究のため特に利用しようとするものは、館長の承認を受けなければならない。

(図書資料の複写)

第16条 図書資料の複写は、著作権法（昭和45年法律第48号）第31条の規定に基づき、利用者の調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分について行うものとする。

2 図書資料の複写を依頼しようとする者は、図書資料複写申込書（別記様式第3号）を館長に提出しなければならない。

3 次に掲げる図書資料は、複写しないものとする。

- (1) 技術的に複写が困難な図書資料
- (2) 複写することによって損傷のおそれのある図書資料
- (3) 前2号に掲げるもののほか、館長が複写することを不相当と認めた図書資料

4 複写物の利用による著作権法上の責任は、当該複写物の提供を受けた者が負うものとする。

第17条 前条の規定により、図書資料の複写を依頼しようとする者は、当該図書資料の複写に要する費用を負担しなければならない。

2 前項の図書資料の複写に要する経費は、次の表に定める額とし、同費用は前納しなければならない。

区 分	単 位	金 額
電子複写（単色のもの）	複写1面につき	10円

(資料の館外利用)

第18条 資料の館外貸出しを受けようとするものは、資料館外貸出承認申請書（別記様式第4号）を提出し、館長の承認を受けなければならない。

2 前項の資料の館外貸出しを受けることのできるものは、次のとおりとする。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣又は県教育委員会が指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校
- (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定めるもの
- (6) その他教育長が適当と認めるもの

3 前項の貸出期間は、30日以内とする。ただし、館長が特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

4 前項の規定にかかわらず、館務の都合により必要があるときは、資料の貸出期間中であっても、当該資料の返還を求めることができる。

(弁償)

第 19 条 入館者、使用者又は利用者が、資料、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、館長の指示に従い、現品又は相当の代価をもって弁償しなければならない。

(資料の選定及び評価)

第 20 条 資料の選定及び評価に当たっては、埋蔵文化財価格評価員に関する規程（昭和 44 年 3 月 15 日文化庁長官裁定）に準じ学識経験者の意見を徴することを原則とする。

(資料の寄贈又は寄託)

第 21 条 資料を寄贈又は寄託しようとする者は、資料寄贈、寄託申込書（別記様式第 5 号）により申請しなければならない。

2 前項の寄贈又は寄託が決定したときは、寄贈者又は寄託者に資料受領・預書（別記様式第 6 号）を交付するものとする。

3 寄贈資料は、寄贈者の氏名、寄贈年月日を記録し、永くその厚志を伝えるものとする。

4 寄託資料は、総合博物館所蔵の資料と同一の取扱いをするものとする。ただし、天災その他不可抗力によって生ずる損害については、補償の責を負わないものとする。

5 寄託資料は、寄託者の申請又は総合博物館の都合により返却することができる。

(委任)

第 22 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則（抄）

(施行期日)

1 この規則は、昭和 46 年 3 月 2 日から施行する。

：

附 則（令和 4 年 3 月 3 日教育委員会規則第 12 号）

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

(用紙に関する経過措置)

2 この規則の施行の際現に存するこの規則による改正前の宮崎県総合博物館管理運営規則の規定に定める様式による用紙は、当分の間、所要の事項を適宜補正して使用することができる。

様式第 1 号（第 9 条関係）

特 別 展 示 室 使 用 申 請 書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住 所
電 話

フリガナ
申請者 氏 名 性別（男・女）
生年月日 年 月 日

〔 法人にあっては、主たる事務所の所在地
及び名称並びに代表者の氏名 〕

関係条例規則を遵守しますので、下記のとおり使用を許可されるよう申請します。

記

行 事 の 名 称					
使 用 の 日 時					
使 用 の 区 分					
使 用 の 目 的					
共 催 者					
入 場 料 等		関係者	整理券	無料	有料（ 円）
内 容					
※ 許 可		第 号	年	月	日
※ 使 用 条 件		宮崎県総合博物館特別展示室利用の手引きによる			
館 長	副 館 長	課 長	担当リーダー	※使用料	特 別 展 示 室

（注） 申請者が法人にあっては、別紙「役員名簿」を提出してください。

様式第 3 号 (第 16 条関係)

圖書資料複写申込書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

申請者 住所
氏名

法人にあっては、主たる事務所の所在地
及び名称並びに代表者の氏名

下記注意事項を遵守し、図書の複写を申請します。

複写目的	調査・研究（ ）	
図 書 資 料 名	複 写 箇 所	
※ 合 計	枚 数	金 額

(注) 1 図書資料の複写は、著作権法（昭和 45 年法律第 48 号）の規定に抵触しない限りにおいて行います。

2 ※印のある欄は、記入しないでください。

資料館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住所
申請者 氏名

品 名	数 量	形 状	許 可 条 件	備 考

上記申請のあった館外貸出について承認します。

年 月 日

宮崎県総合博物館長 印

様式 5 号（第 21 条関係）

資 料 寄 贈 申 込 書
寄 託

年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住 所
氏 名

次の目録に記載の資料を貴館に寄贈
寄託 したいので、申込みいたします。

目 録

品 名	数 量	形 状	解 説

(5) 宮崎県総合博物館処務規程

昭 和 55 年 3 月 31 日
教育委員会教育長訓令第 4 号

(報告)

第 1 条 館長は、遅滞なく、次に掲げる事項を教育長に報告しなければならない。ただし、第 2 号に掲げる事項については、翌月の 10 日までに報告しなければならない。

- (1) 総合博物館の臨時の開館日又は休館日及び開館時間の臨時の変更に関する事。
- (2) 毎月の博物館資料の利用状況及び事業概要に関する事。
- (3) 博物館資料の受託及び返還状況に関する事。

(防災計画)

第 2 条 館長は、年度始めに防災計画を作成し、その概要を計画書（別記様式）により、4 月末日までに教育長に提出しなければならない。

附 則

この訓令は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 19 年 10 月 1 日教育委員会教育長訓令甲第 3 号抄）

(施行期日)

1 この訓令は、公表の日から施行する。

附 則（令和 4 年 3 月 3 日教育委員会教育長訓令甲第 3 号）

この訓令は、公表の日から施行する。

(6) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱

平成 3 年 3 月
館 長 裁 定

(趣 旨)

第 1 条 この要綱は、宮崎県総合博物館管理運営規則（昭和 46 年宮崎県教育委員会規則第 4 号、以下「規則」という。）第 22 条の規定により宮崎県総合博物館（以下「博物館」という。）所蔵の資料（以下「資料」という。）の取り扱い等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第 2 条 この要綱において規則第 15 条に規定する「資料の館内利用」とは、博物館内における資料の調査又は複製（図書の複写、写真撮影を含む。以下、同じ。）並びに文化財としての民家資料の利用（民家園全体も含む）をいい、規則第 18 条に規定する「資料の館外利用」とは、博物館外における資料の展示、調査又は複製をいう。

(館内利用承認)

第 3 条 館長は、次に掲げるものに、必要な条件を付して規則第 15 条の規定による館内利用を承認するものとする。なお、図書資料については、承認を要しない。

- (1) 教育、学術又は文化に関する事業の用に供することを目的とする国、地方公共団体及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 30 条に規定する教育機関
- (2) その他館長が特に必要があると認めるもの

- 2 資料の館内利用をしようとする者は、「資料館内利用承認申請書」（様式第 1 号）を提出しなければならない。この場合において、寄託資料又は著作権のある資料の館内利用をしようとする者は、寄託者又は著作権者の承諾書を添えて提出しなければならない。
- 3 民家資料の利用は、利用期日の 10 日前までに「民家資料利用承認申請書」（様式第 2 号）に利用計画書を添付し提出しなければならない。ただし、写真撮影等軽微なものについてはこの限りでない。
- 4 民家資料の利用承認は、「民家資料利用承認書」（様式第 3 号）を交付し、「民家資料利用受付台帳」（様式第 4 号）に記録する。

（館内利用時間）

第 4 条 利用時間は、午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分までとする。ただし、規則第 8 条の規定による休館日は除く。

（館内利用の制限）

第 5 条 館長は、規則第 15 条の承認を行うにあたり、次の各号の一に該当しないと認める場合に承認するものとする。

- (1) 申請書の内容に偽りがあると認められるもの
- (2) 展示又は保存上支障があると認められるもの
- (3) 寄託者又は著作権者の承諾が得られていないもの
- (4) 公の秩序又は風俗を乱すおそれがあると認められるもの
- (5) 火気の使用（但し、館長の許可を受けた場合を除く）及び営利活動に該当すると認められるもの
- (6) その他館内利用が適当でないと認められるもの

（館内利用者の遵守事項）

第 6 条 利用を承認された者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 承認された利用の目的又は条件に違反しないこと
 - (2) その他館長の指示に従うこと
- 2 前項の規定に反する行為がある者については利用を取り消し、又は中止させることができる。
 - 3 取り消し等によって利用者に損害が生じて、県はその損害の賠償責任を負わないものとする。

（館内利用の場所）

第 7 条 資料の館内利用は、館長が指定した場所で原則として博物館職員立会の下に行うものとする。

（館内利用資料の返還）

第 8 条 資料の館内利用をしたものは、博物館職員による検査を受けた上で、当該資料を返還しなければならない。

（館内利用に要する費用）

第 9 条 資料の館内利用に要する費用は、利用した者が負担するものとする。

（館外利用承認）

第 10 条 館長は、規則第 18 条の規定により資料の館外貸し出しを承認するときは、必要な条件を付するものとする。

- 2 規則第 18 条で規定する学校が、資料の貸出しを受けようとするとき、館長が事前に決裁したリストにある資料については、学芸課長の決裁で貸出しできるものとする。
- 3 寄託資料又は著作権のある資料（複製をする場合に限る）の館外貸出しを受けようとする者は、「資料館外貸出承認申請書」（宮崎県総合博物館管理運営規則様式第 6 号）に寄託者又は著作権者の承諾書を添えて提出しなければならない。

4 第5条、第6条、第8条及び第9条の規定は、資料の館外貸出しについて準用する。

この場合において、これらの規程中「館内利用」とあるのは「館外貸出し」と読み替えるものとする。

(複製物の掲載等の許可)

第11条 館長は、資料の利用者が、資料の複製物を展示し、又は出版物等に掲載しようとするときは、次に掲げる条件を付して許可するものとする。

(1) 複製物の著作権は、博物館に帰属させること

(2) 複製物を展示し、又は出版物等に掲載するときは、「所蔵者名」を明記すること

(3) 出版物等に掲載したときは、その状況を館長に報告すること

(資料受入委員会の設置)

第12条 寄贈及び寄託による資料の受入れの事務を円滑かつ適正に行うために、博物館内に「資料受入委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

2 委員会は、館長及び副館長のほか、館長が指名した博物館職員をもって構成する。

(資料受入れの決定)

第13条 館長は、規則第21条第1項の規定による資料の寄贈又は寄託の申請があったときは、「資料受入委員会審議資料」（様式第5号）を作成させるものとする。

2 委員会は、「資料受入委員会審議資料」に基づき、当該資料の受入れについて協議するものとする。

3 館長は、前項の協議に基づき、当該資料を受入れるかどうかの決定をするものとする。

(寄贈資料等の管理)

第14条 館長は、寄贈資料又は寄託資料を受入れたときは、台帳に登録し、管理するものとする。

2 館長は、寄贈者に対し礼状等を贈り、感謝の意を表するものとする。

3 寄託資料の寄託期間等必要な事項は、寄託者と協議の上、定めるものとする。

(資料の廃棄)

第15条 館長は、次に掲げる場合に限り、資料を廃棄できる。

(1) 破損等により資料価値を失ったもの

(2) その他廃棄が相当と認められるもの

(その他)

第16条 この要綱に定めるもののほか、事務処理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成3年4月1日から適用する。

：

附 則

この要綱は、令和元年7月18日から適用する。

(7) 宮崎県総合博物館資料取扱要綱の運用

宮崎県総合博物館資料取扱要綱第16条に基づく資料の館内利用の取扱いについては、以下のとおりとする。

1 第3条（館内利用承認）について

民家資料利用事業としての民家資料の利用については、次のとおりとする。

(1) 対象者

個人又は団体（法人格の有無を問わない）

(2) 申請内容

民家園を利用する事業内容であるものとする。ただし、同要綱第5条に掲げる制限事項に該当するものを除く。

(3) 利用期間

民家園は、広く一般県民の利用に供することを目的としていることから、原則として3日以内とする。ただし、展示を事業内容とするものについては、個別に協議を行うものとする。

(4) 利用人数

(3)と同様の理由により、原則として5人以上の利用が見込まれる事業とする。なお、事業への一般来園者の参加の可否を問わない。

(5) 対象施設

文化財保護及び一般来園者の見学先の確保の観点から、原則として県指定文化財の2棟のいずれかとする。また、利用人員や事業内容から判断して、必要最小限の棟又は間の利用を認めるものとする。

(6) 飲食

申請書の利用承認条件「建物内での飲食は事前に許可を受けること」については、次のとおりとする。

- ・ 飲食物については、事業内容に伴い必然性のあるものに限る。
- ・ 火気による調理は不可（料理の持ち込み及び電気調理器による加温は可）。また、飲食物をこぼして畳を汚した場合は、利用者において直ちに拭き取ることとし、利用によって原状に回復し得ない損害が生じた場合は、利用者が賠償責任を負うものとする。

(7) その他

- ・ 民家園の適切な利用と利用方法の周知のため、事業を公開するものとする。

2 第5条（館内利用の制限）について

第5号中「営利活動に該当すると認められるもの」について、事業実施に当たり実費程度の徴収を行うものは、営利活動には該当しない。

資料館内利用承認申請書

令和 年 月 日

宮崎県総合博物館長 殿

住所

申請者

氏名

資 料 名	
利 用 日 時	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで
利 用 目 的	
利 用 内 容	1 閲覧のみ 2 筆写 3 模写 4 拓本（乾・湿） 5 撮影（写真・ビデオ） 6 コピー 7 法量測定 8 その他（)
許 可 条 件	1 利用にあたって、鉛筆以外の筆記用具は使用しないこと。 2 当該資料については、無断で他への転用をしないこと。 3 複製物を展示し、又は出版物等に掲載するときは、所蔵者名を明記すること。 4 出版物等に掲載したときは、その状況を館長に報告すること。 5 その他（)

上記申請のあった館内利用について承認します。

令和 年 月 日

宮崎県総合博物館長 印

民 家 資 料 利 用 承 認 申 請 書

宮崎県総合博物館長 殿

令和 年 月 日

申請者	住 所
	団 体 名
	(代表者) 氏名
	電 話 ()

下記のとおり利用を承認されるよう申請します。

行事の名称	
利 用 目 的	(事業計画書等添付)
利 用 期 間	令和 年 月 日 時 分 から 令和 年 月 日 時 分 まで
利 用 区 分	A・旧黒木家 B・旧藤田家 C・米良の民家 D・椎葉の民家 E・建物を除く敷地
利用予定者数	主催者数 () 人 参加者数 () 人 合 計 () 人
チラシ配布・ 看板設置	する しない (図案、計画書等添付)
利用承認条件	1 利用の目的、条件に違反しないこと。 2 館長の指示に従うこと。 ・開始前及び終了後は博物館へ必ず報告し、終了後は検査を受け、原状に回復すること。 ・展示、建物の保存に影響を及ぼす行為をしないこと。 ・公の秩序又は風俗を乱す行為をしないこと。 ・火気の使用及び営利活動をしないこと。 ・建物内での飲食は事前に許可を受けること。 ・監視員を必要とする場合は利用者が手配し配置すること。 ・看板、チラシ、照明器具を設置するときは博物館の許可を得て設置すること。 ・大声をあげたり、大きな音を出したりしないこと。 3 規定に反する行為があるものは利用を取消し又は中止させることができる。 4 取消し等によって利用者に損害が生じても県はその損害の賠償責任を負わない。 5 不測の事態が生じたときは直ちに博物館へ報告すること。また盗難、事故等には博物館は一切責任を負わない。 6 その他 ()

＜令和３年度 利用案内＞

開 館 時 間 午前９時～午後５時（入館は午後４時３０分まで）

休 館 日 ○毎週火曜日（ただし５月４日、８月１０日は開館）
○国民の祝日の翌日
（土曜日、日曜日又は休日と重なるときを除く、ただし３月２２日は開館）
○年末年始（１２月２８日～１月４日）
○特別整理期間（６月７日～７月１１日）
○燻蒸による臨時休館（９月１３日～２４日）
※民家園は９月１０日～１４日休園
○館内メンテナンス期間（２月１日～８日）

入 館 料 無料（平成１７年４月１日より）
※なお、特別展示会の観覧料はその都度定めます。

宮 崎 県 総 合 博 物 館 年 報 No.51

発行 令和４年４月１日

編集・発行者 **宮崎県総合博物館**

〒880-0053 宮崎市神宮２丁目４番４号

TEL 0985(24)2071

FAX 0985(24)2199

<http://www.miyazaki-archive.jp/museum/>

印刷 ワークステーション やじろべえ

〒880-0951 宮崎市大塚町権現前 874 番地 1

TEL 0985-48-2720